

令和6年度 福島市社会福祉審議会

第4回 地域福祉専門分科会

日 時：令和7年1月31日（金）
午後2時～
場 所：市役所7階 701会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）福島市地域福祉計画2026
市民アンケート調査の結果について

（2）福島市地域福祉計画2026「骨子（案）」について

（3）その他

4 閉 会

福島市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 名簿

No	団体名（推薦団体）等	役職	氏名	備考
1	福島学院大学	教 授	えんどう としみ 遠藤 寿海	
2	福島市民生児童委員会長連絡会	会 長	あべ まさお 安部 正夫	
3	福島市手をつなぐ親の会		すがの みちこ 菅野 美智子	
4	福島市町内会連合会	会 長	さとう まもる 佐藤 守	
5	福島市老人クラブ連合会	会 長	すずき やすお 鈴木 泰雄	
6	福島市地域包括支援センター連絡協議会		たかはし くみこ 高橋 久美子	
7	福島市ボランティア連絡協議会	副会長	たけだ よしこ 武田 淑子	
8	福島商工会議所		たちばな ゆりこ 立花 由里子	
9	福島市学童クラブ連絡協議会	会 長	やまだ かずえ 山田 和江	
10	学生代表（福島学院大学）		さとう まなか 佐藤 愛花	

（敬称略 任期：令和6年4月1日～令和9年3月31日）

【事務局】

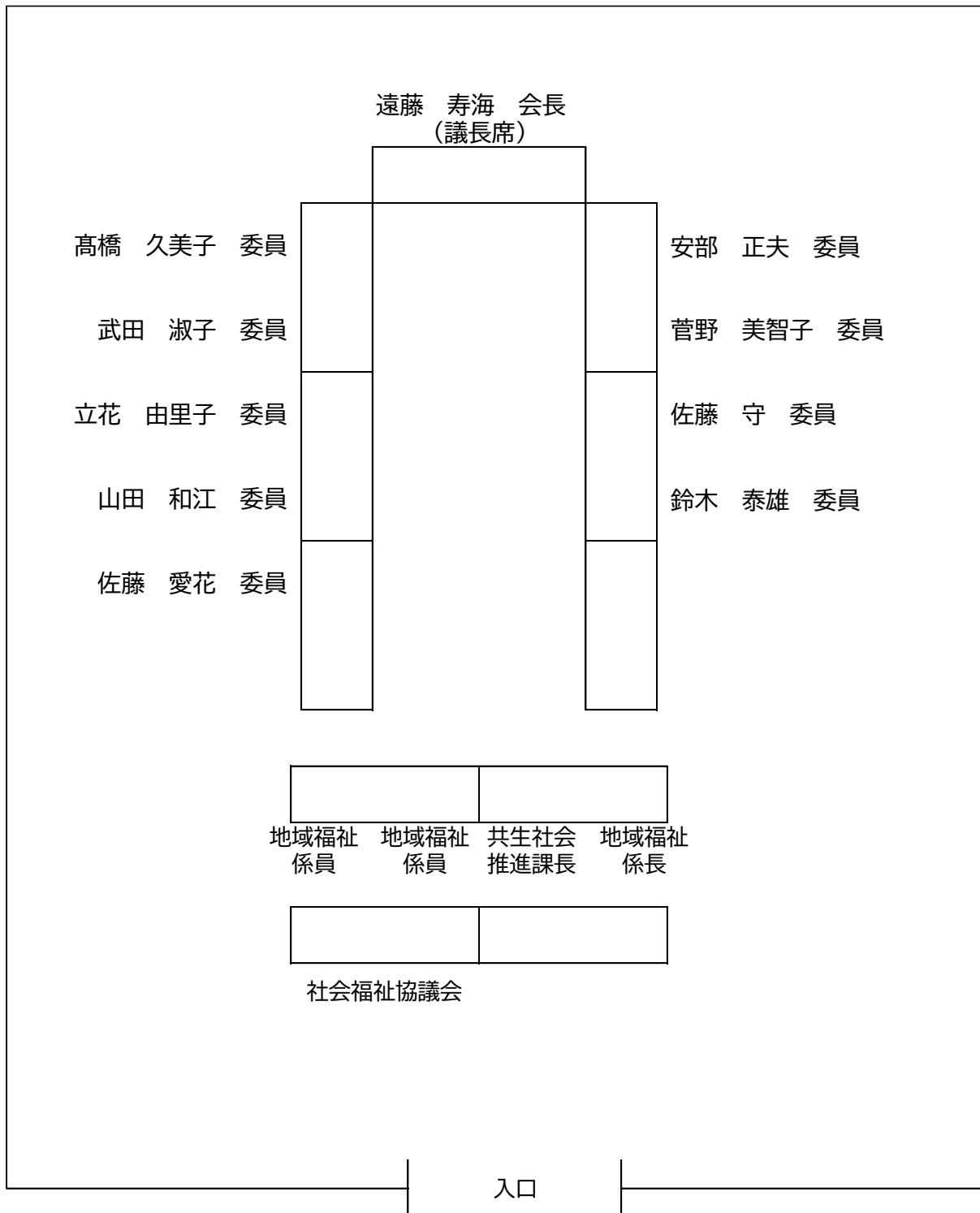
No	部署名	役職	氏名
1	共生社会推進課	課長	中野 貴幸
2		課長補佐兼地域福祉係長	清野 博光
3		地域福祉係 主査	菊池 孝幸
4		地域福祉係 主事	丹治 美優

【社会福祉法人 福島市社会福祉協議会】

No	部署名	役職	氏名
1	総務課地域福祉係	課長補佐兼係長	佐藤 謙一郎
2		社会福祉士	山川 ももこ
3		社会福祉士	鈴木 晶

令和6年度 第4回福島市地域福祉専門分科会 会場配置図

令和7年1月31日（金）
市役所7階「701会議室」



3 協議事項

(1) 福島市地域福祉計画2026市民アンケート調査の結果について

(2) 福島市地域福祉計画2026「骨子(案)」について

(3) その他

福島市社会福祉審議会条例

(趣旨)

第一条 この条例は、社会福祉法（昭和二十六年法律第四十五号。以下「法」という。）

第七条第一項の規定に基づき設置する福島市社会福祉審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第二条 審議会は、次に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 法第七条第一項に規定する社会福祉に関する事項（同法第十二条第一項に規定する児童福祉に関する事項を含む。）
- (2) 子ども・子育て支援法（平成二十四年法律第六十五号）第七十七条第一項各号に掲げる事項
- (3) 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）第十七条第三項、第二十一条第二項及び第二十二条第二項に関する事項
- (4) 前三号に掲げるもののほか、社会福祉について市長が必要と認める事項

(任期等)

第三条 委員の任期は、三年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。
- 3 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。
- 4 前項の臨時委員は、その者の委嘱に係る特別の事項の調査審議が終了したときは、解職されるものとする。

(委員長及び副委員長)

第四条 法第十条の規定により、審議会に委員長を置くものとする。

- 2 委員長を補佐させるため、審議会に副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第五条 審議会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員長は、委員の四分の一以上が審議すべき事項を示して審議会の会議の招集を請求したときは、審議会の会議を招集しなければならない。
- 3 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 4 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 第三条第三項の規定により臨時委員を置いた場合における前二項の規定の適用については、臨時委員は、委員とみなす。

(専門分科会)

第六条 審議会に、社会福祉における専門的な事項を調査審議等するため、次に掲げる専門分科会を置く。

- (1) 民生委員審査専門分科会
 - (2) 障がい者福祉専門分科会
 - (3) 地域福祉専門分科会
 - (4) 高齢者福祉専門分科会
 - (5) 児童福祉専門分科会
- 2 市長は、前項に掲げるもののほか、必要に応じ、審議会に専門分科会を置くことができる。
 - 3 民生委員審査専門分科会に属すべき委員は、社会福祉法施行令（昭和三十三年政令第百八十五号）第二条第一項の規定に基づき委員長が指名する。
 - 4 専門分科会（民生委員審査専門分科会を除く。）に属すべき委員及び臨時委員は、委員長が指名する。
 - 5 専門分科会に専門分科会長を置き、その専門分科会に属する委員及び臨時委員（民生委員審査専門分科会にあっては、委員に限る。第七項において同じ。）の互選によりこれを定める。
 - 6 専門分科会長は、その専門分科会の事務を掌理する。
 - 7 専門分科会長に事故があるとき、又は専門分科会長が欠けたときは、専門分科会長があらかじめ指名する委員又は臨時委員が、その職務を代理する。
 - 8 前条第一項及び第三項から第五項までの規定（民生委員審査専門分科会にあっては、第五項を除く。）は、専門分科会の会議について準用する。この場合において、同条第一項、第三項及び第四項中「審議会」とあるのは「専門分科会」と、同条第一項中「委員長」とあるのは「専門分科会長」と、同条第三項及び第四項中「委員」とあるのは「専門分科会に属する委員」と、同条第五項中「委員と」とあるのは「専

門分科会に属する委員と」と読み替えるものとする。

- 9 専門分科会（民生委員審査専門分科会を除く。）の決議は、これをもって審議会の決議とすることができます。ただし、重要又は異例な事項に関する決議にあっては、この限りでない。
- 10 障がいのある人も共にいきいきと暮らせる福島市づくり条例（令和二年条例第十一号）第十四条第一項に規定する推進委員会の決議は、これをもって障がい者福祉専門分科会の決議とすることができます。ただし、重要又は異例な事項に関する決議にあっては、この限りでない。

（委任）

第七条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が審議会に諮って定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、平成三十年四月一日から施行する。
(福島市子ども・子育て会議条例の廃止)
- 2 福島市子ども・子育て会議条例（平成二十五年条例第三十一号）は、廃止する。
(特別職の職員で非常勤のものの報酬等に関する条例の一部改正)
- 3 特別職の職員で非常勤のものの報酬等に関する条例（昭和三十一年条例第二十三号）の一部改正（略）
(福島市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正)
- 4 福島市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成二十六年条例第三十五号）の一部改正（略）
(福島市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正)
- 5 福島市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成二十六年条例第三十七号）の一部改正（略）

附 則（令和二年三月三一日条例第一一号抄）

（施行期日）

- 1 この条例は、令和二年四月一日から施行する。

「つながり・支え合いのある地域共生社会」を考える

福島市の“地域福祉”推進のための
アンケート調査報告書

令和7年（2025年）3月

福島市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査の設計	2
3 回収結果	2
4 留意点	2
5 サンプル数と標本誤差（信頼水準）	3
II 調査の結果	4
1 基本属性	5
2 人との「つながり」について	7
3 地域での支え合い・助け合いについて	23
4 情報収集の方法について	42
5 孤立・孤独について	50
6 防犯・再犯防止について	56
7 その他	62
III アンケート調査票	74

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「福島市地域福祉計画2026」の策定に向けて、地域やその地域に居住する住民の生活課題を的確に把握し、地域ごとの多様なニーズを計画に反映することを目的に実施しました。

2 調査の設計

項目	内 容
調査対象	令和6年9月末時点の市内在住の18歳以上の男女 2,500人
抽出方法	年齢別按分による無作為抽出
配布・回収方法	【配布】調査票による郵送 【回収】① 調査票の郵送回答 ② インターネット回答（専用フォーム）
調査項目	① 基本属性 ② 人との「つながり」について ③ 地域での支え合い・助け合いについて ④ 情報収集の方法について ⑤ 孤立・孤独について ⑥ 防犯・再犯防止について ⑦ その他
調査期間	令和6年10月30日～11月20日

3 回収結果

項目	内 容
配 布	2,500件
回 収 件 数	966件（郵送：711件、インターネット：255件）
回 収 率	38.6%

4 留意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示します。
- 図表の「回答者」は、構成比算出の母数（回答者数）を示します。
- 構成比（百分率）は、母数（回答者数または回答限定設問は該当者数）を100%として算出します。なお、本文及び図表の数字は小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位で示しているため、選択肢の比率の合計が100%にならない場合、複数回答の設問は100%を超える場合があります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表では省略している場合があります。

- 限定設問やクロス集計等における母数の少ない調査結果は統計的誤差の大きい場合があり、結果及び数値の取扱いには特に留意する必要があります。
- 限定設問や複数回答では、「無回答」を非表示としています。
- クロス集計では、「その他」「無回答」を非表示としています。

5 サンプル数と標本誤差（信頼水準）

国などが行っている標本調査においては、信頼水準（正しく判断できる確率）を95%として調査の設計が行われていますが、その場合の必要な「サンプル数」は384となっています。本調査に当てはめた場合、回収したサンプル数が966であるため、より信頼性の高い調査であると言えます。

また、本調査における標本誤差(※)について、統計局が推奨する計算方法により回収率40%と想定し算出した場合、その誤差は±3.15%となり、36.85%～43.15%の誤差であれば信頼水準95%以上であると言えます。今般の調査結果に当てはめた場合、回収率が38.6%であるため、信頼できる結果であると言えます。

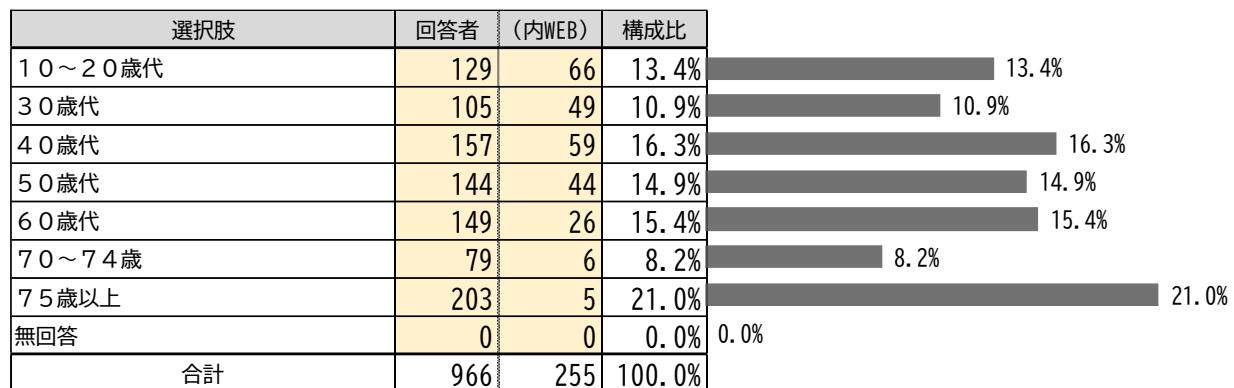
※「標本誤差」

全体の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを言います。

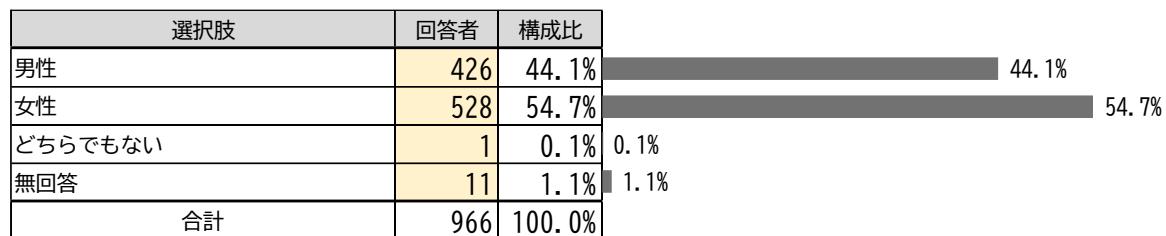
II 調査の結果

1 基本属性（はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。）

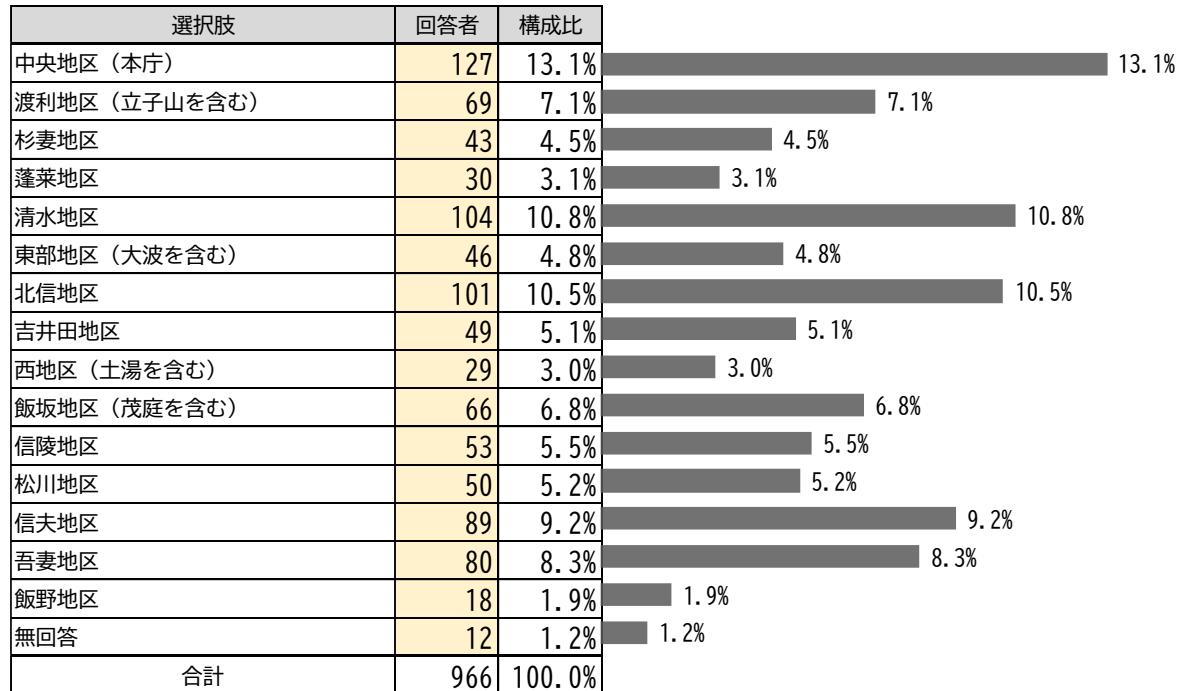
問1 あなたの年齢はいくつですか。(○は一つ) ※令和6年10月1日現在



問2 あなたの性別をおしえてください。(○は一つ)



問3 あなたのお住まいの地区をおしえてください。(○は一つ)



問4 あなたの職業をおしえてください。(○は一つ)

選択肢	回答者	構成比
正規の社員・職員	321	33.2%
派遣・嘱託・契約社員	45	4.7%
パート・アルバイト	117	12.1%
自営業（家事手伝い含む）	63	6.5%
会社役員	22	2.3%
学生	34	3.5%
専業主婦・主夫	117	12.1%
無職	243	25.2%
無回答	4	0.4%
合計	966	100.0%

問5 あなたの家族構成をおしえてください。(○は一つ)

選択肢	回答者	構成比
単身世帯	129	13.4%
1世代世帯	299	31.0%
2世代世帯	457	47.3%
3世代世帯	62	6.4%
その他	14	1.4%
無回答	5	0.5%
合計	966	100.0%

問6 あなたのお住まいの居住形態をおしえてください。(○は一つ)

選択肢	回答者	構成比
持ち家（一戸建て）	700	72.5%
持ち家（集合住宅）	45	4.7%
民間賃貸（一戸建て）	35	3.6%
民間賃貸（集合住宅）	137	14.2%
公営住宅（市営・県営等）	22	2.3%
社宅・公務員住宅等	14	1.4%
その他	10	1.0%
無回答	3	0.3%
合計	966	100.0%

2 人の「つながり」について

問7 近所の人とどの程度お付き合いがありますか。(○は一つ)

「立ち話やあいさつを交わす程度」(62.9%)が最も多く、全体の6割以上を占めています。次いで「顔を知っているが、声をかけることはほとんどない」(13.8%)、「家を行き来するなど親しい関係」(11.6%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
家を行き来するなど親しい関係	112	11.6%	11.6%
立ち話やあいさつを交わす程度	608	62.9%	62.9%
顔を知っているが、声をかけることはほとんどない	133	13.8%	13.8%
ご近所付き合いはしていない	107	11.1%	11.1%
無回答	6	0.6%	0.6%
合計	966	99.4%	

【問7】近所の人とどの程度お付き合いがありますか。（○は一つ）

		回答者数	し家 いを 関 係 き 來 する など 親	わ立 すち 程 度 や あ い さ つ を 交	ど を 顔 か を 知 つ て こ い る こ と は ほ ん 声	い ご な 近 所 付 き 合 い は し て
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		960	112	608	133	107
年齢	10～20歳代	129	3	54	31	41
	30歳代	105	4	62	20	19
	40歳代	155	9	102	25	19
	50歳代	144	8	105	21	10
	60歳代	148	13	113	16	6
	70～74歳	79	17	52	9	1
	75歳以上	200	58	120	11	11
性別	男性	426	55	263	63	45
	女性	522	57	336	67	62
	どちらでもない	1	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	127	5	75	24	23
	渡利地区（立子山を含む）	68	11	40	11	6
	杉妻地区	43	4	22	11	6
	蓬萊地区	30	2	25	1	2
	清水地区	103	8	74	11	10
	東部地区（大波を含む）	45	9	30	5	1
	北信地区	100	11	63	15	11
	吉井田地区	49	5	32	7	5
	西地区（土湯を含む）	29	6	16	2	5
	飯坂地区（茂庭を含む）	66	9	45	5	7
	信陵地区	52	5	36	6	5
	松川地区	50	10	29	7	4
	信夫地区	89	7	57	14	11
	吾妻地区	80	12	52	8	8
	飯野地区	18	8	5	5	0
職業	正規の社員・職員	319	19	182	61	57
	派遣・嘱託・契約社員	45	1	30	5	9
	パート・アルバイト	117	10	88	13	6
	自営業（家事手伝い含む）	63	12	49	1	1
	会社役員	22	4	15	3	0
	学生	34	0	20	8	6
	専業主婦・主夫	116	16	84	9	7
	無職	240	49	138	33	20
家族構成	単身世帯	126	13	60	17	36
	1世代世帯	297	41	185	39	32
	2世代世帯	457	48	307	70	32
	3世代世帯	62	6	47	7	2
居住形態	持ち家（一戸建て）	697	103	478	85	31
	持ち家（集合住宅）	45	1	29	7	8
	民間賃貸（一戸建て）	35	4	19	8	4
	民間賃貸（集合住宅）	135	3	49	31	52
	公営住宅（市営・県営等）	22	0	19	2	1
社宅・公務員住宅等		14	1	9	0	4

問7-1 上記問7で(3)または(4)とした一番の理由はなんですか。(○は一つ)

問7の「顔を知っているが、声をかけることはほとんどない」「ご近所付き合いはしていない」と答えた方の内、「普段、付き合う機会がない」(55.0%)が最も多い、全体の5割以上を占めています。次いで「あまり関わりをもちたくない」(14.6%)、仕事や学業、家事、育児などで忙しく時間がない」(11.3%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
仕事や学業、家事、育児などで忙しく時間がない	27	11.3% 11.3%
引っ越してきて間もない	7	2.9% 2.9%
普段、付き合う機会がない	132	55.0% 55.0%
同世代の人が近くにいない	13	5.4% 5.4%
気の合う人や話の合う人が近くにいない	14	5.8% 5.8%
あまり関わりをもちたくない	35	14.6% 14.6%
その他	11	4.6% 4.6%
無回答	1	0.4% 0.4%
合計	240	100.0%

【「その他」の回答】

- アパートなのであまり人と会わない。(30歳代 女性)
- 身体が不自由である。(75歳以上 女性)
- 人間関係が一番怖いです。恐怖を感じます。(70~74歳 女性)
- 私は付き合いがないが、両親は付き合いがある。(40歳代 女性)

【問7-1】問7で(3)または(4)とした一番の理由はなんですか。(○は一つ)

		回答者数	な児仕 いな事 どや で学 忙業、 し く家 時事、 が育	い引 つ 越 して きて 間もな	な普 段、 付 き合 う 機 会 が	な同 世 代 の 人 が 近 く に い	人 気 が 近 く に い な い 話 の 合 う	くあ ま い 関 わ り を も ち た
・単位:回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		228	27	7	132	13	14	35
年齢	10~20歳代	70	8	2	47	8	0	5
	30歳代	38	4	4	18	1	1	10
	40歳代	43	6	0	24	1	3	9
	50歳代	29	8	0	15	1	3	2
	60歳代	22	1	0	15	1	3	2
	70~74歳	9	0	1	5	0	1	2
	75歳以上	17	0	0	8	1	3	5
性別	男性	104	10	5	61	7	6	15
	女性	121	17	2	71	5	7	19
	どちらでもない	1	0	0	0	1	0	0
居住地区	中央地区(本庁)	45	3	1	32	2	2	5
	渡利地区(立子山を含む)	16	1	1	13	0	1	0
	杉妻地区	17	2	0	10	0	0	5
	蓬莱地区	3	2	0	0	0	1	0
	清水地区	20	3	1	9	2	1	4
	東部地区(大波を含む)	6	1	0	2	1	0	2
	北信地区	24	2	1	16	2	2	1
	吉井田地区	11	1	1	6	1	0	2
	西地区(土湯を含む)	7	2	0	2	0	0	3
	飯坂地区(茂庭を含む)	11	2	0	6	1	1	1
	信陵地区	11	0	0	7	0	2	2
	松川地区	9	0	1	3	1	0	4
	信夫地区	24	3	1	14	1	2	3
	吾妻地区	16	2	0	10	2	0	2
	飯野地区	5	3	0	0	0	1	1
職業	正規の社員・職員	116	19	5	72	4	1	15
	派遣・嘱託・契約社員	13	1	0	7	1	1	3
	パート・アルバイト	18	1	1	8	2	2	4
	自営業(家事手伝い含む)	2	1	0	0	0	1	0
	会社役員	3	0	0	2	1	0	0
	学生	14	5	0	8	1	0	0
	専業主婦・主夫	16	0	0	10	0	4	2
	無職	45	0	1	24	4	5	11
家族構成	単身世帯	47	5	1	31	2	3	5
	1世代世帯	71	6	2	45	1	4	13
	2世代世帯	99	14	4	53	9	6	13
	3世代世帯	9	2	0	3	0	1	3
居住形態	持ち家(一戸建て)	111	17	2	57	9	11	15
	持ち家(集合住宅)	15	1	0	10	0	0	4
	民間賃貸(一戸建て)	12	2	1	4	1	1	3
	民間賃貸(集合住宅)	81	6	3	57	3	1	11
	公営住宅(市営・県営等)	3	0	0	1	0	1	1
	社宅・公務員住宅等	4	1	1	2	0	0	0

問8 日常生活で主にどのような悩みや不安がありますか。(○は三つまで)

「自分の仕事・将来・老後に関すること」(24.7%)が最も多く、次いで「自分の・健康・病気に関すること」(22.6%)、「お金(生活費、財産管理、相続など)に関するここと」(20.8%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
自分の健康・病気に関すること	470	22.6%
自分の仕事・将来・老後に関すること	515	24.7%
自分の子どもの育児や教育に関すること	156	7.5%
自分の住まいに関するここと	90	4.3%
お金(生活費、財産管理、相続など)に関するここと	433	20.8%
人間関係、人との付き合い方に関するここと	79	3.8%
家族の介護に関するここと	173	8.3%
自分や家族のひきこもりに関するここと	20	1.0%
その他	19	0.9%
特にない	126	6.1%
合計	2081	100.0%

【「その他」の回答】

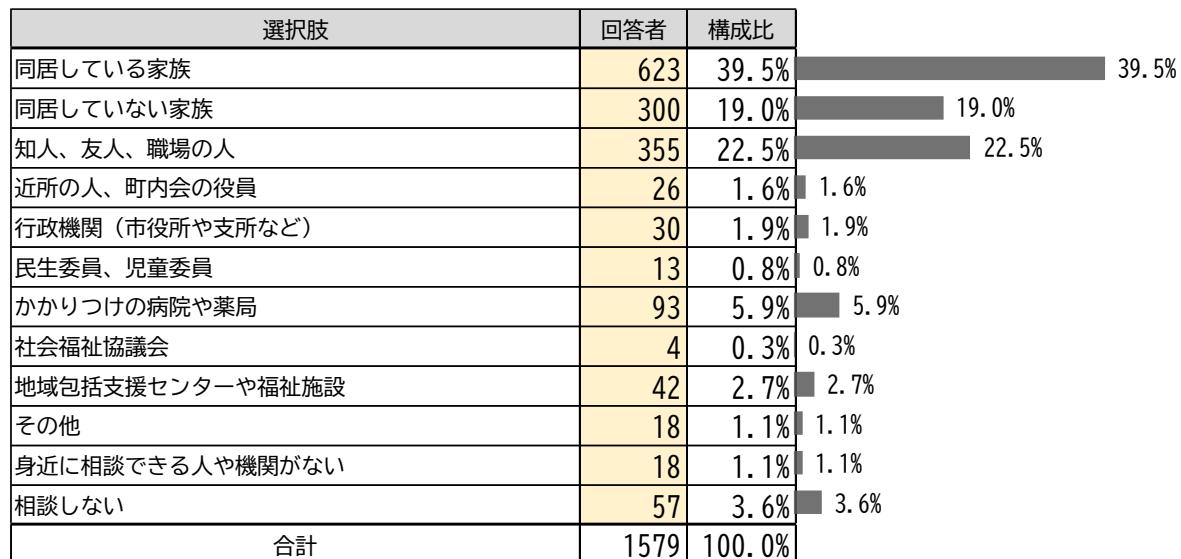
- 住居地の交通状況の不安 (40歳代 女性)
- 年老いてきた両親の免許返納問題 (30歳代 女性)
- 福島は性別の多様性がないので生きにくい。近所も同じ。 (10~20歳代)
- 地区内の班長など年度毎に回ってくる事。町内会の必要性を全く感じない。わざわしいし、むしろ迷惑。 (40歳代 男性)
- 日本の未来、子ども達の将来。 (40歳代 女性)

【問8】日常生活で主にどのような悩みや不安がありますか。（○は三つまで）

		回答者数	自分の健康・病気に関すること	自分の仕事に関すること・将来・老	教育に子供を育てるなどの関すること	自分の住まいに関すること	理、お金のこと（相続など）	人間関係、人との付き合い方に関すること	と家族の介護に関すること	り自分や家族のこと（ひきこも）	特にない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示											
全体		2062	470	515	156	90	433	79	173	20	126
年齢	10～20歳代	256	22	84	21	5	77	17	10	1	19
	30歳代	247	34	64	48	7	61	14	15	0	4
	40歳代	391	63	102	68	13	77	14	32	7	15
	50歳代	334	61	97	10	20	66	15	44	4	17
	60歳代	317	94	83	4	15	64	5	33	1	18
	70～74歳	153	50	31	2	12	29	4	8	2	15
	75歳以上	364	146	54	3	18	59	10	31	5	38
性別	男性	885	218	204	61	40	188	27	71	9	67
	女性	1151	244	305	95	48	240	50	100	11	58
	どちらでもない	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	257	57	70	23	8	46	7	22	1	23
	渡利地区（立子山を含む）	148	37	29	10	12	28	6	13	3	10
	杉妻地区	91	22	21	6	4	22	1	8	0	7
	蓬莱地区	59	17	10	3	2	16	2	4	1	4
	清水地区	223	47	56	22	6	38	14	21	4	15
	東部地区（大波を含む）	111	26	29	6	8	26	4	8	1	3
	北信地区	209	46	52	17	8	47	5	16	3	15
	吉井田地区	111	29	28	9	4	26	5	6	0	4
	西地区（土湯を含む）	56	16	16	2	1	9	2	5	0	5
	飯坂地区（茂庭を含む）	137	30	35	8	4	26	5	17	0	12
	信陵地区	121	25	32	12	6	28	8	9	0	1
	松川地区	103	21	27	8	9	25	2	6	1	4
	信夫地区	202	40	54	21	8	44	7	18	2	8
	吾妻地区	169	45	39	8	7	39	6	17	3	5
	飯野地区	34	7	9	0	1	6	1	3	1	6
職業	正規の社員・職員	732	104	204	97	26	172	28	66	7	28
	派遣・嘱託・契約社員	109	19	35	6	4	28	6	7	1	3
	パート・アルバイト	281	58	82	20	16	66	13	17	0	9
	自営業（家事手伝い含む）	133	33	36	9	6	24	3	13	2	7
	会社役員	41	9	10	1	2	6	0	8	0	5
	学生	60	4	22	1	0	15	5	4	0	9
	専業主婦・主夫	232	72	50	18	6	35	6	23	4	18
	無職	467	167	74	4	30	86	18	35	6	47
家族構成	単身世帯	248	67	70	4	15	53	10	6	1	22
	1世代世帯	622	183	136	26	31	118	21	66	3	38
	2世代世帯	1029	182	273	113	39	226	42	85	14	55
	3世代世帯	129	29	32	13	3	30	4	11	1	6
居住形態	持ち家（一戸建て）	1481	357	369	103	62	297	54	135	13	91
	持ち家（集合住宅）	94	20	27	6	6	19	2	10	0	4
	民間賃貸（一戸建て）	77	15	20	6	4	19	1	5	1	6
	民間賃貸（集合住宅）	302	53	73	32	14	72	18	17	5	18
	公営住宅（市営・県営等）	52	11	11	5	3	12	3	3	1	3
	社宅・公務員住宅等	37	6	13	4	1	10	0	3	0	0

問8－1 日常生活の悩みや不安は、主に誰と相談しますか。(○は三つまで)

「同居している家族」(39.5%)が最も多い、次いで「知人、友人、職場の人」(22.5%)、「同居していない家族」(19.0%)となっています。



【「その他」の回答】

- 家内が亡くなつて一人なので、その時にならぬと分からぬ。(75歳以上 男性)
- ネットで調べる。(10~20歳代 女性)

【問8-1】日常生活の悩みや不安は、主に誰と相談しますか。（○は三つまで）

・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		回答者数	同居している家族	同居していない家族	知人、友人、職場の人	員近所の人、町内会の役	所行政機関（市役所や支	民生委員、児童委員	局かかりつけの病院や薬	社会福祉協議会	や地域福祉包括支援センター	機身近がに相談できる人や	相談しない
全体		1561	623	300	355	26	30	13	93	4	42	18	57
年齢	10～20歳代	182	78	24	59	0	1	0	6	0	1	3	10
	30歳代	177	75	40	45	0	4	0	2	0	2	1	8
	40歳代	279	119	57	80	2	3	1	9	0	0	1	7
	50歳代	232	89	43	66	4	4	1	6	0	8	4	7
	60歳代	240	96	47	58	3	4	1	15	1	3	3	9
	70～74歳	127	54	18	18	5	1	1	15	0	5	3	7
	75歳以上	324	112	71	29	12	13	9	40	3	23	3	9
性別	男性	656	289	105	121	18	19	5	46	2	14	9	28
	女性	888	330	190	233	7	10	8	46	2	27	8	27
	どちらでもない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	207	77	46	51	2	4	2	13	1	4	0	7
	渡利地区（立子山を含む）	103	40	20	25	2	4	1	3	0	2	1	5
	杉妻地区	74	26	19	19	1	0	1	2	0	2	0	4
	蓬莱地区	50	20	6	6	3	3	0	7	0	4	0	1
	清水地区	165	71	32	41	1	2	0	4	1	3	0	10
	東部地区（大波を含む）	76	33	15	17	0	2	0	5	0	1	1	2
	北信地区	162	60	28	44	3	2	1	10	0	7	2	5
	吉井田地区	83	37	14	14	2	1	1	10	0	1	0	3
	西地区（土湯を含む）	39	16	7	6	2	1	1	1	0	2	0	3
	飯坂地区（茂庭を含む）	106	46	18	23	1	1	0	7	0	6	2	2
	信陵地区	82	32	21	20	0	2	1	1	0	1	3	1
	松川地区	79	30	16	17	0	3	1	2	0	2	2	6
	信夫地区	155	67	28	36	2	2	1	10	0	3	3	3
職業	吾妻地区	134	50	22	26	6	2	2	16	1	3	1	5
	飯野地区	20	11	4	3	0	0	0	0	0	1	1	0
	正規の社員・職員	526	218	102	162	4	4	1	10	0	3	4	18
	派遣・嘱託・契約社員	67	30	10	20	0	0	0	4	0	0	0	3
	パート・アルバイト	200	75	42	54	1	5	0	8	0	6	1	8
	自営業（家事手伝い含む）	109	47	19	24	2	6	3	4	0	0	1	3
	会社役員	32	13	5	8	1	0	0	2	0	0	1	2
家族構成	学生	41	18	3	16	0	0	0	2	0	0	0	2
	専業主婦・主夫	188	80	43	31	2	4	1	14	0	6	2	5
	無職	393	140	75	39	16	11	8	48	4	27	9	16
	単身世帯	187	4	71	59	6	6	8	11	0	9	5	8
	1世代世帯	502	233	97	82	5	8	2	33	3	20	2	17
	2世代世帯	749	338	119	182	9	13	1	37	0	13	10	27
	3世代世帯	96	42	10	29	4	1	0	8	0	0	1	1
居住形態	持ち家（一戸建て）	1124	478	198	237	23	18	10	75	2	30	13	40
	持ち家（集合住宅）	71	26	13	19	0	1	0	4	0	3	1	4
	民間賃貸（一戸建て）	61	20	9	12	1	5	2	6	0	1	1	4
	民間賃貸（集合住宅）	227	74	56	76	2	3	1	3	1	3	1	7
	公営住宅（市営・県営等）	41	13	12	6	0	2	0	3	1	2	1	1
	社宅・公務員住宅等	23	11	7	3	0	0	0	1	0	0	1	0

問8-2 「相談しない」主な理由はなんですか。(○は三つまで)

問8-1の「相談しない」と答えた方の内、「相談する必要性を感じない」(25.5%)が最も多く、次いで「面倒である」(19.0%)、「相談するのに気が引ける」(17.4%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
相談窓口がわからない	21	11.4% 11.4%
相談するのに気が引ける	32	17.4% 17.4%
相談窓口が遠い	11	6.0% 6.0%
個人情報の扱いに不安がある	19	10.3% 10.3%
面倒である	35	19.0% 19.0%
相談する必要性を感じない	47	25.5% 25.5%
その他	19	10.3% 10.3%
合計	184	100.0%

【「その他」の回答】

- なかなか状況を理解してもらえないと思うから。 (30歳代 女性)
- わかってもらえない。 (10~20歳代)
- 自分で判断できる。 (75歳以上 男性)
- 相談してもどうにもならない。 (60歳代 女性)
- 結局は自分で解決するしかない。 (75歳以上 女性)
- 聞いてもらえたと感じた経験が少なく、無駄に思える。 (10~20歳代 女性)
- 時間がない。 (50歳代 女性)

【問8-2】「相談しない」主な理由はなんですか。（○は三つまで）

		回答者数	相談窓口がわからない	る相談するのに気が引け	相談窓口が遠い	が個人情報の扱いに不安	面倒である	な相談する必要性を感じ
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示								
全体		165	21	32	11	19	35	47
年齢	10～20歳代	26	4	6	3	1	7	5
	30歳代	19	2	4	0	2	6	5
	40歳代	17	2	2	1	2	6	4
	50歳代	13	2	3	0	0	1	7
	60歳代	16	2	4	0	2	4	4
	70～74歳	17	1	2	3	1	2	8
	75歳以上	57	8	11	4	11	9	14
性別	男性	91	14	19	7	9	16	26
	女性	66	7	13	4	6	17	19
	どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	16	1	1	1	0	6	7
	渡利地区（立子山を含む）	7	1	1	0	2	0	3
	杉妻地区	9	1	2	0	1	2	3
	蓬莱地区	1	0	0	0	0	0	1
	清水地区	26	4	2	1	5	7	7
	東部地区（大波を含む）	8	1	1	1	0	2	3
	北信地区	19	3	6	2	3	2	3
	吉井田地区	6	2	3	0	0	0	1
	西地区（土湯を含む）	5	2	2	0	1	0	0
	飯坂地区（茂庭を含む）	12	1	3	2	0	4	2
	信陵地区	9	0	1	1	2	3	2
	松川地区	17	1	4	0	2	4	6
	信夫地区	8	1	1	1	0	1	4
	吾妻地区	15	2	3	1	1	4	4
	飯野地区	2	0	1	0	0	0	1
職業	正規の社員・職員	45	6	8	3	3	11	14
	派遣・嘱託・契約社員	7	1	1	1	1	1	2
	パート・アルバイト	11	0	2	0	2	4	3
	自営業（家事手伝い含む）	15	3	0	1	2	3	6
	会社役員	4	1	1	0	0	0	2
	学生	5	1	1	0	0	2	1
	専業主婦・主夫	15	2	4	0	1	4	4
	無職	63	7	15	6	10	10	15
家族構成	単身世帯	20	1	5	4	2	4	4
	1世代世帯	50	9	10	2	7	8	14
	2世代世帯	78	11	17	5	6	17	22
	3世代世帯	10	0	0	0	2	4	4
居住形態	持ち家（一戸建て）	113	15	22	7	9	23	37
	持ち家（集合住宅）	8	0	1	0	2	3	2
	民間賃貸（一戸建て）	9	0	1	0	2	2	4
	民間賃貸（集合住宅）	31	6	7	3	4	7	4
	公営住宅（市営・県営等）	4	0	1	1	2	0	0
	社宅・公務員住宅等	0	0	0	0	0	0	0

問9 地域の催しや行事、活動などに参加していますか。(○は一つ)

「全く参加していない」(34.3%)が最も多く、3割以上を占めています。次いで「たまに参加している」(27.2%)、「あまり参加していない」(24.8%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	（横棒）
よく参加している	121	12.5%	12.5%
たまに参加している	263	27.2%	27.2%
あまり参加していない	240	24.8%	24.8%
全く参加していない	331	34.3%	34.3%
無回答	11	1.1%	1.1%
合計	966	100.0%	

【問9】地域の催しや行事、活動などに参加していますか。（○は一つ）

		回答者数	よく参加している	たまに参加している	あまり参加していない	全く参加していない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		955	121	263	240	331
年齢	10～20歳代	128	4	21	29	74
	30歳代	102	6	30	30	36
	40歳代	156	12	40	40	64
	50歳代	144	17	39	36	52
	60歳代	146	20	44	50	32
	70～74歳	78	21	29	11	17
	75歳以上	201	41	60	44	56
性別	男性	421	58	121	106	136
	女性	522	61	137	133	191
	どちらでもない	1	0	1	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	124	12	32	31	49
	渡利地区（立子山を含む）	68	13	18	13	24
	杉妻地区	43	3	8	9	23
	蓬萊地区	29	6	13	4	6
	清水地区	104	10	31	23	40
	東部地区（大波を含む）	46	7	12	14	13
	北信地区	100	15	36	23	26
	吉井田地区	49	4	6	12	27
	西地区（土湯を含む）	29	5	3	8	13
	飯坂地区（茂庭を含む）	65	9	20	19	17
	信陵地区	52	5	20	16	11
	松川地区	50	8	14	10	18
	信夫地区	88	6	20	29	33
	吾妻地区	79	9	23	24	23
	飯野地区	18	6	6	4	2
職業	正規の社員・職員	317	20	82	79	136
	派遣・嘱託・契約社員	45	4	8	10	23
	パート・アルバイト	116	7	34	40	35
	自営業（家事手伝い含む）	63	15	25	14	9
	会社役員	22	8	6	4	4
	学生	34	1	5	13	15
	専業主婦・主夫	115	20	35	26	34
	無職	239	45	67	53	74
家族構成	単身世帯	125	13	31	24	57
	1世代世帯	296	44	70	74	108
	2世代世帯	454	49	139	123	143
	3世代世帯	61	11	21	12	17
居住形態	持ち家（一戸建て）	697	108	211	183	195
	持ち家（集合住宅）	44	5	9	10	20
	民間賃貸（一戸建て）	32	2	8	10	12
	民間賃貸（集合住宅）	134	2	19	27	86
	公営住宅（市営・県営等）	22	2	9	4	7
社宅・公務員住宅等		14	0	3	4	7

問9－1 地域で主にどのような催しや行事、活動に参加していますか。(○は三つまで)

問9で「よく参加している」「たまに参加している」と答えた方の内、「町内会行事・清掃活動」(44.7%)が最も多く、次いで「地域でのお祭り（夏祭り、花火大会、例大祭など）」(29.1%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
地域でのお祭り（夏祭り、花火大会、例大祭など）	224	29.1%
地区運動会	60	7.8%
町内会行事・清掃活動	344	44.7%
地域のサークル、コミュニティ、サロン活動	41	5.3%
老人クラブ活動	28	3.6%
学習センター主催の各種行事・講座	53	6.9%
その他	20	2.6%
合計	770	100.0%

【「その他」の回答】

- 同じ趣味を持つ人とのイベントを自分で主催している。 (50歳代 女性)
- 学習センターの登録団体で週1回活動している。 (75歳以上 男性)

【問9－1】地域で主にどのような催しや行事、活動に参加していますか。（○は三つまで）

・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		回答者数	地域でのお祭り	地区運動会	町内会行事・清掃活動	地域のサークル、サロン活動 コミュニティ	老人クラブ活動	学習センター主催の各講座
全体	750	224	60	344	41	28	53	
年齢	10～20歳代	40	21	5	11	2	0	1
	30歳代	70	33	7	21	3	0	6
	40歳代	107	42	13	46	3	0	3
	50歳代	109	34	14	55	2	0	4
	60歳代	116	30	6	66	5	1	8
	70～74歳	97	23	5	45	10	5	9
	75歳以上	211	41	10	100	16	22	22
性別	男性	352	102	30	179	16	13	12
	女性	387	118	29	159	25	15	41
	どちらでもない	1	0	0	1	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	74	35	2	28	4	1	4
	渡利地区（立子山を含む）	61	17	4	28	4	4	4
	杉妻地区	28	10	4	11	0	0	3
	蓬莱地区	35	5	0	20	2	3	5
	清水地区	77	16	5	43	5	1	7
	東部地区（大波を含む）	41	10	5	20	1	3	2
	北信地区	92	27	8	44	3	4	6
	吉井田地区	23	10	1	9	0	1	2
	西地区（土湯を含む）	18	6	4	7	0	0	1
	飯坂地区（茂庭を含む）	53	13	7	28	2	1	2
	信陵地区	43	7	1	26	4	2	3
	松川地区	45	16	5	16	2	4	2
	信夫地区	51	20	3	17	5	2	4
	吾妻地区	69	17	7	33	5	1	6
	飯野地区	30	11	1	11	4	1	2
職業	正規の社員・職員	200	77	23	87	4	1	8
	派遣・嘱託・契約社員	16	1	1	12	1	0	1
	パート・アルバイト	81	20	4	42	5	0	10
	自営業（家事手伝い含む）	76	24	7	36	2	3	4
	会社役員	32	12	4	13	2	0	1
	学生	11	8	2	1	0	0	0
	専業主婦・主夫	104	31	6	41	12	3	11
	無職	226	50	12	111	14	21	18
家族構成	単身世帯	77	19	7	33	5	7	6
	1世代世帯	216	57	14	112	13	8	12
	2世代世帯	375	127	32	160	19	11	26
	3世代世帯	66	18	6	31	4	1	6
居住形態	持ち家（一戸建て）	635	175	49	308	32	26	45
	持ち家（集合住宅）	23	13	1	6	1	0	2
	民間賃貸（一戸建て）	25	7	3	10	2	2	1
	民間賃貸（集合住宅）	33	18	2	6	3	0	4
	公営住宅（市営・県営等）	20	4	1	13	2	0	0
	社宅・公務員住宅等	7	3	1	1	1	0	1

問9－2 催しや行事、活動に「参加していない」一番の理由はなんですか。(○は一つ)

問9で「あまり参加していない」「全く参加していない」と答えた方の内、「参加する時間がない」(29.8%)が最も多い、次いで「参加したい催しや行事、活動がない」(28.2%)、「催しや行事、活動を知らない」(20.3%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
参加する時間がない	170	29.8%
催しや行事、活動を知らない	116	20.3%
参加したい催しや行事、活動がない	161	28.2%
交通手段がない	14	2.5%
その他	73	12.8%
無回答	37	6.5%
合計	571	100.0%

【「その他」の回答】

- 地域のコミュニティに入りにくい。(10~20歳代 女性)
- 一緒に参加する知り合いがいない。(10~20歳代 男性)
- 催し物、行事に興味がない。(10~20歳代 男性)
- 障がいがあるため。(10~20歳代 男性)
- 関わりたくない。(50歳代 男性)
- 区分けが煩雑な地域のため、お知らせが届かない。コミュニティ外の告知がくる。学区と地域区分が合わない。(30歳代 男性)
- 参加したくない。(75歳以上 男性)
- 参加するほどの付き合いがない。(50歳代 女性)
- 障害がありコミュニケーションをとるのが苦手。(10~20歳代 男性)
- 町会では、高齢者が役員になり、数十年前と同じことを続けているだけ。そのため興味も関心もない。町会の区域に前から住んでいる人と新しく移り住んでいる人の区別が激しい。(75歳以上 男性)
- 子供が小さな頃は参加していたが、今はあまり参加していない。(50歳代 女性)
- 町内会に入っていない。(60歳代 男性)
- 初めての場所に行く(参加する)ことが少し苦手なため、行動(参加)しにくい。(30歳代 女性)
- 人とのつながりがめんどう。(70~74歳 女性)

【問9-2】催しや行事、活動に「参加していない」一番の理由はなんですか。（○は一つ）

		回答者数	参加する時間がない	ら催しや行事、活動を知	事参加活動したいが催しや行	交通手段がない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
年齢	全体	461	170	116	161	14
	10～20歳代	92	36	33	23	0
	30歳代	57	21	18	18	0
	40歳代	92	43	22	27	0
	50歳代	76	31	17	28	0
	60歳代	68	30	10	27	1
	70～74歳	24	6	4	11	3
性別	75歳以上	52	3	12	27	10
	男性	194	67	55	67	5
	女性	263	102	60	92	9
	どちらでもない	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	66	23	22	20	1
	渡利地区（立子山を含む）	31	15	7	9	0
	杉妻地区	26	13	7	5	1
	蓬莱地区	8	5	1	2	0
	清水地区	50	14	11	23	2
	東部地区（大波を含む）	19	7	2	9	1
	北信地区	40	15	13	11	1
	吉井田地区	33	7	14	11	1
	西地区（土湯を含む）	16	8	3	4	1
	飯坂地区（茂庭を含む）	30	12	5	12	1
	信陵地区	25	12	3	9	1
	松川地区	23	13	4	4	2
	信夫地区	50	13	14	22	1
	吾妻地区	33	9	8	16	0
	飯野地区	2	2	0	0	0
職業	正規の社員・職員	193	93	57	43	0
	派遣・嘱託・契約社員	32	10	8	14	0
	パート・アルバイト	61	31	5	25	0
	自営業（家事手伝い含む）	17	11	4	2	0
	会社役員	8	4	2	2	0
	学生	25	10	11	4	0
	専業主婦・主夫	46	7	10	26	3
	無職	78	4	19	44	11
家族構成	単身世帯	64	25	20	13	6
	1世代世帯	145	36	42	63	4
	2世代世帯	222	96	49	74	3
	3世代世帯	24	11	4	8	1
居住形態	持ち家（一戸建て）	290	111	45	122	12
	持ち家（集合住宅）	26	12	6	8	0
	民間賃貸（一戸建て）	20	6	9	5	0
	民間賃貸（集合住宅）	104	36	47	19	2
	公営住宅（市営・県営等）	8	2	2	4	0
	社宅・公務員住宅等	10	2	6	2	0

3 地域での支え合い・助け合いについて

問10 地域でのボランティア活動等に参加していますか。(○は一つ)

「全く参加していない」(63.5%)が最も多く、全体の6割以上を占めています。次いで、「あまり参加していない」(16.5%)、「たまに参加している」(12.9%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
よく参加している	50	5.2%
たまに参加している	125	12.9%
あまり参加していない	159	16.5%
全く参加していない	613	63.5%
無回答	19	2.0%
合計	966	100.0%

【問10】地域でのボランティア活動等に参加していますか。（○は一つ）

		回答者数	よく参加している	たまに参加している	あまり参加していない	全く参加していない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		947	50	125	159	613
年齢	10～20歳代	128	1	5	14	108
	30歳代	105	0	9	17	79
	40歳代	157	4	19	28	106
	50歳代	143	2	14	31	96
	60歳代	147	14	25	34	74
	70～74歳	77	10	13	10	44
	75歳以上	190	19	40	25	106
性別	男性	419	28	67	77	247
	女性	516	22	57	81	356
	どちらでもない	1	0	0	0	1
居住地区	中央地区（本庁）	127	2	17	23	85
	渡利地区（立子山を含む）	69	5	11	11	42
	杉妻地区	43	2	4	3	34
	蓬萊地区	28	4	3	7	14
	清水地区	104	3	14	22	65
	東部地区（大波を含む）	46	3	4	10	29
	北信地区	96	10	7	17	62
	吉井田地区	49	1	4	4	40
	西地区（土湯を含む）	27	2	3	6	16
	飯坂地区（茂庭を含む）	66	3	11	11	41
	信陵地区	53	1	14	5	33
	松川地区	48	1	8	11	28
	信夫地区	89	6	9	16	58
	吾妻地区	75	5	11	7	52
	飯野地区	17	2	4	6	5
職業	正規の社員・職員	319	7	28	58	226
	派遣・嘱託・契約社員	45	2	3	6	34
	パート・アルバイト	116	4	14	23	75
	自営業（家事手伝い含む）	63	6	20	12	25
	会社役員	22	5	4	2	11
	学生	33	0	3	6	24
	専業主婦・主夫	115	6	17	20	72
	無職	230	19	36	31	144
家族構成	単身世帯	127	3	11	21	92
	1世代世帯	294	19	37	45	193
	2世代世帯	447	21	64	83	279
	3世代世帯	62	6	9	9	38
居住形態	持ち家（一戸建て）	685	46	109	123	407
	持ち家（集合住宅）	45	2	5	8	30
	民間賃貸（一戸建て）	35	1	3	8	23
	民間賃貸（集合住宅）	135	0	4	13	118
	公営住宅（市営・県営等）	21	1	3	3	14
社宅・公務員住宅等		14	0	0	3	11

問10-1 主にどのようなボランティア活動等に参加していますか。(○は三つまで)

問10で「よく参加している」「たまに参加している」と答えた方の内、「環境美化・衛生に関する活動」(32.2%)が最も多い、次いで「防災や防犯、交通安全等に関する活動」(14.4%)、「高齢者に関する活動」(12.9%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
高齢者に関する活動	42	12.9%
障がい者に関する活動	10	3.1%
子育てに関する活動	11	3.4%
保健・医療に関する活動	11	3.4%
青少年に関する活動	13	4.0%
環境美化・衛生に関する活動	105	32.2%
文化芸術活動に関する活動	16	4.9%
スポーツに関する活動	36	11.0%
防災や防犯、交通安全等に関する活動	47	14.4%
被災者に対する活動	4	1.2%
国際交流に関する活動	3	0.9%
その他	28	8.6%
合計	326	100.0%

【「その他」の回答】

- もりりん体操のスタッフ (70~74歳 女性)
- ロータリークラブで社会奉仕、職業奉仕、薬物指導員 (75歳以上 男性)
- 地域間交流の手助け (特に高齢者間) (75歳以上 女性)
- 墓掃除 (70~74歳 男性)
- 小学校の生徒に地域の歴史等の講習 (75歳以上 男性)
- 小学校での読み聞かせ (75歳以上 女性)

【問10-1】主にどのようなボランティア活動等に参加していますか。（○は三つまで）

		回答者数	高齢者に関する活動	障がい者に関する活動	子育てに関する活動	動保健・医療に関する活動	青少年に関する活動	る環境美化・衛生に関する活動	活動芸術活動に関する活動	スポーツに関する活動	等防災や防犯、交通安全に関する活動	被災者に対する活動	国際交流に関する活動
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示													
全体		298	42	10	11	11	13	105	16	36	47	4	3
年齢	10～20歳代	8	0	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0
	30歳代	15	1	0	2	1	0	7	0	3	1	0	0
	40歳代	36	1	1	2	0	3	15	1	8	4	1	0
	50歳代	34	1	2	2	0	3	15	2	5	2	0	2
	60歳代	60	7	5	5	1	4	16	4	6	11	0	1
	70～74歳	37	8	0	0	1	1	12	3	3	9	0	0
	75歳以上	108	24	1	0	8	2	33	6	11	20	3	0
性別	男性	168	21	5	0	6	6	62	6	26	32	3	1
	女性	127	21	5	11	5	7	41	10	10	15	0	2
	どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	34	5	2	2	1	2	13	1	4	2	1	1
	渡利地区（立子山を含む）	24	6	2	0	0	1	12	0	1	2	0	0
	杉妻地区	13	2	0	0	0	0	3	1	4	3	0	0
	蓬莱地区	14	2	0	0	2	0	5	0	3	2	0	0
	清水地区	30	2	1	3	0	1	13	2	2	4	1	1
	東部地区（大波を含む）	18	3	0	1	0	2	3	0	4	4	0	1
	北信地区	27	2	1	0	0	3	11	2	4	3	1	0
	吉井田地区	11	1	0	0	1	0	4	1	0	4	0	0
	西地区（土湯を含む）	8	3	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0
	飯坂地区（茂庭を含む）	22	3	1	2	2	1	4	2	3	4	0	0
	信陵地区	18	3	0	0	1	0	6	2	1	4	1	0
	松川地区	16	1	0	0	0	0	9	1	2	3	0	0
	信夫地区	25	4	0	3	2	1	7	2	2	4	0	0
職業	吾妻地区	20	1	0	0	1	1	9	1	4	3	0	0
	飯野地区	14	4	2	0	1	1	3	0	0	3	0	0
	正規の社員・職員	62	2	0	3	1	3	30	2	11	7	1	2
	派遣・嘱託・契約社員	8	1	0	0	0	0	4	0	3	0	0	0
	パート・アルバイト	25	1	0	3	1	1	12	1	4	1	0	1
	自営業（家事手伝い含む）	39	3	0	1	1	2	12	5	3	11	1	0
	会社役員	14	0	1	1	0	3	4	1	0	4	0	0
家族構成	学生	4	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
	専業主婦・主夫	38	11	3	3	1	2	7	3	3	5	0	0
	無職	106	22	5	0	7	2	33	4	12	19	2	0
	単身世帯	28	4	4	0	3	0	7	3	3	3	1	0
	1世代世帯	97	17	2	4	3	2	31	2	17	16	1	2
居住形態	2世代世帯	136	18	3	5	3	7	57	8	11	22	1	1
	3世代世帯	28	1	1	2	2	4	7	3	3	5	0	0
	持ち家（一戸建て）	257	37	6	10	9	10	90	14	32	45	2	2
	持ち家（集合住宅）	9	0	1	1	1	1	2	1	0	1	0	1
	民間賃貸（一戸建て）	11	2	1	0	0	1	4	0	2	1	0	0
民間賃貸（集合住宅）		11	0	1	0	1	1	5	0	2	0	1	0
公営住宅（市営・県営等）		7	2	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0
社宅・公務員住宅等		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

問10-2 参加した主なきっかけはなんですか。(○は三つまで)

問10で「よく参加している」「たまに参加している」と答えた方の内、「身近な地域をよりよくしたいから」(18.7%)が最も多く、次いで「地域でのつながりや交流の機会を増やしたいから」(17.2%)、「社会や人の役に立ちたいから」(13.9%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
社会や人の役に立ちたいから	58	13.9%	13.9%
身近な地域をよりよくしたいから	78	18.7%	18.7%
自分の知識や経験を活かしたいから	27	6.5%	6.5%
楽しそうだから	19	4.5%	4.5%
地域でのつながりや交流の機会を増やしたいから	72	17.2%	17.2%
知人・友人等に誘われたから	33	7.9%	7.9%
周りの人がやっているから	17	4.1%	4.1%
持ち回りなどで頼まれたから	42	10.0%	10.0%
地域住民としての義務だと思ったから	53	12.7%	12.7%
その他	19	4.5%	4.5%
合計	418	100.0%	

【「その他」の回答】

- 強制参加 (50歳代 男性)
- 健康、体力維持、ストレス解消、学生時代からの友人の誘い (60歳代 男性)
- 役員活動の一環として行っている。 (75歳以上 女性)
- 夫、子ども達が卒業した小学校より声がかかり、読み聞かせを30年間続けている。 (75歳以上 女性)

【問10-2】参加した主なきっかけはなんですか。（○は三つまで）

		回答者数	いからや人の役に立った	し身近いなからよく	か自分といから知識や経験を活	楽しそうだから	の機会でのつながりや交流	た知から・友人等に誘われ	から周りの人がやっている	たから持ち回りなどで頼まれ	地ど思つたからとしての義務
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示											
全体		399	58	78	27	19	72	33	17	42	53
年齢	10～20歳代	16	3	3	1	0	3	1	2	1	2
	30歳代	17	0	0	0	2	2	5	2	4	2
	40歳代	52	4	10	2	7	7	3	5	7	7
	50歳代	39	6	7	1	1	6	4	4	4	6
	60歳代	78	13	17	5	4	14	5	1	10	9
	70～74歳	46	5	10	4	1	9	5	2	4	6
	75歳以上	151	27	31	14	4	31	10	1	12	21
性別	男性	232	35	51	16	7	35	18	9	29	32
	女性	162	22	26	11	12	36	15	8	13	19
	どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	46	9	9	1	2	5	5	3	5	7
	渡利地区（立子山を含む）	22	4	6	1	0	5	1	0	2	3
	杉妻地区	15	1	4	2	2	5	0	0	0	1
	蓬萊地区	14	4	1	3	1	2	0	1	0	2
	清水地区	45	8	9	3	2	8	4	0	4	7
	東部地区（大波を含む）	16	3	4	3	0	1	3	0	1	1
	北信地区	37	2	8	3	1	10	2	1	3	7
	吉井田地区	14	5	2	1	0	1	2	2	1	0
	西地区（土湯を含む）	20	3	3	1	1	7	0	1	3	1
	飯坂地区（茂庭を含む）	26	4	3	1	3	4	3	1	3	4
	信陵地区	33	2	8	1	1	6	1	3	6	5
	松川地区	25	3	6	1	0	7	2	0	4	2
	信夫地区	37	5	4	2	4	6	5	4	3	4
	吾妻地区	30	3	7	3	2	2	1	1	3	8
	飯野地区	16	2	4	1	0	2	3	0	3	1
職業	正規の社員・職員	84	7	13	2	6	9	12	9	15	11
	派遣・嘱託・契約社員	15	1	3	0	1	3	1	1	2	3
	パート・アルバイト	34	4	4	3	2	6	1	1	5	8
	自営業（家事手伝い含む）	50	5	15	4	1	5	3	2	8	7
	会社役員	18	6	3	2	0	3	1	0	0	3
	学生	10	3	2	1	0	3	1	0	0	0
	専業主婦・主夫	43	3	5	3	6	12	6	2	2	4
	無職	142	27	33	11	3	31	8	2	10	17
家族構成	単身世帯	37	4	6	4	3	5	2	2	5	6
	1世代世帯	130	20	26	11	6	26	11	4	12	14
	2世代世帯	186	25	36	9	7	33	16	9	22	29
	3世代世帯	35	6	9	2	3	4	4	2	3	2
居住形態	持ち家（一戸建て）	345	48	68	25	17	66	29	13	36	43
	持ち家（集合住宅）	15	4	2	1	1	0	1	1	3	2
	民間賃貸（一戸建て）	17	3	3	1	1	1	2	1	1	4
	民間賃貸（集合住宅）	12	2	3	0	0	2	1	1	2	1
	公営住宅（市営・県営等）	8	0	2	0	0	3	0	0	0	3
	社宅・公務員住宅等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問10-3 地域でのボランティア活動を通して、地域のために役立っていることがあれば
ご記入ください。(自由記載)

- 朝の交通安全を交差点で呼びかけ、地域の安全確保を図った。
(70~74歳 男性)
- 幅広い年代との面識が広がった。ほとんどが年上だが…。 (50歳代 男性)
- クリーン活動、子育て支援。 (60歳代 女性)
- 地域の方との交流につながった。 (30歳代 女性)
- 花壇整備、ごみ拾いなど (50歳代 男性)
- 一人暮らし高齢者の話し相手になることで、地域の安心につながった。
(60歳代 女性)
- ごみ置き場の清掃をしている。登下校する子供達が挨拶をし、利用するご近所の方に感謝して頂いた。仕事や留守をしている都合で、出来ない時は、誰かがやって下さるようになり、いつもキレイな状態になった。 (50歳代 男性)
- 時々、道路わきの草むしりを実施し、町内の美化に努めている。 (60歳代 男性)
- 施設やボランティア団体への些少の金額の寄附により多少なりとも役に立てもらいたい。 (75歳以上 男性)
- 高齢者の活動の場が少ない為に寿会を通じて、集まりの場を作っている。
(75歳以上 男性)
- 週1回のもりん体操ですが、それをきっかけに会話、交流、情報交換などに発展している。1人暮して困っている人へのささやかな協力になっている。
(70~74歳 女性)
- 頻繁に通う道路沿いのゴミ拾いを仲間と実施し、環境美化に努めた。町内から頼まれる講演会では、住民に身近な健康問題をわかり易く話した。 (75歳以上 男性)
- 地域の歴史、人、物語の発掘し、広報すること。 (75歳以上 男性)
- 下校時的小学生児童を対象とした見守り活動を行って10年になる。ポイ捨てのない美しいまちづくり運動に取り組んでいる。町会長の立場上、町会行事はもとより地区行事は勿論のこと、全ての関係機関との情報を共有し、参加協力している。そのため多忙である。 (75歳以上 男性)
- 春夏秋冬の交通安全週間の街頭活動（交通安全母の会） (70~74歳 女性)
- 交通などの公道が雑草木で通れない箇所を見つけると草刈機を持ち出して処理している。ごみ集積所の分別（資源ごみ）を続けている。 (75歳以上 男性)
- コロナが少し落ち着いている現在、以前とは交流回数は少ないが、高齢者間の仲間意識が高まり話し合いの場をもっている。このことは、いきいきとした健康（心と体）づくりと支え合う意識につながっていると思う。 (75歳以上 女性)
- ボランティアとは少し異なりますが、子ども劇場会員として、子どもの育ちに関わる活動をしています。あまり見る機会の少ない人形劇などを観る場をつくり、子どもの心を

動かす体験の場となっています。子どもの笑顔そして周りも笑顔になる姿を見ると、幸せな気持ちになります。 (40歳代 女性)

- 視覚障がい者のための読書サポート活動、文化イベントで地域を盛り上げる活動。
(60歳代 男性)
- 学童見守りを行い防犯活動と、地域の子供たちとの挨拶を楽しく身に付けてもらうよう
にしている。 (70~74歳 男性)
- 一人暮らしの高齢者の安否確認しながら訪問活動したり、サロンを開催したりとボラン
ティア部員として活動している。 (70~74歳 女性)
- 子ども達の心が少しでも豊かになるように、また本に興味を持つようにと本を選ぶこと
に力を注いでいる。学校としては地域との交流を大事にしている。町会の役員、環境衛
生部長をやり、花壇に花を植えたりゴミ集積所のネット交換、集積所の場所作りなど活
動した。 (75歳以上 女性)
- 町内の婦人部で敬老の日にお赤飯配り。集会所の清掃。
(60歳代 女性)

問10-4 「参加していない」主な理由はなんですか。(○は三つまで)

問10で「あまり参加していない」「全く参加していない」と答えた方の内、「ボランティア活動等に関する情報がない」(24.2%)が最も多く、次いで「自分の趣味や自由な時間を優先したい」(21.6%)、「体力的に参加することが難しい」(16.3%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
体力的に参加することが難しい	178	16.3%
自分の趣味や自由な時間を優先したい	236	21.6%
ボランティア活動等に関する情報がない	264	24.2%
地域の人と交流することに気が進まない	95	8.7%
興味のあるボランティア活動等がない	98	9.0%
ボランティア活動等に興味がない	107	9.8%
その他	113	10.4%
合計	1091	100.0%

【「その他」の回答】

- どんなボランティアがあるかわからない。 (40歳代 女性)
- 子どもを見てくれる人がいない。 (30歳代 女性)
- 子育て中でそこまで気がまわらない。 (40歳代 女性)
- 子どもと過ごす時間にしたい。 (40歳代 女性)
- したい気持ちがあっても、自分のことでいっぱいでだから。 (30歳代 女性)
- 仕事が忙しく時間がない。 (40歳代 女性)
- ボランティアに参加したい気持ちはあるが、どんなボランティアがあるか情報が入ってこない。 (40歳代 女性)
- 協力する気持ちはあるが、行動に出せていない。 (40歳代 男性)
- 仕事で参加する時間が合わない。家族の介護、看病などで外出できない。
(50歳代 女性)
- 孫の育児の手伝い。 (50歳代 男性)
- わざわざ自分で調べて参加しようと思わない。 (10~20歳代 男性)
- 関わりたくない。 (50歳代 女性)
- 自分の金に四苦八苦しているのに、無料で人に奉仕する意味が分からない。
(30歳代 男性)
- 参加する理由がわからない。 (75歳以上 男性)
- 気の合う人がいない。 (75歳以上 男性)
- 母親の介護でボランティアに割く時間があまりない。 (50歳代 女性)
- 参加してみたいが参加する勇気がない。 (30歳代 女性)

- 地域の人と交流する事がない。 (60歳代 女性)
- 休みが不規則 (30歳代 男性)
- 来年の3月で仕事をやめて、4月からボランティア活動をする。 (60歳代 女性)
- きっかけがない。 (60歳代 女性)
- 仕事をしていたからつながりがなかった。 (60歳代 女性)
- 子どもに手がかり参加できない。 (40歳代 女性)
- 仕事と家のことで手いっぱいボランティアに割く余裕がない。 (40歳代 女性)
- 金銭面や時間的にも全く余裕がないから。 (10~20歳代 男性)
- 町内会に入っていない。 (60歳代 男性)
- ご近所に仲の良い人がいないので行きにくい。知っている人がいないので会話が不安。
(30歳代 女性)
- 最終的には責任が持てないから。 (75歳以上 女性)
- お知らせがないので、いつやっているのか分からない。 (30歳代 女性)
- ボランティア活動が分からぬいためあれば参加してもよい。 (50歳代 女性)

【問10-4】「参加していない」主な理由はなんですか。（○は三つまで）

回答者数		が体力的に参加すること	間自分優の先趣味したい自由な時	関ボラする情報ティがアな活動等に	と地域の人が進交流するこ	ア興味活動の等があるボランティ	興ボランティア活動等に
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示							
全体	978	178	236	264	95	98	107
年齢	10～20歳代	162	5	51	51	16	16
	30歳代	125	3	41	31	18	10
	40歳代	176	12	43	59	19	21
	50歳代	138	17	31	47	15	12
	60歳代	131	26	32	37	10	18
	70～74歳	75	18	14	17	7	10
	75歳以上	171	97	24	22	10	11
性別	男性	421	69	103	106	31	51
	女性	541	106	129	155	62	46
	どちらでもない	2	0	1	1	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	126	15	36	40	10	10
	渡利地区（立子山を含む）	71	7	22	18	5	10
	杉妻地区	50	9	17	10	1	7
	蓬莱地区	22	5	4	4	2	5
	清水地区	120	21	31	32	12	10
	東部地区（大波を含む）	53	11	14	15	2	6
	北信地区	91	17	25	29	8	7
	吉井田地区	63	13	14	15	10	8
	西地区（土湯を含む）	25	4	6	5	4	3
	飯坂地区（茂庭を含む）	69	18	16	15	7	7
	信陵地区	42	9	8	12	6	2
	松川地区	48	11	6	13	6	6
	信夫地区	94	14	19	23	13	8
	吾妻地区	84	20	14	25	7	8
	飯野地区	9	2	3	4	0	0
職業	正規の社員・職員	344	18	105	118	30	27
	派遣・嘱託・契約社員	54	4	12	18	6	7
	パート・アルバイト	125	15	33	33	18	16
	自営業（家事手伝い含む）	45	7	13	10	4	6
	会社役員	15	0	2	7	2	2
	学生	39	1	12	11	2	7
	専業主婦・主夫	112	31	16	32	16	8
	無職	242	101	43	35	16	25
家族構成	単身世帯	138	31	39	30	7	14
	1世代世帯	297	67	64	70	32	30
	2世代世帯	472	66	113	142	50	49
	3世代世帯	53	10	16	18	4	3
居住形態	持ち家（一戸建て）	684	151	155	163	68	76
	持ち家（集合住宅）	42	3	12	18	4	4
	民間賃貸（一戸建て）	35	4	9	10	1	5
	民間賃貸（集合住宅）	169	10	47	58	19	10
	公営住宅（市営・県営等）	23	6	7	5	2	2
	社宅・公務員住宅等	16	1	5	9	0	0

問11 地域の人に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。（○は一つ）

「ある」(41.4%) が最も多く、次いで「ない」(31.5%)、「わからない」(20.0%) となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
ある	400	41.4%	41.4%
ない	304	31.5%	31.5%
助けを必要としていない	52	5.4%	5.4%
わからない	193	20.0%	20.0%
無回答	17	1.8%	1.8%
合計	966	100.0%	

【問11】地域の人に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。（○は一つ）

		回答者数	ある	ない	い助けを必要としている	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		949	400	304	52	193
年齢	10～20歳代	129	42	44	8	35
	30歳代	105	38	38	4	25
	40歳代	156	63	54	7	32
	50歳代	142	63	38	6	35
	60歳代	146	73	39	9	25
	70～74歳	78	34	22	5	17
	75歳以上	193	87	69	13	24
性別	男性	420	156	158	27	79
	女性	517	239	142	25	111
	どちらでもない	1	0	0	0	1
居住地区	中央地区（本庁）	125	49	38	16	22
	渡利地区（立子山を含む）	68	31	22	4	11
	杉妻地区	43	17	15	1	10
	蓬萊地区	29	5	10	5	9
	清水地区	102	36	42	2	22
	東部地区（大波を含む）	45	25	13	1	6
	北信地区	99	41	35	1	22
	吉井田地区	48	13	19	4	12
	西地区（土湯を含む）	29	18	6	1	4
	飯坂地区（茂庭を含む）	64	32	17	1	14
	信陵地区	53	24	18	1	10
	松川地区	48	24	11	2	11
	信夫地区	88	34	26	8	20
	吾妻地区	79	41	23	4	11
	飯野地区	18	8	3	1	6
職業	正規の社員・職員	319	124	113	21	61
	派遣・嘱託・契約社員	45	13	18	2	12
	パート・アルバイト	116	52	33	3	28
	自営業（家事手伝い含む）	62	36	13	4	9
	会社役員	22	10	6	2	4
	学生	34	12	9	1	12
	専業主婦・主夫	113	51	33	4	25
	無職	234	99	78	15	42
家族構成	単身世帯	127	53	41	7	26
	1世代世帯	293	114	105	23	51
	2世代世帯	449	199	135	20	95
	3世代世帯	62	26	18	0	18
居住形態	持ち家（一戸建て）	689	318	193	35	143
	持ち家（集合住宅）	45	12	16	8	9
	民間賃貸（一戸建て）	35	12	16	0	7
	民間賃貸（集合住宅）	134	36	66	8	24
	公営住宅（市営・県営等）	21	10	5	1	5
	社宅・公務員住宅等	14	6	7	0	1

問12 困りごとがあった場合、地域の人から手助けしてほしいですか。（○は一つ）

「手助けしてほしい」（38.3%）が最も多く、次いで「わからない」（30.3%）、「自分で解決する」（26.1%）となっています。

選択肢	回答者	構成比	（%）
手助けしてほしい	370	38.3%	38.3%
手助けしてほしくない	30	3.1%	3.1%
自分で解決する	252	26.1%	26.1%
わからない	293	30.3%	30.3%
無回答	21	2.2%	2.2%
合計	966	100.0%	

【問12】困りごとがあった場合、地域の人から手助けしてほしいですか。（○は一つ）

		回答者数	手助けしてほしい	手助けしてほしくない	自分で解決する	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		945	370	30	252	293
年齢	10～20歳代	129	44	6	40	39
	30歳代	105	34	3	34	34
	40歳代	156	57	5	36	58
	50歳代	144	48	2	30	64
	60歳代	146	60	5	44	37
	70～74歳	78	29	5	28	16
	75歳以上	187	98	4	40	45
性別	男性	418	153	14	129	122
	女性	516	214	16	120	166
	どちらでもない	1	0	0	0	1
居住地区	中央地区（本庁）	125	54	2	32	37
	渡利地区（立子山を含む）	66	27	1	17	21
	杉妻地区	41	14	0	11	16
	蓬萊地区	29	9	1	8	11
	清水地区	102	33	3	33	33
	東部地区（大波を含む）	46	24	2	10	10
	北信地区	97	40	2	24	31
	吉井田地区	48	10	4	17	17
	西地区（土湯を含む）	29	14	2	6	7
	飯坂地区（茂庭を含む）	64	35	0	15	14
	信陵地区	53	20	0	14	19
	松川地区	48	17	3	8	20
	信夫地区	87	30	3	24	30
	吾妻地区	78	34	2	23	19
職業	飯野地区	18	6	1	6	5
	正規の社員・職員	319	114	11	94	100
	派遣・嘱託・契約社員	45	15	1	13	16
	パート・アルバイト	116	46	1	22	47
	自営業（家事手伝い含む）	63	25	3	18	17
	会社役員	22	8	1	5	8
	学生	34	12	1	12	9
	専業主婦・主夫	114	44	2	30	38
家族構成	無職	228	103	10	58	57
	単身世帯	124	50	7	35	32
	1世代世帯	294	111	9	87	87
	2世代世帯	450	172	12	113	153
居住形態	3世代世帯	60	29	1	13	17
	持ち家（一戸建て）	682	286	23	170	203
	持ち家（集合住宅）	45	15	2	14	14
	民間賃貸（一戸建て）	35	9	1	11	14
	民間賃貸（集合住宅）	136	42	3	47	44
公営住宅（市営・県営等）		21	7	0	7	7
社宅・公務員住宅等		14	5	1	3	5

問13 困っている人を見かけた時、声かけや手助けをしたことはありますか。

(○は一つ)

「声かけや手助けをしたことがある」(60.9%)が最も多く、全体の6割以上を占めています。次いで「見かけたことがない」(28.1%)、「見かけたことはあるが、声かけや手助けをできなかった」(7.8%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	割合
声かけや手助けをしたことがある	588	60.9%	60.9%
見かけたことはあるが、声かけや手助けをできなかった	75	7.8%	7.8%
見かけたとしても、声かけや手助けはしたくない	14	1.4%	1.4%
見かけたことがない	271	28.1%	28.1%
無回答	18	1.9%	1.9%
合計	966	100.0%	

【問13】困っている人を見かけた時、声かけや手助けをしたことはありますか。（○は一つ）

		回答者数	こ声とかけあやる手助けをした	か声見つかたけやた手助けはできるが、な	け見やかけ助けたとはしてたく、な声い	見かけたことがない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
年齢	全体	948	588	75	14	271
	10～20歳代	129	65	12	7	45
	30歳代	105	61	16	0	28
	40歳代	154	95	15	2	42
	50歳代	144	95	13	2	34
	60歳代	147	109	4	1	33
	70～74歳	78	54	3	0	21
性別	75歳以上	191	109	12	2	68
	男性	419	251	32	8	128
	女性	517	331	41	5	140
居住地区	どちらでもない	1	1	0	0	0
	中央地区（本庁）	125	90	8	4	23
	渡利地区（立子山を含む）	68	43	5	1	19
	杉妻地区	42	21	4	0	17
	蓬萊地区	29	17	3	0	9
	清水地区	102	58	8	0	36
	東部地区（大波を含む）	44	32	2	0	10
	北信地区	98	65	9	0	24
	吉井田地区	48	35	4	0	9
	西地区（土湯を含む）	29	11	5	0	13
	飯坂地区（茂庭を含む）	66	46	3	0	17
	信陵地区	53	34	3	3	13
	松川地区	48	24	4	2	18
	信夫地区	89	46	12	3	28
職業	吾妻地区	77	47	4	0	26
	飯野地区	18	12	1	0	5
	正規の社員・職員	318	192	27	7	92
	派遣・嘱託・契約社員	44	27	7	0	10
	パート・アルバイト	117	79	6	2	30
	自営業（家事手伝い含む）	63	42	4	0	17
	会社役員	22	19	1	0	2
	学生	34	17	5	0	12
家族構成	専業主婦・主夫	114	75	8	0	31
	無職	233	134	17	5	77
	単身世帯	126	73	10	4	39
	1世代世帯	297	186	17	4	90
居住形態	2世代世帯	449	281	42	6	120
	3世代世帯	61	37	6	0	18
	持ち家（一戸建て）	689	437	59	4	189
居住形態	持ち家（集合住宅）	44	27	3	3	11
	民間賃貸（一戸建て）	34	20	0	1	13
	民間賃貸（集合住宅）	136	77	11	5	43
	公営住宅（市営・県営等）	20	16	0	0	4
	社宅・公務員住宅等	14	7	1	0	6

問14 災害がおきた時に、地域の方にどのような支援（手助け）ができますか。

(○は三つまで)

「大丈夫ですか」などの声かけ（34.5%）が最も多く、次いで「災害状況や避難情報などの伝達」（16.1%）、「避難の手助け」（15.1%）となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
「大丈夫ですか」などの声かけ	706	34.5%	34.5%
災害状況や避難情報などの伝達	329	16.1%	16.1%
相談相手や話し相手になる	236	11.5%	11.5%
飲み物や食料などの備蓄品の提供	143	7.0%	7.0%
避難の手助け	309	15.1%	15.1%
介助や応急手当	82	4.0%	4.0%
その他	24	1.2%	1.2%
支援したいが余裕がないためできそうにない	118	5.8%	5.8%
わからない	97	4.7%	4.7%
合計	2044	100.0%	

【「その他」の回答】

- 職業として貢献する。（10～20歳代 女性）
- その場に応じて必要な手助けをしたい。（40歳代 女性）
- 高齢者支援の仕事に関わっているため、優先順位が決められない。（50歳代 男性）
- 保育補助（資格あり）（30歳代 女性）
- 消防団活動（50歳代 男性）
- 地下水があるので水の提供（75歳以上 男性）
- 災害時は出勤のため地域にはいられない。（40歳代 女性）
- 親が高齢のため他人の手助けが出来ないかもしれない。（50歳代 女性）
- 必要な時にできることはしたいと思う。（60歳代 女性）
- 浸水したお家の掃除、片付け。（40歳代 女性）

【問14】災害がおきた時に、地域の方にどのような支援（手助け）ができますか。（○は三つまで）

		回答者数	の一声大かけ夫ですかなど	ど災害状況や避難情報など	な相談相手や話し相手に	飲み物や食料などの備蓄	避難の手助け	介助や応急手当	い支援したいがう余裕がない	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示										
全体		2020	706	329	236	143	309	82	118	97
年齢	10～20歳代	264	80	44	27	22	41	19	17	14
	30歳代	245	83	42	25	12	41	18	17	7
	40歳代	351	125	58	45	21	62	15	9	16
	50歳代	288	107	44	31	22	49	8	10	17
	60歳代	325	117	63	33	27	57	9	12	7
	70～74歳	171	63	21	17	13	26	4	12	15
	75歳以上	376	131	57	58	26	33	9	41	21
性別	男性	909	300	171	90	61	160	37	46	44
	女性	1086	398	156	145	80	144	45	68	50
	どちらでもない	3	1	1	0	0	1	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	263	100	49	28	19	36	10	11	10
	渡利地区（立子山を含む）	157	48	29	22	11	24	11	9	3
	杉妻地区	89	31	12	11	8	12	1	8	6
	蓬萊地区	66	21	10	10	3	12	5	1	4
	清水地区	241	78	45	24	20	37	14	14	9
	東部地区（大波を含む）	101	27	17	13	9	19	3	7	6
	北信地区	207	72	32	19	12	40	8	12	12
	吉井田地区	102	42	19	13	3	17	3	4	1
	西地区（土湯を含む）	53	18	9	6	1	6	2	7	4
	飯坂地区（茂庭を含む）	130	53	17	16	10	21	5	4	4
	信陵地区	110	40	16	16	11	14	4	6	3
	松川地区	97	35	15	12	5	18	0	6	6
	信夫地区	192	62	27	22	15	26	11	16	13
	吾妻地区	159	59	25	17	10	22	4	9	13
	飯野地区	36	14	5	4	5	4	1	2	1
職業	正規の社員・職員	718	247	122	71	46	139	45	24	24
	派遣・嘱託・契約社員	99	35	17	10	9	17	4	3	4
	パート・アルバイト	254	90	37	34	21	39	10	11	12
	自営業（家事手伝い含む）	132	48	29	13	13	18	1	3	7
	会社役員	55	18	10	8	6	10	2	0	1
	学生	66	22	14	5	4	10	6	3	2
	専業主婦・主夫	231	92	31	31	19	27	6	12	13
	無職	457	152	67	62	25	49	8	61	33
家族構成	単身世帯	254	76	33	36	19	39	14	23	14
	1世代世帯	621	226	106	74	44	85	19	37	30
	2世代世帯	983	344	163	113	65	163	42	48	45
	3世代世帯	129	47	22	10	14	19	6	8	3
居住形態	持ち家（一戸建て）	1463	523	237	182	105	210	49	84	73
	持ち家（集合住宅）	99	36	18	10	8	18	4	3	2
	民間賃貸（一戸建て）	75	26	10	9	6	15	1	4	4
	民間賃貸（集合住宅）	287	91	44	24	17	53	23	21	14
	公営住宅（市営・県営等）	48	18	8	7	3	4	2	4	2
	社宅・公務員住宅等	33	8	9	1	4	7	3	1	0

4 情報収集の方法について

問15 市政情報を収集する際にインターネットやSNS等のデジタルサービスを利用していますか。(○は一つ)

「ときどき利用している」(32.8%)が最も多く、次いで「利用していない」(31.5%)、「ほとんど利用していない」(21.9%)となっています。

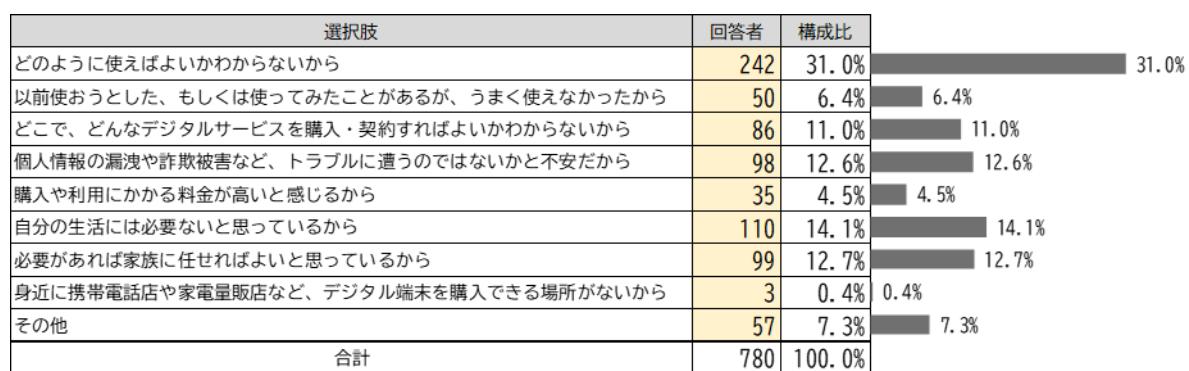
選択肢	回答者	構成比	構成比
よく利用する	124	12.8%	12.8%
ときどき利用している	317	32.8%	32.8%
ほとんど利用していない	212	21.9%	21.9%
利用していない	304	31.5%	31.5%
無回答	9	0.9%	0.9%
合計	966	100.0%	

【問15】市政情報を収集する際にインターネットやSNS等のデジタルサービスを利用していますか。（○は一つ）

		回答者数	よく利用する	ときどき利用している	いほとんど利用していない	利用していない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
年齢	全体	957	124	317	212	304
	10～20歳代	129	23	39	23	44
	30歳代	105	24	44	18	19
	40歳代	156	26	70	34	26
	50歳代	144	18	57	41	28
	60歳代	148	18	58	32	40
	70～74歳	78	8	24	12	34
性別	75歳以上	197	7	25	52	113
	男性	424	56	122	100	146
	女性	522	67	192	111	152
居住地区	どちらでもない	11	1	3	1	6
	中央地区（本庁）	125	22	47	27	29
	渡利地区（立子山を含む）	69	15	21	15	18
	杉妻地区	43	4	21	11	7
	蓬莱地区	30	4	9	7	10
	清水地区	103	15	26	29	33
	東部地区（大波を含む）	45	2	14	9	20
	北信地区	100	10	38	21	31
	吉井田地区	49	11	15	11	12
	西地区（土湯を含む）	29	3	7	9	10
	飯坂地区（茂庭を含む）	66	3	21	10	32
	信陵地区	52	6	14	16	16
	松川地区	49	5	19	7	18
	信夫地区	89	10	30	21	28
	吾妻地区	78	13	26	11	28
職業	飯野地区	18	1	5	5	7
	正規の社員・職員	321	54	135	74	58
	派遣・嘱託・契約社員	44	9	15	11	9
	パート・アルバイト	117	14	43	27	33
	自営業（家事手伝い含む）	62	8	15	18	21
	会社役員	22	3	7	7	5
	学生	34	7	9	6	12
	専業主婦・主夫	114	10	44	24	36
家族構成	無職	239	18	48	45	128
	単身世帯	127	12	38	24	53
	1世代世帯	297	40	90	65	102
	2世代世帯	454	66	169	108	111
居住形態	3世代世帯	62	6	17	14	25
	持ち家（一戸建て）	694	76	224	164	230
	持ち家（集合住宅）	45	12	17	8	8
	民間賃貸（一戸建て）	33	8	9	7	9
	民間賃貸（集合住宅）	136	21	52	27	36
	公営住宅（市営・県営等）	22	3	8	4	7
社宅・公務員住宅等		14	3	6	1	4

問15－1 「利用していない」主な理由はなんですか。(○は三つまで)

問15で「ほとんど利用していない」「利用していない」と答えた方の内、「どのように使えばよいかわからないから」(31.0%)が最も多く、次いで「自分の生活には必要ないと思っているから」(14.1%)、「必要があれば家族に任せればよいと思っているから」(12.7%)となっています。



【「その他」の回答】

- 市政だよりで情報収集している。(50歳代 女性)
- 障がいがあるため、操作できない。(10~20歳代 男性)
- 市政情報が何かわからない。(30歳代 女性)
- 必要性を感じることが少ない。(75歳以上 男性)
- 市のホームページはわかりにくい。(60歳代 女性)
- デジタル情報について、そもそもどんなものがあるか知らない。(30歳代 男性)
- 新聞、テレビ、家族などから収集できている。(50歳代 女性)
- 金がないから。(75歳以上 男性)
- 今市政情報を収集したいと思うことがない。(10~20歳代 男性)
- デジタル端末を持っていない。(50歳代 男性)
- 広報誌、回覧板など紙の媒体で充分だから。(60歳代 女性)
- インターネットが苦手。(75歳以上 女性)
- 分かりづらい、見づらい。(50歳代 女性)

【問15-1】「利用していない」主な理由はなんですか。（○は三つまで）

		回答者数	かどわの かよ らな にい 使 か え ば よ い	たるく以 かがは前 ら、使使 うつお まてう くみと 使使 たこと、 など かがも つあし	られさど ばーこ よビで、 いス かをど んか入 な か な 契 ジ い 約 タ か ス ル	らの害 個 でな ど、 人情 報の かラ 漏 不 ルや 安に詐 だ 遭 か う 被	購 が 高 い 利 用 感 じ に か か る 料	い 自 分 の 思 つ て い る か ら か ら の く ら な	る せ 必 か れ ら ば が よ い と 思 つ 家 族 て に い 任	い 末 量 身 か ら を 購 入 な ど、 携 帯 電 話 店 や ジ テ レ ホ ン の 販 店 に 入 る 場 所 が ル 家 電
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		723	242	50	86	98	35	110	99	3
年齢	10～20歳代	91	30	2	13	10	4	18	13	1
	30歳代	34	12	2	3	1	1	10	5	0
	40歳代	75	23	4	10	12	5	12	9	0
	50歳代	85	25	11	12	17	4	9	6	1
	60歳代	108	37	8	16	14	5	18	10	0
	70～74歳	78	28	3	7	13	4	11	12	0
	75歳以上	252	87	20	25	31	12	32	44	1
性別	男性	365	115	25	50	50	20	57	46	2
	女性	344	123	23	36	45	13	50	53	1
	どちらでもない	14	4	2	0	3	2	3	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	65	21	5	5	7	2	15	9	1
	渡利地区（立子山を含む）	39	11	1	7	4	4	5	6	1
	杉妻地区	19	8	2	3	0	0	4	2	0
	蓬萊地区	25	8	2	3	5	2	3	2	0
	清水地区	81	30	2	7	10	4	15	12	1
	東部地区（大波を含む）	50	18	5	6	7	2	5	7	0
	北信地区	65	25	4	8	7	0	10	11	0
	吉井田地区	29	6	5	3	6	3	3	3	0
	西地区（土湯を含む）	29	7	2	4	5	3	6	2	0
	飯坂地区（茂庭を含む）	67	27	5	9	10	1	4	11	0
	信陵地区	52	16	6	7	7	4	6	6	0
	松川地区	41	15	1	5	6	3	7	4	0
	信夫地区	67	23	7	7	10	3	8	9	0
	吾妻地区	58	16	2	6	10	2	12	10	0
	飯野地区	21	8	0	3	2	0	5	3	0
職業	正規の社員・職員	162	59	12	32	16	4	27	11	1
	派遣・嘱託・契約社員	29	8	2	2	5	3	5	4	0
	パート・アルバイト	96	33	7	6	18	8	14	10	0
	自営業（家事手伝い含む）	57	17	5	6	8	2	12	6	1
	会社役員	17	6	1	3	2	0	3	2	0
	学生	20	5	0	2	3	0	5	5	0
	専業主婦・主夫	82	33	4	8	6	3	11	17	0
	無職	259	80	19	27	40	15	33	44	1
家族構成	単身世帯	98	33	6	11	11	5	25	6	1
	1世代世帯	247	75	18	27	32	13	41	40	1
	2世代世帯	310	107	22	41	44	14	39	42	1
	3世代世帯	50	21	2	5	8	2	3	9	0
居住形態	持ち家（一戸建て）	587	197	38	73	83	28	79	87	2
	持ち家（集合住宅）	14	8	1	1	0	0	4	0	0
	民間賃貸（一戸建て）	21	3	1	2	4	1	8	2	0
	民間賃貸（集合住宅）	74	24	9	7	6	5	14	8	1
	公営住宅（市営・県営等）	16	6	1	2	3	0	2	2	0
	社宅・公務員住宅等	6	2	0	1	0	0	3	0	0

問15-2 あなたの生活に必要な市政情報の主な収集先はどちらですか。

(○は三つまで)

問15で「ほとんど利用していない」「利用していない」と答えた方の内、「市政だよりなど福島市の広報誌」(32.5%)が最も多く、次いで「町内会の回覧板」(21.0%)、「テレビ」(13.1%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
市政だよりなど福島市の広報誌	430	32.5%	32.5%
行政機関の窓口（市役所や支所など）	50	3.8%	3.8%
町内会の回覧板	278	21.0%	21.0%
地区の民生委員・児童委員	7	0.5%	0.5%
新聞（タウン情報誌を含む）	167	12.6%	12.6%
テレビ	173	13.1%	13.1%
ラジオ	28	2.1%	2.1%
ポスター及びチラシ	36	2.7%	2.7%
家族、知人、友人	135	10.2%	10.2%
その他	20	1.5%	1.5%
合計	1324	100.0%	

【問15-2】あなたの生活に必要な市政情報の主な収集先はどちらですか。（○は三つまで）

		回答者数	の市政報誌	所行政支機関など	町内会の回覧板	委員会の民生委員・児童	新聞（タウン情報誌を含む）	テレビ	ラジオ	ポスター及びチラシ	家族、知人、友人
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示											
全体		1304	430	50	278	7	167	173	28	36	135
年齢	10～20歳代	121	26	7	16	0	3	25	1	6	37
	30歳代	83	27	9	13	1	7	8	2	5	11
	40歳代	147	46	6	31	1	11	22	5	8	17
	50歳代	176	63	9	31	0	22	26	6	4	15
	60歳代	200	73	7	45	0	25	26	3	6	15
	70～74歳	139	51	2	37	0	20	21	0	0	8
	75歳以上	438	144	10	105	5	79	45	11	7	32
性別	男性	590	197	15	131	2	82	80	15	16	52
	女性	686	228	24	142	5	82	90	13	19	83
	どちらでもない	18	5	1	5	0	3	3	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	129	46	6	18	2	15	23	2	4	13
	渡利地区（立子山を含む）	89	33	3	21	0	15	7	1	2	7
	杉妻地区	50	15	1	9	0	10	7	1	3	4
	蓬萊地区	44	15	2	10	0	3	6	1	0	7
	清水地区	146	50	8	32	0	12	22	0	6	16
	東部地区（大波を含む）	74	24	5	18	0	7	8	3	2	7
	北信地区	118	36	5	18	1	17	21	3	7	10
	吉井田地区	59	18	2	14	0	6	5	3	3	8
	西地区（土湯を含む）	45	14	3	8	0	6	8	3	0	3
	飯坂地区（茂庭を含む）	102	30	1	22	0	17	14	5	0	13
	信陵地区	93	28	5	19	1	9	16	3	1	11
	松川地区	68	25	4	17	0	10	4	0	3	5
	信夫地区	115	39	3	29	1	15	12	0	2	14
	吾妻地区	120	40	2	33	0	18	13	1	3	10
	飯野地区	33	10	0	6	2	5	4	1	0	5
職業	正規の社員・職員	321	106	22	59	1	24	49	5	13	42
	派遣・嘱託・契約社員	65	17	5	10	0	8	12	0	5	8
	パート・アルバイト	141	48	6	29	0	19	16	7	4	12
	自営業（家事手伝い含む）	95	36	1	25	1	15	10	3	1	3
	会社役員	37	13	1	10	0	6	2	0	1	4
	学生	32	5	0	4	0	1	7	0	2	13
	専業主婦・主夫	179	66	3	42	1	24	22	2	1	18
	無職	430	138	11	99	4	70	54	11	9	34
家族構成	単身世帯	161	43	5	31	3	25	25	3	8	18
	1世代世帯	437	158	19	90	0	61	57	8	8	36
	2世代世帯	583	193	26	128	3	63	70	13	16	71
	3世代世帯	101	29	0	24	1	15	16	4	3	9
居住形態	持ち家（一戸建て）	1063	349	34	249	6	146	135	20	23	101
	持ち家（集合住宅）	43	19	1	3	0	6	6	1	4	3
	民間賃貸（一戸建て）	46	14	2	8	1	5	6	2	2	6
	民間賃貸（集合住宅）	104	33	10	8	0	5	18	4	5	21
	公営住宅（市営・県営等）	25	8	0	8	0	3	2	0	2	2
	社宅・公務員住宅等	8	2	2	1	0	0	2	0	0	1

問16 福島市が行っているデジタルによる情報発信方法で知っているものがありますか。
(知っているもの全てに○)

「公式ホームページ」(27.7%)が最も多く、次いで「わからない」(15.3%)、「公式LINE」(14.7%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
公式ホームページ	492	27.7%
公式Facebook	42	2.4%
公式X (エックス)	81	4.6%
公式LINE	261	14.7%
公式YouTube	66	3.7%
防災アプリ	206	11.6%
ゴミ分別アプリ「さんあ～る」	141	7.9%
子育てアプリ「えがお」	67	3.8%
ふくしま健民アプリ	149	8.4%
わからない	271	15.3%
合計	1776	100.0%

【問16】福島市が行っているデジタルによる情報発信方法で知っているものがありますか。（知っているもの全てに○）

・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		回答者数	公式ホームページ	公式Facebook	公式X（エックス）	公式LINE	公式YouTube	防災アプリ	「ゴミ分別「アブリ」	「子育てアブリ」	ふくしま健民アブリ	わからない
全体		1776	492	42	81	261	66	206	141	67	149	271
年齢	10～20歳代	214	71	6	16	29	6	11	20	10	12	33
	30歳代	264	58	12	26	50	14	23	24	25	21	11
	40歳代	354	100	7	19	63	16	39	29	22	32	27
	50歳代	284	91	5	14	54	13	28	22	4	20	33
	60歳代	277	97	8	4	36	9	45	14	3	31	30
	70～74歳	122	27	1	1	14	1	24	15	1	11	27
性別	75歳以上	261	48	3	1	15	7	36	17	2	22	110
	男性	726	207	19	31	97	22	91	49	16	61	133
	女性	1030	279	22	47	162	42	115	92	51	87	133
居住地区	どちらでもない	20	6	1	3	2	2	0	0	0	1	5
	中央地区（本庁）	243	79	7	11	37	10	28	18	11	20	22
	渡利地区（立子山を含む）	134	34	2	3	26	4	14	14	4	18	15
	杉妻地区	73	25	0	3	17	2	6	7	2	5	6
	蓬萊地区	40	11	0	0	6	0	5	2	0	4	12
	清水地区	197	55	3	8	28	8	25	16	7	17	30
	東部地区（大波を含む）	97	20	4	8	16	5	12	6	3	6	17
	北信地区	176	52	2	7	19	2	18	17	7	22	30
	吉井田地区	94	31	2	4	15	7	10	6	1	9	9
	西地区（土湯を含む）	67	13	1	5	6	1	8	3	5	3	22
	飯坂地区（茂庭を含む）	100	25	4	3	13	3	12	11	2	6	21
	信陵地区	91	25	1	5	17	3	9	6	4	6	15
	松川地区	82	25	4	4	8	2	11	3	2	5	18
	信夫地区	191	45	6	10	27	10	21	16	11	16	29
	吾妻地区	156	42	5	8	22	8	20	10	7	11	23
	飯野地区	22	4	1	1	2	0	4	2	0	0	8
職業	正規の社員・職員	701	204	22	45	120	35	69	61	36	56	53
	派遣・嘱託・契約社員	73	24	0	2	13	1	9	5	3	7	9
	パート・アルバイト	237	62	7	11	38	9	23	20	14	22	31
	自営業（家事手伝い含む）	104	35	2	3	19	0	12	6	2	6	19
	会社役員	44	14	2	3	9	1	4	4	0	3	4
	学生	45	20	1	3	3	0	1	4	0	3	10
	専業主婦・主夫	232	61	6	7	28	12	34	19	9	24	32
家族構成	無職	332	70	2	6	30	8	54	21	2	27	112
	単身世帯	236	57	5	13	35	10	22	24	5	15	50
	1世代世帯	544	155	16	19	76	20	74	43	10	47	84
	2世代世帯	862	252	19	43	137	35	89	67	45	74	101
居住形態	3世代世帯	109	27	2	6	13	0	19	5	4	11	22
	持ち家（一戸建て）	1239	338	30	53	175	40	159	83	38	105	218
	持ち家（集合住宅）	109	33	5	7	13	6	13	10	6	9	7
	民間賃貸（一戸建て）	79	22	3	7	12	6	8	8	0	5	8
	民間賃貸（集合住宅）	263	75	3	13	50	10	19	30	16	24	23
公営住宅（市営・県営等）	公営住宅（市営・県営等）	40	12	0	0	4	3	5	3	2	4	7
	社宅・公務員住宅等	29	9	0	0	6	1	1	5	4	1	2

5 孤立・孤独について

問17 あなたは「孤独」だと感じることはありますか。(○は一つ)

「ない」(69.3%)と最も多く、全体の約7割を占めています。次いで「たまにある」(17.8%)、「時々ある」(5.8%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	
ない	669	69.3%	69.3%
たまにある	172	17.8%	17.8%
時々ある	56	5.8%	5.8%
しばしばある・常にある	51	5.3%	5.3%
無回答	18	1.9%	1.9%
合計	966	100.0%	

【問17】あなたは「孤独」だと感じることはありますか。（○は一つ）

		回答者数	ない	たまにある	時々ある	しばしばある・常にあ
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示						
全体		948	669	172	56	51
年齢	10～20歳代	128	89	17	9	13
	30歳代	104	77	15	5	7
	40歳代	154	111	23	10	10
	50歳代	143	95	33	6	9
	60歳代	148	104	34	7	3
	70～74歳	77	58	12	5	2
	75歳以上	194	135	38	14	7
性別	男性	414	300	72	19	23
	女性	522	362	98	35	27
	どちらでもない	1	0	0	0	1
居住地区	中央地区（本庁）	123	91	17	9	6
	渡利地区（立子山を含む）	67	44	13	5	5
	杉妻地区	43	33	7	0	3
	蓬萊地区	30	27	2	0	1
	清水地区	103	70	21	10	2
	東部地区（大波を含む）	45	29	10	3	3
	北信地区	99	69	19	5	6
	吉井田地区	49	39	6	3	1
	西地区（土湯を含む）	28	17	7	2	2
	飯坂地区（茂庭を含む）	65	48	10	3	4
	信陵地区	53	36	10	4	3
	松川地区	46	32	9	3	2
	信夫地区	89	64	15	3	7
	吾妻地区	78	55	17	3	3
	飯野地区	18	12	3	2	1
職業	正規の社員・職員	318	231	55	16	16
	派遣・嘱託・契約社員	45	30	11	2	2
	パート・アルバイト	116	82	19	8	7
	自営業（家事手伝い含む）	62	52	9	1	0
	会社役員	21	14	4	1	2
	学生	34	24	5	3	2
	専業主婦・主夫	115	83	20	5	7
	無職	233	152	48	19	14
家族構成	単身世帯	125	59	41	18	7
	1世代世帯	294	220	51	15	8
	2世代世帯	451	335	68	18	30
	3世代世帯	61	44	10	4	3
居住形態	持ち家（一戸建て）	687	496	122	31	38
	持ち家（集合住宅）	44	27	11	6	0
	民間賃貸（一戸建て）	33	26	4	0	3
	民間賃貸（集合住宅）	136	88	26	13	9
	公営住宅（市営・県営等）	22	13	7	2	0
社宅・公務員住宅等		14	12	0	2	0

問17-1 その状況はどのくらい前から続いていますか。(○は一つ)

問17の「たまにある」「ときどきある」「しばしばある・常にある」と答えた方の内、「5年以上」(41.9%)が最も多く、次いで「3年以上5年未満」(13.6%)、「6ヶ月未満」(12.5%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
6ヶ月未満	35	12.5%	12.5%
6ヶ月以上1年未満	23	8.2%	8.2%
1年以上2年未満	29	10.4%	10.4%
2年以上3年未満	27	9.7%	9.7%
3年以上5年未満	38	13.6%	13.6%
5年以上	117	41.9%	41.9%
無回答	10	3.6%	3.6%
合計	279	100.0%	

【問17-1】その状況はどのくらい前から続いていますか。（○は一つ）

		回答者数	6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上
			・単位：%					
		・網掛けは各属性の1位						
		・「その他」「無回答」は非表示						
全体		269	35	23	29	27	38	117
年齢	10～20歳代	39	8	3	6	4	3	15
	30歳代	27	5	2	1	1	3	15
	40歳代	43	7	4	1	4	4	23
	50歳代	47	2	3	4	5	6	27
	60歳代	41	4	6	5	7	5	14
	70～74歳	18	3	0	3	1	3	8
	75歳以上	54	6	5	9	5	14	15
性別	男性	108	15	11	9	9	16	48
	女性	156	20	12	20	18	20	66
	どちらでもない	1	0	0	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	31	6	5	4	5	4	7
	渡利地区（立子山を含む）	22	3	3	1	2	3	10
	杉妻地区	8	1	1	1	3	0	2
	蓬萊地区	3	1	1	0	0	0	1
	清水地区	31	4	1	4	1	4	17
	東部地区（大波を含む）	15	1	2	2	1	2	7
	北信地区	29	4	0	6	2	8	9
	吉井田地区	10	1	2	0	0	2	5
	西地区（土湯を含む）	11	1	0	1	1	2	6
	飯坂地区（茂庭を含む）	17	3	1	1	0	1	11
	信陵地区	16	1	4	3	0	2	6
	松川地区	14	3	0	2	0	2	7
	信夫地区	25	1	1	0	1	4	18
	吾妻地区	23	4	0	2	9	3	5
	飯野地区	6	0	0	0	1	1	4
職業	正規の社員・職員	87	14	6	8	9	12	38
	派遣・嘱託・契約社員	14	3	3	0	1	2	5
	パート・アルバイト	33	3	0	2	9	1	18
	自営業（家事手伝い含む）	9	1	0	0	0	3	5
	会社役員	7	1	1	0	0	1	4
	学生	10	2	1	4	1	0	2
	専業主婦・主夫	30	3	3	3	1	2	18
	無職	76	8	8	12	6	17	25
家族構成	単身世帯	64	4	6	10	8	9	27
	1世代世帯	71	15	9	9	9	6	23
	2世代世帯	113	15	5	8	7	19	59
	3世代世帯	16	1	3	2	2	3	5
居住形態	持ち家（一戸建て）	183	22	14	19	18	31	79
	持ち家（集合住宅）	16	0	5	2	3	1	5
	民間賃貸（一戸建て）	7	1	0	0	0	0	6
	民間賃貸（集合住宅）	48	9	4	6	3	6	20
	公営住宅（市営・県営等）	8	2	0	1	3	0	2
	社宅・公務員住宅等	2	1	0	0	0	0	1

問18 新型コロナウイルス感染症が始まった2020年3月頃より前（コロナ禍前）と比べて、現在は他者とのコミュニケーションにどのような変化がありますか。
(①及び②について、それぞれ○は一つ)

① 人と直接会ってコミュニケーションをとること

「変わらない」（55.6%）が最も多く、全体の5割以上を占めています。次いで「減った」（28.6%）、「増えた」（12.1%）となっています。

選択肢	回答者	構成比
増えた	117	12.1%
変わらない	537	55.6%
減った	276	28.6%
無回答	36	3.7%
合計	966	100.0%

② 人と直接会わずにコミュニケーションをとること

「変わらない」（65.3%）と最も多く、全体の6割以上を占めています。次いで「増えた」（17.8%）、「減った」（11.6%）となっています。

選択肢	回答者	構成比
増えた	172	17.8%
変わらない	631	65.3%
減った	112	11.6%
無回答	51	5.3%
合計	966	100.0%

【問18】新型コロナウイルス感染症が始まった2020年3月頃より前（コロナ禍前）と比べて、現在は他者とのコミュニケーションにどのような変化がありますか。（①及び②について、それぞれ○は一つ）

		① 人と直接あってコミュニケーションをとること				② 人と直接会わずにコミュニケーションをとること			
		回答者数	増えた	変わらない	減った	回答者数	増えた	変わらない	減った
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示									
年齢	全体	930	117	537	276	915	172	631	112
	10～20歳代	123	14	71	38	127	37	78	12
	30歳代	104	17	59	28	102	28	66	8
	40歳代	152	12	89	51	154	27	114	13
	50歳代	139	16	75	48	141	24	92	25
	60歳代	144	19	84	41	141	28	97	16
	70～74歳	78	14	47	17	72	6	57	9
性別	男性	409	46	261	102	396	63	282	51
	女性	509	70	269	170	507	108	340	59
	どちらでもない	1	0	1	0	1	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	121	12	69	40	122	33	75	14
	渡利地区（立子山を含む）	65	6	40	19	62	12	44	6
	杉妻地区	41	5	23	13	42	7	32	3
	蓬萊地区	30	1	22	7	28	5	20	3
	清水地区	99	16	53	30	98	22	67	9
	東部地区（大波を含む）	44	5	22	17	43	8	28	7
	北信地区	99	16	53	30	95	13	64	18
	吉井田地区	49	3	31	15	49	11	34	4
	西地区（土湯を含む）	27	1	14	12	28	5	17	6
	飯坂地区（茂庭を含む）	63	9	34	20	64	11	45	8
	信陵地区	53	9	35	9	51	7	41	3
	松川地区	45	6	29	10	43	8	32	3
	信夫地区	88	13	49	26	85	17	53	15
	吾妻地区	78	11	44	23	75	10	55	10
	飯野地区	17	2	12	3	18	1	15	2
職業	正規の社員・職員	313	34	182	97	313	71	214	28
	派遣・嘱託・契約社員	44	1	24	19	44	10	25	9
	パート・アルバイト	115	17	68	30	115	21	83	11
	自営業（家事手伝い含む）	63	10	38	15	59	11	43	5
	会社役員	19	5	6	8	19	6	8	5
	学生	32	5	23	4	34	12	20	2
	専業主婦・主夫	115	15	61	39	112	19	80	13
	無職	225	28	134	63	215	22	156	37
家族構成	単身世帯	122	16	69	37	121	20	84	17
	1世代世帯	291	37	164	90	285	49	203	33
	2世代世帯	442	57	261	124	436	94	289	53
	3世代世帯	59	6	31	22	57	8	43	6
居住形態	持ち家（一戸建て）	674	87	396	191	656	120	454	82
	持ち家（集合住宅）	44	3	27	14	43	12	26	5
	民間賃貸（一戸建て）	33	0	19	14	33	4	23	6
	民間賃貸（集合住宅）	131	20	70	41	137	28	98	11
	公営住宅（市営・県営等）	22	2	13	7	22	3	15	4
	社宅・公務員住宅等	14	3	6	5	13	4	8	1

6 防犯・再犯防止について

問19 福島市が犯罪のない（少ない）安全で安心な暮らしやすい街だと感じますか。

(○は一つ)

「どちらかといえば感じる」（58.1%）が最も多く、全体の約6割を占めています。次いで、「感じる」（13.7%）、「わからない」（12.8%）となっています。

選択肢	回答者	構成比
感じる	132	13.7%
どちらかといえば感じる	561	58.1%
どちらかといえば感じない	77	8.0%
感じない	49	5.1%
わからない	124	12.8%
無回答	23	2.4%
合計	966	100.0%

【問19】福島市が犯罪のない（少ない）安全で安心な暮らしやすい街だと感じますか。（○は一つ）

		回答者数	感じる	るどちらかといえば感じ	などどちらかといえば感じ	感じない	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示							
全体		943	132	561	77	49	124
年齢	10～20歳代	129	22	79	3	8	17
	30歳代	104	13	59	11	8	13
	40歳代	154	17	94	14	12	17
	50歳代	142	14	92	10	9	17
	60歳代	147	19	89	15	3	21
	70～74歳	77	13	47	7	3	7
	75歳以上	190	34	101	17	6	32
性別	男性	413	67	228	33	24	61
	女性	518	63	331	43	21	60
	どちらでもない	1	0	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	121	28	69	10	3	11
	渡利地区（立子山を含む）	67	11	41	2	6	7
	杉妻地区	43	4	31	2	5	1
	蓬莱地区	30	4	17	3	2	4
	清水地区	103	12	63	8	5	15
	東部地区（大波を含む）	44	4	31	3	2	4
	北信地区	99	7	62	14	3	13
	吉井田地区	47	3	28	6	1	9
	西地区（土湯を含む）	28	5	13	2	3	5
	飯坂地区（茂庭を含む）	65	10	38	5	2	10
	信陵地区	52	8	28	6	4	6
	松川地区	47	7	27	4	3	6
	信夫地区	89	13	51	6	6	13
	吾妻地区	79	8	50	3	4	14
	飯野地区	17	6	7	0	0	4
職業	正規の社員・職員	319	47	192	26	19	35
	派遣・嘱託・契約社員	54	3	27	4	15	5
	パート・アルバイト	114	11	75	8	6	14
	自営業（家事手伝い含む）	63	10	38	5	3	7
	会社役員	21	2	14	1	2	2
	学生	34	7	21	0	2	4
	専業主婦・主夫	116	15	74	12	2	13
	無職	228	37	117	21	10	43
家族構成	単身世帯	124	15	71	7	7	24
	1世代世帯	292	41	167	22	17	45
	2世代世帯	450	68	278	36	22	46
	3世代世帯	61	6	36	11	3	5
居住形態	持ち家（一戸建て）	683	92	416	57	33	85
	持ち家（集合住宅）	43	9	22	6	3	3
	民間賃貸（一戸建て）	33	4	16	2	3	8
	民間賃貸（集合住宅）	137	22	79	11	10	15
	公営住宅（市営・県営等）	22	2	14	0	0	6
	社宅・公務員住宅等	14	1	10	0	0	3

問20 非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りなどを支援する民間協力者がいることを聞いたことがありますか。(聞いたことがあるもの全てに○)

「保護司」(24.5%)が最も多く、次いで「こども110番ひなんの家」(24.0%)、「更生保護施設」(15.6%)となっています。

選択肢	回答者	構成比
保護司	539	24.5%
更生保護女性会	34	1.5%
協力雇用主	87	4.0%
BBS会	27	1.2%
更生保護施設	343	15.6%
福島市青少年センター補導委員	157	7.1%
こども110番ひなんの家	527	24.0%
防犯協会	284	12.9%
その他	4	0.2%
わからない	196	8.9%
合計	2198	100.0%

【「その他」の回答】

- あまり興味がない。(30歳代 男性)

【問20】非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りなどを支援する民間協力者がいることを聞いたことがありますか。
(聞いたことがあるもの全てに○)

・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示		回答者数	保護司	更生保護女性会	協力雇用主	BBS会	更生保護施設	福島市青少年センター	のこども110番ひなん	防犯協会	わからない
全体	2194	539	34	87	27	343	157	527	284	196	
年齢	10～20歳代	218	34	2	3	6	31	15	71	15	41
	30歳代	215	45	4	10	2	36	14	55	19	30
	40歳代	363	71	8	13	4	62	23	99	42	41
	50歳代	347	96	7	16	4	60	22	78	40	24
	60歳代	397	103	3	14	5	68	30	98	60	16
	70～74歳	195	53	3	10	1	23	16	44	35	10
	75歳以上	459	137	7	21	5	63	37	82	73	34
性別	男性	969	239	16	46	14	136	78	185	152	103
	女性	1198	293	18	40	13	202	76	338	128	90
	どちらでもない	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
居住地区	中央地区（本庁）	288	76	6	17	3	46	22	63	30	25
	渡利地区（立子山を含む）	149	39	0	7	2	26	11	34	16	14
	杉妻地区	101	23	2	4	1	12	10	25	14	10
	蓬莱地区	66	17	0	3	2	8	3	15	10	8
	清水地区	226	60	5	7	6	36	14	51	25	22
	東部地区（大波を含む）	111	23	3	2	3	17	11	29	17	6
	北信地区	235	56	3	12	1	32	18	65	36	12
	吉井田地区	122	31	1	4	1	27	7	30	13	8
	西地区（土湯を含む）	52	13	1	1	1	5	5	13	7	6
	飯坂地区（茂庭を含む）	159	30	2	9	3	27	12	36	23	17
	信陵地区	134	32	3	7	0	24	10	27	19	12
	松川地区	92	26	1	1	0	11	6	22	16	9
	信夫地区	203	49	3	4	1	35	13	52	22	24
	吾妻地区	192	46	3	7	3	28	12	49	27	17
	飯野地区	39	12	0	1	0	4	0	11	7	4
職業	正規の社員・職員	716	155	15	29	10	121	52	169	83	82
	派遣・嘱託・契約社員	90	21	1	2	0	16	7	25	7	11
	パート・アルバイト	279	62	4	12	5	46	17	77	36	20
	自営業（家事手伝い含む）	154	41	1	7	2	22	11	42	23	5
	会社役員	68	18	2	3	2	9	7	15	11	1
	学生	59	9	0	1	2	5	6	22	3	11
	専業主婦・主夫	302	84	3	16	3	51	17	80	35	13
	無職	516	146	8	17	3	72	38	95	84	53
家族構成	単身世帯	271	70	4	11	5	43	18	55	33	32
	1世代世帯	719	178	9	37	14	102	56	163	106	54
	2世代世帯	1036	251	18	34	7	172	73	261	122	98
	3世代世帯	135	33	2	4	1	22	7	43	17	6
居住形態	持ち家（一戸建て）	1643	418	23	62	22	250	121	387	229	131
	持ち家（集合住宅）	111	25	3	4	2	18	11	29	14	5
	民間賃貸（一戸建て）	75	17	0	6	0	14	4	18	6	10
	民間賃貸（集合住宅）	255	55	4	10	2	44	10	70	19	41
	公営住宅（市営・県営等）	60	14	1	4	1	9	4	14	10	3
	社宅・公務員住宅等	32	7	2	1	0	6	4	6	4	2

問21 非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りや見守り、声かけなどに協力したいと思いますか。(○は一つ)

「わからない」(25.5%)が最も多く、次いで「どちらかといえば思う」(22.5%)、「どちらかといえば思わない」(19.8%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	構成比
思う	96	9.9%	9.9%
どちらかといえば思う	217	22.5%	22.5%
どちらかといえば思わない	191	19.8%	19.8%
思わない	189	19.6%	19.6%
わからない	246	25.5%	25.5%
無回答	27	2.8%	2.8%
合計	966	100.0%	

【問21】非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りや見守り、声かけなどに協力したいと思いますか。（○は一つ）

		回答者数	思う	どちらかといえば思う	などどちらかといえば思わない	思わない	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示							
全体		939	96	217	191	189	246
年齢	10～20歳代	128	9	34	21	33	31
	30歳代	103	7	14	24	40	18
	40歳代	154	15	43	21	36	39
	50歳代	143	13	28	40	28	34
	60歳代	147	13	41	33	22	38
	70～74歳	76	10	14	21	10	21
	75歳以上	188	29	43	31	20	65
性別	男性	407	49	101	63	87	107
	女性	520	45	115	128	96	136
	どちらでもない	1	0	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	121	13	20	26	33	29
	渡利地区（立子山を含む）	67	4	19	20	10	14
	杉妻地区	43	4	10	7	12	10
	蓬莱地区	30	2	9	5	6	8
	清水地区	102	7	27	20	21	27
	東部地区（大波を含む）	44	6	13	9	9	7
	北信地区	98	8	26	13	19	32
	吉井田地区	48	4	10	14	8	12
	西地区（土湯を含む）	27	5	7	4	4	7
	飯坂地区（茂庭を含む）	65	9	12	12	12	20
	信陵地区	52	7	7	15	12	11
	松川地区	45	3	11	9	10	12
	信夫地区	88	11	14	14	18	31
	吾妻地区	79	8	25	15	13	18
	飯野地区	18	2	6	4	1	5
職業	正規の社員・職員	317	24	83	63	77	70
	派遣・嘱託・契約社員	45	7	5	9	14	10
	パート・アルバイト	116	10	25	24	23	34
	自営業（家事手伝い含む）	59	5	18	10	16	10
	会社役員	21	9	3	2	5	2
	学生	34	2	10	6	6	10
	専業主婦・主夫	116	9	29	31	12	35
	無職	227	29	44	45	35	74
家族構成	単身世帯	125	10	34	24	24	33
	1世代世帯	292	30	66	63	58	75
	2世代世帯	445	41	100	93	97	114
	3世代世帯	61	11	16	10	8	16
居住形態	持ち家（一戸建て）	679	70	167	139	126	177
	持ち家（集合住宅）	47	4	10	12	9	12
	民間賃貸（一戸建て）	30	3	4	6	10	7
	民間賃貸（集合住宅）	136	11	28	26	36	35
	公営住宅（市営・県営等）	22	2	4	4	4	8
	社宅・公務員住宅等	14	2	4	3	3	2

7 その他

問22 今後の地域社会において、あなたが特に重視する事項は何ですか（○は三つまで）

「健やかで安心して暮らせる地域生活の構築【健やか・安心】」（21.5%）が最も多く、次いで「災害に対して強靭な地域づくりの推進【防災】」（14.2%）、「緊急時に即応可能な支援体制の構築【緊急時支援体制】」（13.2%）となっています。

選択肢	回答者	構成比
お互いを尊重し支え合う意識の醸成 【互いの尊重】	268	11.2%
地域福祉の推進を担う人材の育成 【人材育成】	159	6.7%
住民主体による支え合いの基盤強化 【支え合い】	136	5.7%
地域福祉を支える人材や関係団体・機関の共創による地域福祉力の向上 【共創】	135	5.7%
災害に対して強靭な地域づくりの推進 【防災】	339	14.2%
緊急時に即応可能な支援体制の構築 【緊急時支援体制】	315	13.2%
利用者の立場に立った福祉サービスの提供 【利用者目線のサービス提供】	293	12.3%
地域における権利擁護（虐待・成年後見等）の推進 【権利擁護】	47	2.0%
健やかで安心して暮らせる地域生活の構築 【健やか・安心】	513	21.5%
複雑で複合的な悩みを抱えた人への総合相談や支援体制の整備 【包括的支援】	112	4.7%
その他	17	0.7%
特にない	50	2.1%
合計	2384	100.0%

【「その他」の回答】

- 経済的に強い（地域の資金が高い）、子どもが安心して暮らせる地域（30歳代 男性）
- 世代ニーズの収集と世代に合わせて行政サービスの提供（30歳代 男性）
- 子育て支援（30歳代 女性）
- 多様性を感じられる地域になってほしい。（10～20歳代）
- 子育て支援（30歳代 女性）
- 身寄りのない高齢者、独居の高齢者など民間身元保証人、成年後見人などの充実（40歳代 男性）
- 教育環境（40歳代 女性）
- まちおこし、経済活動（60歳代 男性）
- 情報及び社会的弱者の方が生きるために基盤や助けの提供（10～20歳代 女性）
- 子どもが住みやすい社会（30歳代 男性）

【問22】今後の地域社会において、あなたが特に重視する事項は何ですか（〇は三つまで）

		回答者数	意お 識互 いの醸 成尊重 し成 し支 え合 う	材地 の域 育福 成祉 の推 進を 担う 人	の住 基民 盤主 強化 による 支え 合 い	よ関地 域地 団福 祉機 力関 えの 向共人 上創 材に や	づ災 害に の對 して 強 韌 な地 域	体 緊急 時 に構 築の 即 応可 能な 支 援	祉 利用 者 サ ー ビ スの 立 場 提 供 立 た福	推 進 地 域 に お け る ・ 成 年 後 見 等 の の 權 利 擁 護	健 や か 地 域 生 活 の 構 築	複 体 人 へ 複 合 的 な 相 談 み や 支 抱	特 に な い
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示													
全体		2367	268	159	136	135	339	315	293	47	513	112	50
年齢	10～20歳代	319	34	24	13	16	46	38	42	17	63	18	8
	30歳代	240	18	19	8	13	43	32	28	6	54	12	7
	40歳代	383	49	28	16	16	65	48	43	8	90	13	7
	50歳代	349	36	23	15	17	60	54	45	2	71	18	8
	60歳代	377	31	19	28	33	49	71	51	8	68	13	6
	70～74歳	204	25	9	15	6	25	23	30	2	54	10	5
	75歳以上	493	75	37	41	32	51	49	54	4	113	28	9
性別	男性	1018	129	68	67	60	150	124	120	12	225	34	29
	女性	1326	136	88	68	75	187	189	170	35	283	76	19
	どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居住地区	中央地区（本庁）	300	35	24	17	23	54	37	34	6	59	7	4
	渡利地区（立子山を含む）	172	16	16	13	12	26	17	20	7	33	11	1
	杉妻地区	111	11	8	6	8	19	15	10	3	25	5	1
	蓬莱地区	81	10	7	4	6	7	4	13	1	19	8	2
	清水地区	251	30	15	14	15	35	35	31	5	56	9	6
	東部地区（大波を含む）	123	16	6	7	5	19	18	19	1	25	6	1
	北信地区	243	23	9	9	7	40	46	35	5	53	10	6
	吉井田地区	125	13	9	6	8	20	20	12	2	27	7	1
	西地区（土湯を含む）	70	11	4	5	2	8	8	7	2	15	5	3
	飯坂地区（茂庭を含む）	162	16	14	3	8	24	24	22	2	37	9	3
	信陵地区	124	20	10	6	6	11	16	16	1	28	7	3
	松川地区	119	11	3	13	10	12	14	14	0	28	10	4
	信夫地区	208	20	13	9	9	36	26	28	4	49	5	9
	吾妻地区	203	25	17	17	14	18	25	24	4	46	9	4
	飯野地区	49	11	3	7	1	6	6	3	2	8	1	1
職業	正規の社員・職員	776	78	57	38	53	128	108	92	10	171	28	13
	派遣・嘱託・契約社員	97	8	5	7	4	13	16	8	6	22	6	2
	パート・アルバイト	303	35	17	8	12	46	38	39	9	73	17	9
	自営業（家事手伝い含む）	151	21	13	17	10	18	22	14	0	27	6	3
	会社役員	50	6	3	1	4	11	7	6	2	9	0	1
	学生	89	12	8	6	4	9	12	12	6	16	4	0
	専業主婦・主夫	300	31	16	16	16	36	50	40	8	71	16	0
家族構成	無職	592	75	39	43	32	77	61	81	6	123	34	21
	単身世帯	294	27	17	16	19	43	44	34	7	62	17	8
	1世代世帯	744	81	52	43	38	112	108	95	11	161	31	12
	2世代世帯	1136	134	75	65	70	158	141	142	25	247	58	21
居住形態	3世代世帯	157	19	13	12	5	23	21	18	2	35	5	4
	持ち家（一戸建て）	1753	208	119	113	105	242	227	217	30	379	81	32
	持ち家（集合住宅）	115	11	8	5	5	24	14	16	2	27	2	1
	民間賃貸（一戸建て）	82	7	5	3	3	11	11	9	3	19	8	3
	民間賃貸（集合住宅）	312	28	20	14	17	52	53	32	8	66	13	9
公営住宅（市営・県営等）		55	11	4	1	2	3	6	13	3	9	1	2
社宅・公務員住宅等		30	1	3	0	3	5	4	3	0	8	3	0

問23 本市が行う福祉サービスに満足していますか。(○は一つ)

「どちらでもない」(27.8%)が最も多く、次いで「やや満足している」(23.6%)、「わからない」(22.6%)となっています。

選択肢	回答者	構成比	
満足している	68	7.0%	7.0%
やや満足している	228	23.6%	23.6%
どちらでもない	269	27.8%	27.8%
やや不満である	95	9.8%	9.8%
不満である	70	7.2%	7.2%
わからない	218	22.6%	22.6%
無回答	18	1.9%	1.9%
合計	966	100.0%	

【問23】本市が行う福祉サービスに満足していますか。（○は一つ）

		回答者数	満足している	やや満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である	わからない
・単位：回答者数 ・「その他」「無回答」は非表示								
全体		948	68	228	269	95	70	218
年齢	10～20歳代	129	8	26	38	16	10	31
	30歳代	105	4	19	32	15	14	21
	40歳代	155	12	30	55	10	12	36
	50歳代	144	8	30	48	17	8	33
	60歳代	146	5	35	43	19	12	32
	70～74歳	77	9	22	17	6	6	17
	75歳以上	192	22	66	36	12	8	48
性別	男性	422	34	108	117	35	27	101
	女性	515	34	117	150	59	40	115
	どちらでもない	1	0	0	0	0	1	0
居住地区	中央地区（本庁）	114	9	27	26	12	10	30
	渡利地区（立子山を含む）	77	6	17	28	11	4	11
	杉妻地区	43	1	7	16	2	8	9
	蓬莱地区	30	2	9	8	3	0	8
	清水地区	103	5	25	31	11	8	23
	東部地区（大波を含む）	45	4	12	14	6	1	8
	北信地区	99	9	21	26	9	7	27
	吉井田地区	49	4	11	15	4	2	13
	西地区（土湯を含む）	29	3	6	6	4	3	7
	飯坂地区（茂庭を含む）	64	8	21	14	2	4	15
	信陵地区	52	3	9	15	7	6	12
	松川地区	48	1	20	13	3	4	7
	信夫地区	87	3	20	24	9	6	25
	吾妻地区	78	6	17	25	10	4	16
	飯野地区	18	3	5	4	0	1	5
職業	正規の社員・職員	321	16	66	108	36	24	71
	派遣・嘱託・契約社員	44	1	9	19	5	3	7
	パート・アルバイト	115	6	21	39	11	8	30
	自営業（家事手伝い含む）	62	5	16	19	5	4	13
	会社役員	22	2	6	2	5	5	2
	学生	34	4	7	7	4	1	11
	専業主婦・主夫	113	9	31	27	11	9	26
	無職	223	25	70	37	17	16	58
家族構成	単身世帯	123	10	20	35	9	6	43
	1世代世帯	295	18	71	83	26	26	71
	2世代世帯	452	34	116	128	53	36	85
	3世代世帯	62	5	17	20	4	2	14
居住形態	持ち家（一戸建て）	688	47	180	195	69	46	151
	持ち家（集合住宅）	45	5	9	14	3	3	11
	民間賃貸（一戸建て）	34	0	6	11	5	5	7
	民間賃貸（集合住宅）	134	10	22	42	13	11	36
	公営住宅（市営・県営等）	22	3	6	1	2	3	7
	社宅・公務員住宅等	14	0	4	3	0	2	5

問24 地域福祉に関することで、ご意見・ご要望などありましたらご記入ください。

(自由記載)

- 介護認定の時間がかかりすぎだと感じます。そもそも、認知症になったから申請できると考えている人がほとんどで、認知症以外でも申請できる事を積極的に市から発信して欲しい。暫定的に介護支援を受けられる制度もあると言う事も合わせて。
以前、手話奉仕員養成講座を受講しました。今は、手話サークルに参加していますが、出来れば養成講座を初級、中級と増やして欲しいです。養成講座が終わった後は、手話通訳講座しかないのでハードルが高いと感じます。
(50歳代 女性)
- 子育てするにあたり、学校の老朽化が気になる。保育所が長女と長男で信夫山の北と南に位置しており、送り迎えが大変。どの地域の需要が高いかを応募人数で把握が可能だと思うので、現在ある施設を利用して保育所を開所するなどの方策を考えていただきたい。
(30歳代 男性)
- 子育て支援も重要ですが、個人の財力に左右されない介護の支援も充実してほしい。家族の介護ばかりで自分の将来が見えない。家族から解放されたい。
(30歳代 女性)
- 福島市は待機児童ゼロと言っていますが、希望する地域の施設に入れず仕方なく育休を延ばしているお母さんがたくさんいます。それを待機児童ゼロと言われると、モヤモヤします。また、施設の定員に余裕があっても保育士が揃わず、受け入れられない場合もあり、人材の育成や待遇の改善に力を入れて欲しいです。誰でも通園制度もまずは人材確保が出来なければ難しいと思います。何を始めるにしても、現場の声を聞いてから検討して下さい。
(40歳代 女性)
- 高齢者を支えるためにも若年層が生活しやすい政策、育児政策等の整備を希望します。
(10~20歳代 男性)
- 少子化対策として子育て支援は必要と感じているが、今般の子育て事情は祖父母の子育てに係る援助や家計的な支援も多々求められるご時世になってきており、正直、自分自身も妻も働きながら現実問題として多方面に援助しているのが実情。祖父母も子育て世代を仕事しながら支援しやすい福利厚生を切に希望します。
(50歳代 男性)
- 子育てをまともにできない人が、増えているように感じる。学ぼうともしない。何でも学校や行政のせいにしている。子ども達が小さい頃は、学習センターの子育て教室や子どもクラブや催しなどたくさん利用してとても良かった。こむこむ館や児童公園も何回も行った。市の施設や催しをたくさん利用しながら子育てすると、お金をかけずに良質な教育が受けられるということに気づいてほしい。でも、チラシを学校で配付するのはやめてほしい。学校の仕事が増える。電子チラシも同様。LINE登録者のみ市から直接送るとかにしてほしい。
(40歳代 女性)

- 一言に地域福祉と言っても多岐にわたりますが、共通して言えるのは「どの様なサービス」が「どこで受けられる」のか「どうしたら受けられる」のかがわからない現状があると思います。困りごとの相談先がわからない、相談しても手続きの複雑さに困惑する。充実した福祉サービスは大切ですが先ずは地域に密着した福祉サービスが必要だと思います。 (60歳代 男性)
- 児童、ファミリー向け施策（教育、インフラ、負担割合）など、他自治体の取り組みや支援と同等の水準まで引き上げて欲しい。ハード面の施策はそれなりに充実していると感じるが、ソフト面の施策や人材の質、柔軟性が他地域よりも遅れていると感じる。 (30歳代 男性)
- 福祉相談が気軽にできるようにして欲しい。福祉器具を安くあるいは無料で貸し出して欲しい。 (60歳代 男性)
- 福島市として学童保育などの子育て事業への理解と支援(待機児童、各種助成金)に力を入れて欲しい。 (30歳代 男性)
- 昔と比べて育児や児童発達に関わる支援センターは増えて助かっていますが、もう少し施設の充実や専門知識のある人材の育成に力を入れてほしい。 (30歳代 女性)
- 一番の関心が独居老人対策であり、最重要なのが見守り体制の構築である。そのためには、行政による仕組みづくりが重要と考える。例えば、インフラを活用した見守り、水道や電気の使用状態の常時監視、対面での確認、地域医院・かかりつけ医、看護師による定期的な訪問・巡回。これらの仕組みを作つて、地域住民に提案し協力を仰ぐことが重要と考えます。 (75歳以上 男性)
- 双子を育てています。赤ちゃんの頃、双子の会などに参加してみたかったのですが、双子を育てながら会への参加は、準備をして家を出るというところからとても難しく、一度も参加することができませんでした。知人もおらず、とても孤独でおかしくなりそうでした。そういう集まりに出てこられる人はあまり問題ない場合が多く、家から出でこられない人にもっとフォーカスする必要があるのではないかと思います。余裕がなさすぎる母や家庭への支援がもっと必要だと思います。これは双子に限ったことではなく、子育て支援の課題なのではないかと感じています。また、子育てしながら仕事をすることが当たり前になっていますが、子どもが体調を崩せば職場に頭を下げ、収入も減ってしまいます。母は、子どもにとって唯一無二の存在です。当たり前に子どもとゆつたり安心して一緒に過ごすことができる世の中にしていただきたいと思います。 (30歳代 女性)
- 他（外国）地域から越してきて、初めは長らく住まわれている方々が住むところで暮していくのは難しいと心配でしたが、子供を育てる中でも隣同士がわからない所より、良いのでは？と思い決めました。約10年以上経った今もここに決めて良かったと思うところです。周りの方々が、年老いてきて亡くなる方、一人になってしまった方も増えてきました。どうか、助けが必要な人にいき届く福祉でありますように。助けられる事があれば学ぶ機会などお願いしたいです。 (50歳代 男性)

- 高齢者が増えている中で介護度（介護サービス）を、身体能力基本ではなく認知度もベースにして検討してほしい。独歩できるからと介護度が低いと入所できる施設が限られてくる。一番介護が必要なのは独歩の認知症であると思う。 （40歳代 女性）
- 身の回りで福祉に関する利用者が居ない為、実感があまりありません。今後、身近になっていくと思うので、関心を持ちたいと感じています。 （50歳代 男性）
- 知的障がいのある方が地域内にいて、大声を出したり、汚い言葉を使っていたりして、大人も子どもも怖い思いをしたことがあります。そういう事態を防ぐことができる地域になると良いなと思います。 （30歳代 男性）
- せっかく問22のようなことが沢山あるということをもっと市民が知らなければ表題だけで利用活用が出来ずもっと市民に知ってもらうことが市民の喜びになっていくと思います。福祉サービスの宣伝が市民の喜びにつながっていくのではないかでしょうか。 （75歳以上 女性）
- 子供の遊ぶ所が少なすぎる。小さい子から大きい子まで。 （30歳代 女性）
- 介護事業所の内容が不充分で、リハビリに行つたけれど全く効果のあることが出来なかった。市内全部の事業所をテストすることも出来ないので、行政として事業所の質の向上を考えてほしい。 （75歳以上 女性）
- 今地域社会では高齢化が急速に進んでいる。所々に空き家が目立つようになっているが、跡にできるのはアパートばかり。アパートに入るのは学生や若い人だが、町内活動に参加する人はまずいない。建設業者には入居者が町内会員となり町内活動に参加するよう話してほしい（建設許可時に）。若い人が加わり、町内活動に活気が出るものと思う。 （75歳以上 男性）
- 犯罪防止のために街灯の数を増やしていただけると、より安心です。（空き家が多い地区は特に） （60歳代 女性）
- いつもお世話になっております。福島市はこれまで経験した町の中ではとても住みやすく、また、地域福祉も比較的行き届いているように思います。今後とも、素敵なまちづくりを目指していただけたら幸いです。 （50歳代 女性）
- 高齢で要支援者の受け入れられる施設の充実を要望します。 （75歳以上 男性）
- 福島市内の経済の活性化や、街の賑わいが地域福祉にもつながると思う。多数の人が市外に買い物に行く状態では寂れるばかり。 （60歳代 男性）
- 地域のつながりが昔のようにあったらいいと思います。 （30歳代 女性）
- 希望する人が老人ホーム等にスムーズに入れればいいと思います。義母の看護の時は300人台の順番待ちだと言われました。 （75歳以上 女性）
- これから子どもたちが大きくなるにつれ、犯罪にまきこまれないか不安に思う。数十年前も問題になったが、教育機関の近くに元犯罪者の更生施設は建設してほしくない。ただ、子育て支援へのサービスは充実していると感じる。ありがとうございます。 （30歳代 女性）

- 現在デイサービスで介護を受けている身ですが、サービスを提供する側からみて現在どんな問題に直面しているか、悩んでいることがあればどんなことかなど、逆に知りたいです。率直に活かすことにより、良い解決法を見出されることもあるかと存じます。
(75歳以上 女性)
- 地域で障がいを持った方が過ごす施設や活動があると思いますが、そういった施設や活動内容を広報などで知らせてほしいです。自分の地域で活動されることへの理解や支援などの気持ちが各自につくられると思う。地域ぐるみで理解、支援が広がるとよい。
(10~20歳代 男性)
- 高齢者の買い物や、生活の手厚い支援がまだまだ十分に足りていないと感じる。
(50歳代 女性)
- 高齢者の健康維持のため、ボランティア活動を積極展開すると良いと思う。
(70~74歳 男性)
- 問23は、利用した事がないのでサービスの満足度についてはわからないが、これから先利用する可能性はあると思うので窓口などわかりやすくしておいて欲しい。
(70~74歳 女性)
- 今のところ仕事をしているので孤独とは感じないが、退職後、社会とのつながりを自分からさがしていかないと孤独になると思う。遠方の友人とも頻繁に会えなくなるので地域のイベントや行事に参加してつながりを保っていきたい。
(50歳代 女性)
- SNSを利用できる人は情報をすぐとれるが、電波が混雑時に使用できない。SNSを利用できない人は、手元の情報がすぐ受け取れない。支所の場所にも遠かったら交通手段のない人にはむずかしい。各地域の学校で同じ情報がすぐとれれば安心かもしれない。地域か福祉かの区別ではなく、地域の中の福祉としてなら昔ほど互助がなくなりつつあり、むずかしいのかもしれない。空き家が多く、土地があっても、農業のみに使える土地で家を立てることができない場所は人口も減少するのは当然だと思う。ただ若い人がコミュニティに入っていくには入りづらい雰囲気もあり、むずかしいのかもしれない。
(40歳代 女性)
- 独居高齢者や高齢者夫婦がサービスを利用しやすい街になってほしいと思います。怪我や病気をきっかけに介護を要する方が多く、それにともない元の生活の場に戻れない方も多い。家族も含め地域でより良い生活ができる環境になってほしいです。
(30歳代 女性)
- 家族に障がい者手帳を持っているものがいます。外に出ようとしても段差でつまずいたり、歩道や道路がデコボコしていて安心して歩けません。横断歩道を渡るにも雑草が生い茂っていて前が見えにくかったりしています。障がい者にもやさしい街であってほしいと思います。
(50歳代 女性)
- 児童養護施設で働いていたが、人手不足で子どもたちにちゃんとした指導が出来ていないと感じた。また、親と子の対話するための場所が少ないとも感じている。保育関係の負上げも考えていただきたい。
(10~20歳代 女性)

- 子供とお年寄がふれあえるイベントがあると良いと思います。シングルマザー、シングルファーザーと、孤立しがちな高齢の方と接点があれば、双方にプラスになることもあると思います。あえて機会をつくっても、強制するようで逆効果になることもあるので、自然と参加できるイベントがあればと思います。退職後の両親を見ていて感じました。期待しています。 (50歳代 女性)
- 一人生活で今の時点では、健康に過ごせているので特に不満を感じていないが、高齢者が多い福島で介護が必要になったとき、どのようなサービスが受けられるか不安を感じる。 (75歳以上 女性)
- ケアマネジャーの人数が不足しているのか、私にはついていません。民生委員さんが時々来てくださるのでそれとなく相談していますが、これから健康について相談にのってほしいです。 (75歳以上 女性)
- 高齢者の免許返上や近所の小売店の減少などにより買物の不便さを実感している人たちが増加しています。地域全体で配食サービスやふれあいサロンなどの活動をさらに推し進めていっていただきたいと思います。活動を周知徹底し孤立することのないよう支援していく必要を強く感じます。 (75歳以上 女性)
- 子どもの屋内遊び場がありません。本当に困っています。夏場の暑い時に遊ばせる場所を提供してください。子育てしやすい福島市とはとても思えません。どうぞよろしくお願いします。 (10~20歳代 女性)
- 夫が若年性認知症になり進行しています。今後、包括の方にお世話になるかと思います。そこで初めて色々な事を考えたり感じたりするのだろうと思っています。話を聞いてもらうだけでもきっと心強いと感じると思います。 (50歳代 女性)
- 子育てしやすい環境が整っていないように感じるので出産をためらってしまいます。少し前のように共働きでなくとも子育てができるような状況にしてほしい (賃金の引上げ、物価の値下げ、子育てに関する制度など)。私は持病があり、フルタイムで働くのが難しいが、今は夫婦でフルで働いて二人分の暮らしができる程度なので、できれば少なくともパートタイムで子育てできるくらいになるとよいと思う。
(10~20歳代 女性)
- 情報弱者にならない様、対策をお願いいたします。 (75歳以上 女性)
- 今回のアンケートで、市がデジタルによる情報発信しているアプリを知った。これまでどのような分野でどのようなアプリがあるのかを知らなかったので、市報や転居手続きの際の資料にアプリを一覧にして紹介するような用紙を配布してみてはいかがでしょう。アプリを使うことでのメリットや利便性も説明してほしい。 (30歳代 女性)
- 原点は「向こう三軒両どなり」にある。現在は戸建住宅に引っ越してきててもあいさつもない。町内会にも入らない。「となりは何をするひとぞ」では『共助』の基盤は成り立たない。誰にも迷惑をかけていない、誰にも世話になっていないといった唯我独尊主義者が地域に結構居る。利己から利他への精神をいかに醸成していくことが出来るかが問われる。 (75歳以上 男性)

- 若者と高齢者間や住民間の連帯意識の希薄が感じられる中で住民間や住民主体による支え合いが心配。以前は個人でできるもの、地域で取り組む内容、個人や地域で解決不可能なものは行政にお願いする等地域住民間で話し合い生活してきたが、このような取り組み事態が困難になってきていると感じられる。行政にマルなげの感じが強い。もっと地域連帯意識醸成のための工夫や取り組みが必要かな？（75歳以上 女性）
- 今後、独り暮らしの高齢者が益々増えていくことが予想されます。そのような社会であっても安心・安全に暮らしていけるよう、行政サービスの充実に加えて、地域の見守り活動や、共助の仕組みの充実が図られるよう取り組むことが重要だと思います。その為の施策を宜しくお願ひします。（60歳代 男性）
- 包括支援センター等、福祉の窓口の人員がもっと増えることを望みます。市役所西棟が完成したら、高齢者又は地域住民の行事、催し物を行う場所として利用でき、活発な活動につながるのではと期待しております。地域で誘い合い高齢者の孤立、孤独の解消に少しでも役立てたいと思っています。（75歳以上 女性）
- 障がいのある子を育てています。その子たちが大きくなって社会に出たときに住みやすい町、働きやすい都市になっているといいです。（40歳代 女性）
- 福祉に関するワンストップ窓口。（50歳代 女性）
- 色々な事に対して連携が遅かったり、とれていない様に感じる事がある。年配の方の考え方方が強すぎて若い人の意見が上手く反映されずに、町内会での活動が滞る事が多くので上手く回って欲しい。（50歳代 女性）
- 「福祉」と言うと経済的、身体的に弱い立場にある人を支援していくイメージが強いですが、多様な時代の中で一人でも多くの方が元気に日々を過ごせる社会作りが大切と思います。今後の市の取り組みには新しい概念での福祉の取組みにも期待します。（50歳代）
- 市からの情報提供が不足している。よって市や関係団体の活動はテレビなどのニュースで終了後に知る事が圧倒的である。平時はともかく非常時には当局の情報提供が要となる。情報弱者が増える高齢化時代にこそ、よりシンプルで理解されやすいアプローチが必要と思う。（60歳代 男性）
- （高齢者問題）特に認知症、一人世帯の方々が近所にたくさんいらっしゃって困っている方がたくさんいます。サポート制度があっても知らない高齢者がいるので、手厚くして欲しいです。（10～20歳代 女性）
- 私はまだ子育てや介護をする生活をしていないので福島市の福祉サービスがどうなのか分かりませんが、若者が住みやすい街づくりとして、駅前でたまにある催しを人が集まる場所のきっかけとして、これからも沢山のイベント開催を応援しています。駅前が今何もないからこそライブ AZUMA など遊ぶ機会があると嬉しいです。進化する福島市を楽しみにしています。（30歳代 女性）
- 介護認定の申請から認定までの時間が、他市に比べてかかりすぎていると知人から聞いている。福祉関係については迅速な対応を臨む。（50歳代 女性）

- 福島市内に子どもが遊べる場所が少ないので伊達市まで遊びに行っています。もっと子育てしやすい福島市にしてほしいです。 (40歳代 女性)
- 子どもの室内遊び場が少ないことなど子どもを産みたいと思える環境が整っていない。子どもは一人しかいないが、これから二人目は考えられない。経済的にも苦しく3人で生活するのが精一杯。 (30歳代 女性)
- 高齢者介護に関わっていますが、人手が少ないことで気持ちにゆとりがなく「待つ」ことが難しい環境になりつつあります。社会においてもスピードや結果をすぐ求めることが重視されて「待つ」ことが難しくなっていると感じます。 (40歳代 女性)
- 地域包括支援センターと社会福祉協議会との関連性が分かりにくい。地域包括支援センターに多くの人材をつぎ込んでほしいと思います。 (75歳以上 男性)
- 「わからない」と問題を抱える方が、「わからないし、もういい」とあきらめないで、声をあげて「助けて」と言える環境であってほしいと思います。どんなにか制度やしくみへの理解力が乏しくても、生きて生活していこうと思えるならよい町だなと思います。あとは、子どもがもっと中心になっている町にしてほしいです。少子化ですが、それを理由に子どもが居たいと思える場所を減らしては、暗い沈んだ気持ちの子どもが増えそうだと感じています。 (10~20歳代 女性)
- 地域福祉に関して思うことは、福島市は高齢者に対してのサービスに比べ、未就学児に対してはまだまだ不足しているように感じています。私たちの子は医療ケア児です。特に医療ケア児と、その家族に対してのサポートが少ないように感じます。医療的ケアが必要というだけで、普通の子たちと同じように保育園にも通えない、なかなか子供を預かってくれる所がない。高齢者の施設は多いが、もう少し社会全体で医療的ケアを必要としている人達に目を向けて欲しいと思っています。医療ケア児は預かってくれる施設も時間も少なく、そのため医療ケア児を持つ親は常に自分達で子供を診なければならず、一般の子供の家庭のように子供を保育園に預けている間に仕事に出るというような事もむずかしく、社会復帰したくてもできない状況になっていると感じます。大人とか子供とか、健常者だと障がい者だと社会をうまくまわしていく為には区別は必要であると思っています。区別は必要であっても、その区別が差別になつてはならないと思います。私達の子供は医療ケア児です。その前に、私達の子供は皆さんと同じように福島市民です。福島市で産まれ、この街で生きて行きます。私達も大切に育てて行きます。しかし、行政のサポートは絶対に必要です。私達のように医療ケア児を大切に育てている家族は福島市内にも一定数います。一般の家庭と比べてしまうと割合的にはかなり少ない為、サポートも少なく、後回しにされていると思います。その方々もこの街で生活している福島市民です。少数ですが、私たちは声を上げ続けます。行政はもっともっと私達の現状を知つてほしいです。もっともっと私達の声に耳をかたむけてほしいです。福島市民の1人として、色々な人に優しい福島市になつてくれるよう願っています。 (30歳代 女性)

- 必要と感じている人に対しての福祉サービスをもっと充実させてほしい（よりそつて）。たまに広報車が回っていますが、なんと言っているのか聞き取れません。
(70~74歳代 女性)

など

III アンケート調査票

「つながり・支え合いのある地域共生社会」を考える

福島市の“地域福祉”推進のための アンケート調査へのご協力のお願い

みなさまには、日頃より福島市の地域福祉活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

福島市では、令和8年度からを計画期間とする「福島市地域福祉計画2026」の策定にあたり、市民のみなさまからのご意見・ご要望を計画に反映するため、アンケート調査を実施します。

本調査の対象者は、令和6年9月末日時点の住民基本台帳から18歳以上の2,500名の方を無作為に選ばせていただき、あなた様に調査票を送付させていただきました。お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年10月 福島市長 木幡 浩

回答方法 ※下記のどちらかを選択してご回答ください。

「インターネット」による回答方法	「調査票」による回答方法
<p>① URLもしくは二次元コードから、回答フォームにアクセスしてください。</p> <p>【URL】 https://www.task-asp.net/cu/eg/lar072010.task?app=202401043</p> <p>【二次元コード】 </p> <p>② 調査票と同様の質問が表示されます。</p> <p>③ 途中保存はできませんので、お時間に余裕のあるときに回答してください。</p>	<p>① 封筒のあて名にある<u>ご本人が記入</u>してください。ご本人による記入が難しい場合には、ご本人の意見を聞いて、代理の方が記入しても差し支えありません。</p> <p>② <u>当てはまる番号を○で囲んでください。</u> 「その他」を選択する場合は、番号を○で囲み、() 内にご意見をご記入ください。</p> <p>③ 記入完了後、<u>同封の返信用封筒</u>により、回答期限までにポストへ投函してください (切手不要)。</p>

回答期限

令和6年11月20日(水)まで ※当日消印有効

「地域福祉」とは？

それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるように、地域住民や福祉関係者などがあたかに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。

【お問い合わせ先】

福島市 健康福祉部

共生社会推進課 地域福祉係

〒960-8601 福島市五老内町 3-1

TEL: 024-525-3760(直通)

メール: tiiki@mail.city.fukushima.fukushima.jp



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



福島市の地域福祉に関して、皆様が日頃から感じていることをお聞かせください。
※回答にかかる時間は、10分程度です。

1 はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(○は一つ) ※令和6年10月1日現在		
(1) 10～20歳代	(2) 30歳代	(3) 40歳代
(4) 50歳代	(5) 60歳代	(6) 70～74歳
(7) 75歳以上		

問2 あなたの性別をおしえてください。(○は一つ)		
(1) 男性	(2) 女性	(3) どちらでもない

問3 あなたのお住まいの地区をおしえてください。(○は一つ)			
(1) 中央地区(本庁)	(2) 渡利地区(立子山を含む)	(3) 杉妻地区	(4) 蓬萊地区
(5) 清水地区	(6) 東部地区(大波を含む)	(7) 北信地区	(8) 吉井田地区
(9) 西地区(土湯を含む)	(10) 飯坂地区(茂庭を含む)	(11) 信陵地区	(12) 松川地区
(13) 信夫地区	(14) 吾妻地区	(15) 飯野地区	

問4 あなたの職業をおしえてください。(○は一つ)		
(1) 正規の社員・職員	(2) 派遣・嘱託・契約社員	(3) パート・アルバイト
(4) 自営業(家業手伝い含む)	(5) 会社役員	(6) 学生
(7) 専業主婦・主夫	(8) 無職	

問5 あなたの家族構成をおしえてください。(○は一つ)		
(1) 単身世帯		
(2) 1世代世帯(夫婦のみ、兄弟や姉妹のみなど)		
(3) 2世代世帯(親と子、祖父母と孫、夫婦と未婚の子、夫婦と子の夫婦など)		
(4) 3世代世帯(親と子と孫)		
(5) その他()		

問6 あなたのお住まいの居住形態をおしえてください。(○は一つ)		
(1) 持ち家(一戸建て)	(2) 持ち家(集合住宅)	(3) 民間賃貸(一戸建て)
(4) 民間賃貸(集合住宅)	(5) 公営住宅(市営・県営等)	(6) 社宅・公務員住宅等
(7) その他()		

2 人の「つながり」について

問7 近所の人とどの程度お付き合いがありますか。(○は一つ)	
(1) 家を行き来するなど親しい関係	【問8】へ
(2) 立ち話やあいさつを交わす程度	
(3) 顔を知っているが、声をかけることはほとんどない	【問7-1】へ
(4) ご近所付き合いはしていない	

問7-1 上記問7で(3)または(4)とした一番の理由はなんですか。(○は一つ)	
(1) 仕事や学業、家事、育児などで忙しく時間がない	
(2) 引っ越してきて間もない	
(3) 普段、付き合う機会がない	
(4) 同世代の人が近くにいない	
(5) 気の合う人や話の合う人が近くにいない	
(6) あまり関わりをもちたくない	
(7) その他 ()	

問8 日常生活で主にどのような悩みや不安がありますか。(○は三つまで)	
(1) 自分の健康・病気に関すること	
(2) 自分の仕事・将来・老後に関すること	
(3) 自分の子どもの育児や教育に関すること	
(4) 自分の住まいに関すること	
(5) お金(生活費、財産管理、相続など)に関すること	【問8-1】へ
(6) 人間関係、人との付き合い方に関すること	
(7) 家族の介護に関すること	
(8) 自分や家族のひきこもりに関すること	
(9) その他 ()	
(10) 特にない	【問9】へ

問8-1 日常生活の悩みや不安は、主に誰と相談しますか。(○は三つまで)	
(1) 同居している家族	
(2) 同居していない家族	
(3) 知人、友人、職場の人	
(4) 近所の人、町内会の役員	
(5) 行政機関(市役所や支所など)	【問9】へ
(6) 民生委員、児童委員	
(7) かかりつけの病院や薬局	

※問8-1の選択肢は、次ページにも続きがあります。

(8) 社会福祉協議会	【問9】へ
(9) 地域包括支援センターや福祉施設	
(10) その他 ()	
(11) 身近に相談できる人や機関がない	
(12) 相談しない	

問8－2 「相談しない」主な理由はなんですか。(○は三つまで)	
(1) 相談窓口がわからない	
(2) 相談するのに気が引ける	
(3) 相談窓口が遠い	
(4) 個人情報の扱いに不安がある	
(5) 面倒である	
(6) 相談する必要性を感じない	
(7) その他 ()	

問9 地域の催しや行事、活動などに参加していますか。(○は一つ)	
(1) よく参加している	
(2) たまに参加している	【問9－1へ】
(3) あまり参加していない	
(4) 全く参加していない	【問9－2へ】

問9－1 地域で主にどのような催しや行事、活動に参加していますか。(○は三つまで)	
(1) 地域でのお祭り (夏祭り、花火大会、例大祭 など)	
(2) 地区運動会	
(3) 町内会行事・清掃活動	
(4) 地域のサークル、コミュニティ、サロン活動	
(5) 老人クラブ活動	
(6) 学習センター主催の各種行事・講座	
(7) その他 ()	

問9－2 催しや行事、活動に「参加していない」一番の理由はなんですか。(○は一つ)	
(1) 参加する時間がない	
(2) 催しや行事、活動を知らない	
(3) 参加したい催しや行事、活動がない	
(4) 交通手段がない	
(5) その他 ()	

3 地域での支え合い・助け合いについて

問10 地域でのボランティア活動に参加していますか。(○は一つ)	
(1) よく参加している	【問10-1・2・3】へ
(2) たまに参加している	
(3) あまり参加していない	【問10-4へ】
(4) 全く参加していない	

問10-1 主にどのようなボランティア活動に参加していますか。(○は三つまで)	
(1) 高齢者に関する活動	(2) 障がい者に関する活動
(3) 子育てに関する活動	(4) 保健・医療に関する活動
(5) 青少年に関する活動	(6) 環境美化・衛生に関する活動
(7) 文化芸術に関する活動	(8) スポーツに関する活動
(9) 防災や防犯、交通安全等に関する活動	(10) 被災者に対する活動
(11) 国際交流に関する活動	(12) その他 ()

問10-2 参加した主なきっかけはなんですか。(○は三つまで)	
(1) 社会や人の役に立ちたいから	
(2) 身近な地域をよりよくしたいから	
(3) 自分の知識や経験を活かしたいから	
(4) 楽しそうだから	
(5) 地域でのつながりや交流の機会を増やしたいから	
(6) 知人・友人等に誘われたから	
(7) 周りの人がやっているから	
(8) 持ち回りなどで頼まれたから	
(9) 地域住民としての義務だと思ったから	
(10) その他 ()	

問10-3 地域でのボランティア活動を通して、地域のために役立っていることがあ ればご記入ください。 (自由記載)
(例) 交通安全パトロールなどの見守り活動を行い、地域の安全確保が図られた。 美化活動に参加し、地域の環境保全につながった。 など

問10－4 「参加していない」主な理由はなんですか。(○は三つまで)

- | |
|------------------------|
| (1) 体力的に参加することが難しい |
| (2) 自分の趣味や自由な時間を優先したい |
| (3) ボランティア活動に関する情報がない |
| (4) 地域の人と交流することに気が進まない |
| (5) 興味のあるボランティア活動がない |
| (6) ボランティア活動に興味がない |
| (7) その他 () |

問11 地域の人に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。(○は一つ)

- | | |
|-----------------|-----------|
| (1) ある | (2) ない |
| (3) 助けを必要としていない | (4) わからない |

問12 困りごとがあった場合、地域の人から手助けしてほしいですか。(○は一つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| (1) 手助けしてほしい | (2) 手助けしてほしくない |
| (3) 自分で解決する | (4) わからない |

問13 困っている人を見かけた時、声かけや手助けをしたことはありますか。

(○は一つ)

- | |
|-------------------------------|
| (1) 声かけや手助けをしたことがある |
| (2) 見かけたことはあるが、声かけや手助けをできなかった |
| (3) 見かけたとしても、声かけや手助けはしたくない |
| (4) 見かけたことがない |

問14 災害がおきた時に、地域の方にどのような支援（手助け）ができますか。

(○は三つまで)

- | |
|--------------------------|
| (1) 「大丈夫ですか」などの声かけ |
| (2) 災害状況や避難情報などの伝達 |
| (3) 相談相手や話し相手になる |
| (4) 飲み物や食料などの備蓄品の提供 |
| (5) 避難の手助け |
| (6) 介助や応急手当 |
| (7) その他 () |
| (8) 支援したいが余裕がないためできそうにない |
| (9) わからない |

4 情報収集の方法について

問15 市政情報を収集する際にインターネットやSNS等のデジタルサービスを利用して
いますか。 (○は一つ)

(1) よく利用する	【問16】へ
(2) ときどき利用している	
(3) ほとんど利用していない	【問15-1・2、 問16】へ
(4) 全く利用していない	

問15-1 「利用していない」主な理由はなんですか。 (○は三つまで)

- (1) どのように使えばよいかわからないから
- (2) 以前使おうとした、もしくは使ってみたことがあるが、うまく使えなかつたから
- (3) どこで、どんなデジタルサービスを購入・契約すればよいかわからないから
- (4) 個人情報の漏洩や詐欺被害など、トラブルに遭うのではないかと不安だから
- (5) 購入や利用にかかる料金が高いと感じるから
- (6) 自分の生活には必要ないと思っているから
- (7) 必要があれば家族に任せればよいと思っているから
- (8) 身近に携帯電話店や家電量販店など、デジタル端末を購入できる場所がないから
- (9) その他 ()

問15-2 あなたの生活に必要な市政情報の主な収集先はどちらですか。

(○は三つまで)

(1) 市政だよりなど福島市の広報誌	(2) 行政機関の窓口 (市役所や支所など)
(3) 町内会の回覧板	(4) 地区の民生委員・児童委員
(5) 新聞 (タウン情報誌を含む)	(6) テレビ
(7) ラジオ	(8) ポスター及びチラシ
(9) 家族、知人、友人	(10) その他 ()

問16 福島市が行っているデジタルによる情報発信方法で知っているものがありますか。

(知っているもの全てに○)

(1) 公式ホームページ	(2) 公式Facebook
(3) 公式X (エックス)	(4) 公式LINE
(5) 公式YouTube	(6) 防災アプリ
(7) ゴミ分別アプリ「さんあ～る」	(8) 子育てアプリ「えがお」
(9) ふくしま健民アプリ	(10) わからない

5 孤立・孤独について

問17 あなたは「孤独」だと感じることはありますか。(○は一つ)	
(1) ない	【問18】へ
(2) たまにある	
(3) ときどきある	【問17-1】へ
(4) しばしばある・常にある	

問17-1 その状況はどのくらい前から続いていますか。(○は一つ)	
(1) 6ヶ月未満	
(2) 6ヶ月以上1年未満	
(3) 1年以上2年未満	
(4) 2年以上3年未満	
(5) 3年以上5年未満	
(6) 5年以上	

問18 新型コロナウイルス感染症が始まった2020年3月頃より前（コロナ禍前）と比べて、現在は他者とのコミュニケーションにどのような変化がありますか。 (①及び②について、それぞれ○は一つ)		
① 人と直接会ってコミュニケーションをとること		
(1) 増えた	(2) 変わらない	(3) 減った
② 人と直接会わずにコミュニケーションをとること (例：手紙・電話・SNS・インターネットなど)		
(1) 増えた	(2) 変わらない	(3) 減った

6 防犯・再犯防止について

※「再犯防止」とは

非行や犯罪をした人の中には、高齢である、障害があるなどの理由で、自立した生活を送つていくことが困難な人もいます。自分の力だけで社会復帰をすることが難しい方に対して、福祉・医療的支援や就労支援などを行うことにより更生を促し、地域の一員として誰もが安全で安心して暮らせる共生社会の実現を目指す取り組みです。

問19 福島市が犯罪のない（少ない）安全で安心な暮らしやすい街だと感じますか。

（○は一つ）

（1）感じる

（2）どちらかといえば感じる

（3）どちらかといえば感じない

（4）感じない

（5）わからない

問20 非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りなどを支援する民間協力者がいることを聞いたことがありますか。 （聞いたことがあるもの全てに○）

（1）保護司

（2）更生保護女性会

（3）協力雇用主

（4）BBS会

（5）更生保護施設

（6）福島市青少年センター補導委員

（7）こども110番ひなんの家

（8）防犯協会

（9）その他（ ）

（10）聞いたことがない

問21 非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りや見守り、声かけなどに協力したいと思いますか。 （○は一つ）

（1）思う

（2）どちらかといえば思う

（3）どちらかといえば思わない

（4）思わない

（5）わからない

7 その他

問22 今後の地域社会において、あなたが特に重視する事項は何ですか（○は三つまで）	
(1) お互いを尊重し支え合う意識の醸成	【互いの尊重】
(2) 地域福祉の推進を担う人材の育成	【人材育成】
(3) 住民主体による支え合いの基盤強化	【支え合い】
(4) 地域福祉を支える人材や関係団体・機関の共創による地域福祉力の向上	【共創】
(5) 災害に対して強靭な地域づくりの推進	【防災】
(6) 緊急時に即応可能な支援体制の構築	【緊急時支援体制】
(7) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供	【利用者目線のサービス提供】
(8) 地域における権利擁護（虐待・成年後見等）の推進	【権利擁護】
(9) 健やかで安心して暮らせる地域生活の構築	【健やか・安心】
(10) 複雑で複合的な悩みを抱えた人への総合相談や支援体制の整備	【包括的支援】
(11) その他（ ）	
(12) 特にない	

問23 本市が行う福祉サービスに満足していますか。（○は一つ）

※例）介護、認知症、障がい者、子育て、保育 など

(1) 満足している
(2) やや満足している
(3) どちらでもない
(4) やや不満である
(5) 不満である
(6) わからない

問24 地域福祉に関することで、ご意見・ご要望などありましたらご記入ください。

（自由記載）

アンケートは以上になります。ご協力いただきありがとうございました。
回答結果につきましては、福島市のホームページで公表する予定です。

福島市の“地域福祉”推進のための アンケート調査報告書

令和7年3月発行

発 行 福島市

編 集 健康福祉部 共生社会推進課

〒960-8601 福島県福島市五老内町3番1号

電話：024-525-3760 FAX：024-535-7970

E-mail：tiiki@city.fukushima.lg.jp

福島市地域福祉計画2026

骨子（案）

福島市 健康福祉部 共生社会推進課

目 次

第1章 計画の策定にあたって

① 計画策定の趣旨	2
② 計画の位置づけ	2
③ 計画の期間	3
④ 計画の策定方法	3
⑤ 計画策定にあたっての背景（4つの柱）	4

第2章 本市の現状と課題

① 福島市地域福祉計画2021「中間評価」から見た現状	5
② 各種統計データから見た現状	6
③ アンケート調査から見た現状	13
④ 現状から見える課題（まとめ）	20
⑤ 各福祉分野の個別計画における共通課題	21
⑥ 「福島市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会」における主な意見	22

第3章 計画の基本的な考え方

① 基本理念	23
② 地域福祉の推進イメージ	23
③ SDGsの考え方	24
④ 心のバリアフリー	24
⑤ 施策のポイント	25
⑥ 計画の体系	26
⑦ 計画の進捗管理（年次点検）	27

第1章 計画の策定にあたって

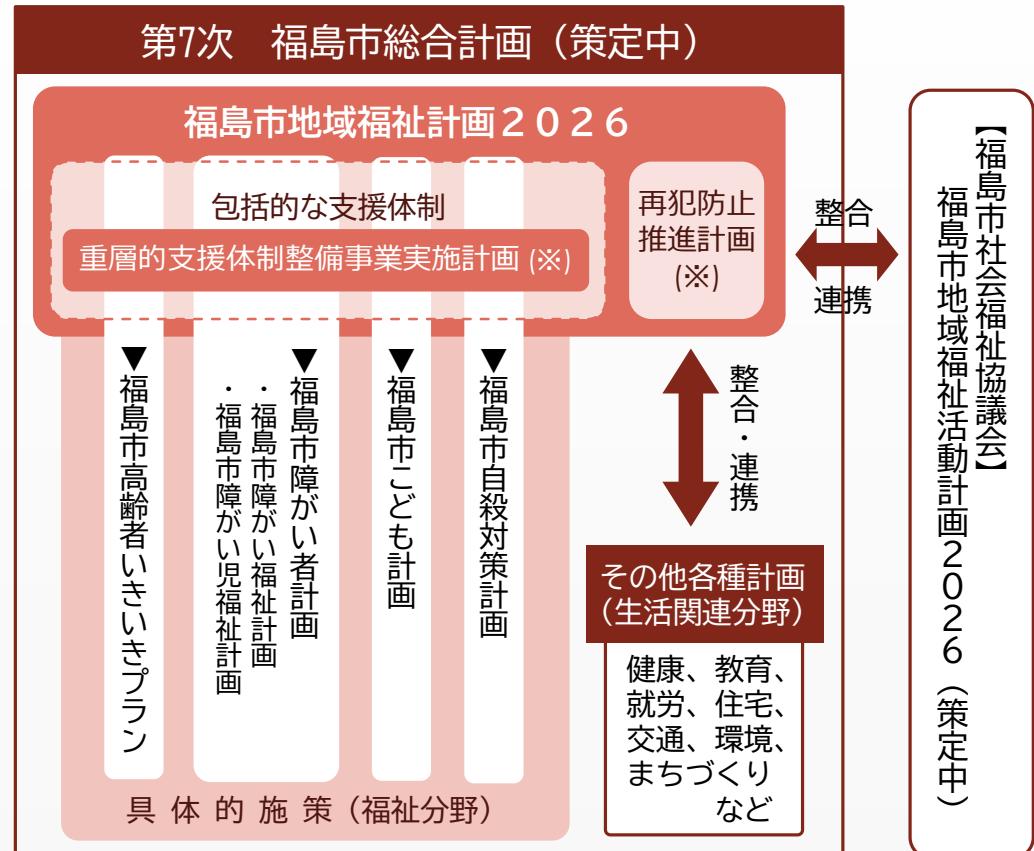
1 計画策定の趣旨

この計画は、社会福祉法の基本理念の一つである地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の推進を図ることを目的として、同法第107条の規定に基づき策定された法定計画であり、本市の福祉部門における最上位の計画です。

この計画では、高齢者や障がい者、子どもなど、各福祉分野に共通する課題を整理し、重点的に取り組んでいきます。また、“ひきこもり”や“ヤングケアラー”“ダブルケア”“孤独・孤立”などの複合的で複雑な課題にも従来の制度・分野を超えて対応するため、地域住民が主体的に取り組むための環境の整備や、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備、重層的なセーフティネット支援の推進に努め、地域共生社会の一層の推進を目指します。

さらには、福祉・保健・医療の一体的な展開はもとより、教育、就労、住宅、交通、環境、まちづくりなどの地域の生活関連分野との連携も図りながら、地域特性を踏まえた取り組みを実施していきます。

2 計画の位置づけ



(※)本計画での一体的な展開を図るため、「重層的支援体制整備事業実施計画」、「再犯防止推進計画」を本計画に包含して策定します。

第1章 計画の策定にあたって

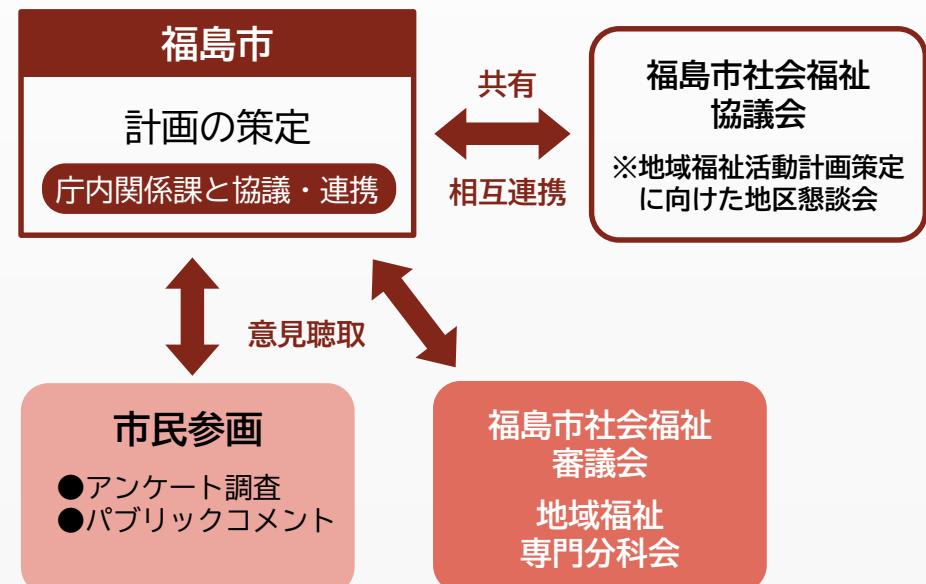
3 計画の期間

本計画の期間は、上位計画である「第7次福島市総合計画」のまちづくりの視点との整合を図るため、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

計画の名称	計画期間	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
福島市総合計画	R8～R12	第6次		第7次				
福島市地域福祉計画	R8～R12	2021		2026				
福島市高齢者いきいき プラン	R6～R8	2024						
福島市障がい者計画	R6～R10		第3次					
福島市障がい福祉計画	R6～R8	第7期						
福島市障がい児福祉計画	R6～R8	第3期						
福島市こども計画	R7～R11		2025					
福島市自殺対策計画	R6～10		第2次					

4 計画の策定方法

計画の策定にあたっては、市民を対象としたアンケート調査を実施するとともに、学識経験者・関係団体の代表者等で組織する「福島市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会」での審議やパブリックコメントの実施などにより、地域福祉の状況や課題の把握、意見の反映に努めます。



第1章 計画の策定にあたって

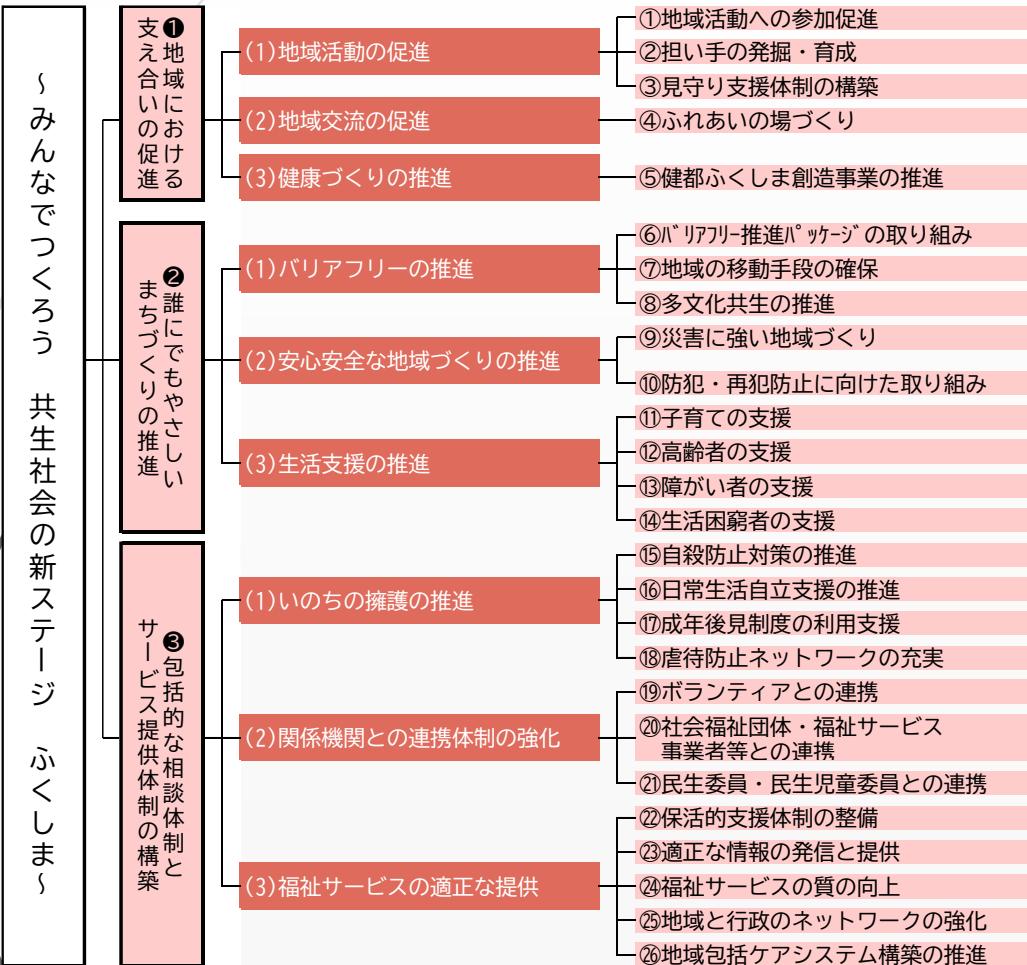
5 計画策定にあたっての背景（4つの柱）

①住民参加の推進	②共に生きる社会づくり	③男女共同参画	④福祉文化の創造
「地域住民の主体的参加」	「ソーシャル・インクルージョン」	「社会の対等な構成員」	「サービスの担い手」
<p>地域住民は、個人の尊厳、その人が生きる価値などの点においては、皆平等であり、地域社会の一員としてあらゆる分野の活動に参加する機会が保障されなければならない。</p> <p>一人ひとりの地域住民に対して、社会福祉を限られた社会的弱者に対するサービスではなく、身近な日々の暮らしの場である地域社会での多様な人々の多様な生活課題に、地域全体で取り組む仕組みとしてとらえなおし、地域住民としてこれらの多様な生活課題に目を向け自発的、積極的に取り組んでいく。</p>	<p>ソーシャル・インクルージョン（社会的包摶）の「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から擁護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念のもと、貧困や失業に陥った、障害を有する、ホームレスの状態にある人々等を社会的に排除するのではなく、地域社会への参加と参画を促し、社会に統合する視点が重要であり、差異や多様性を認め合う地域住民相互の連帯、心のつながりが必要不可欠である。</p>	<p>「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担う」ことは重要である。</p> <p>そのため、男性も女性も共に日々の暮らしの基盤である地域社会の生活課題に目を向け、その解決のための意思決定、諸活動にも参画していく。</p>	<p>地域住民が、自らの生活基盤である地域社会での生活課題やそれに対応するサービスの現状、果たすべき役割などを、自らの問題として認識し、自らがサービスの在り方に主体的に関わり、サービスの担い手としても参画していくことが重要である。</p> <p>こうした地域住民による生活に根ざした社会的活動を積み重ねることで、それぞれの地域に個性ある行動様式や態度を育み、文化（福祉文化）を創造していく。</p>

第2章 本市の現状と課題

1

福島市地域福祉計画2021「中間評価」から見た現状（令和6年度実施）



社会変容による「達成率の低迷」

※連携体制を強化し、次期計画へフォローアップが必要。

【評価の方法・結果】

福島市総合計画の評価方法に準拠し、以下の計算方法を用いてそれぞれの達成率を算出後に評価区分（A～Dの4区分）に従い評価を行いました。

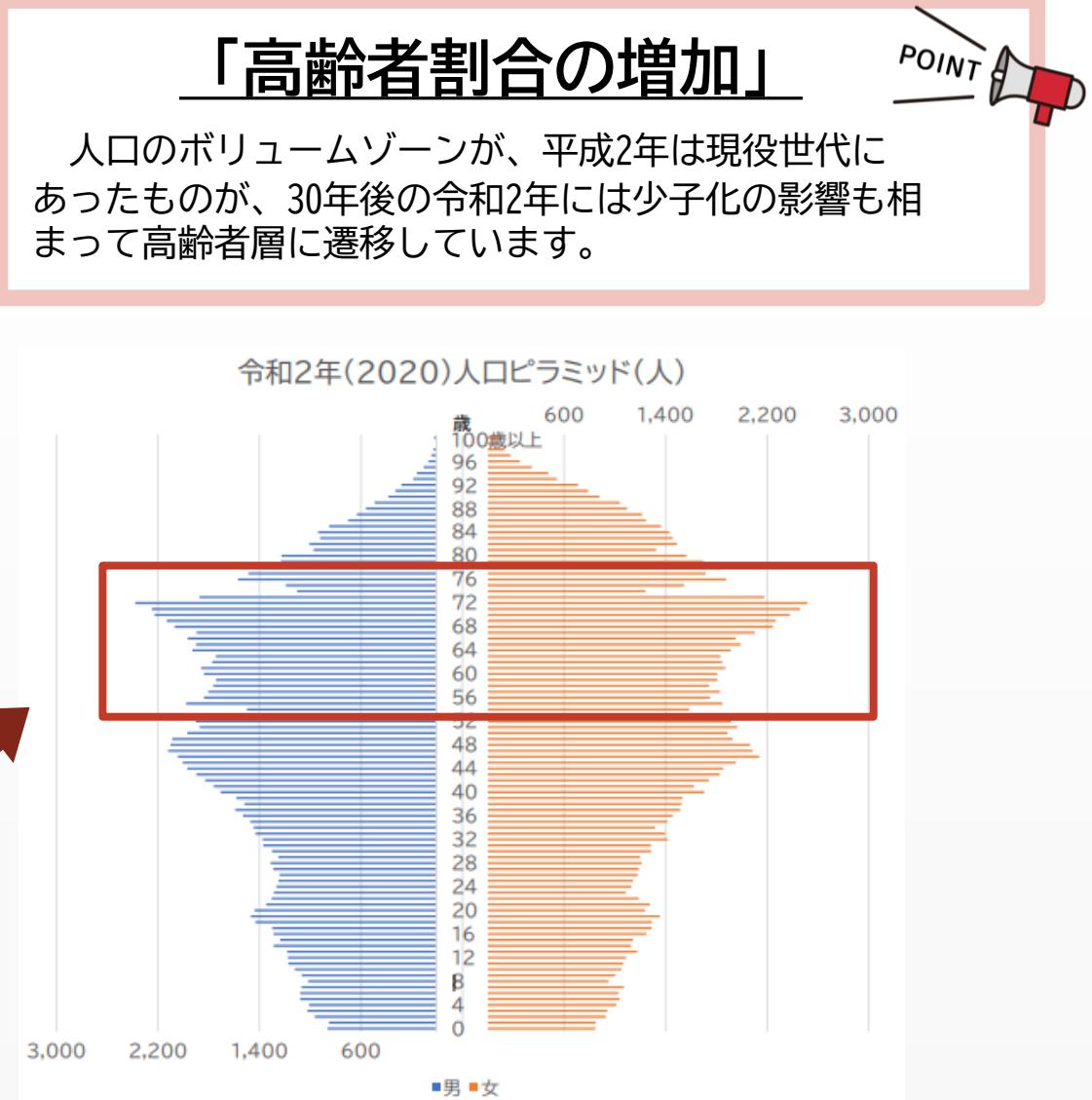
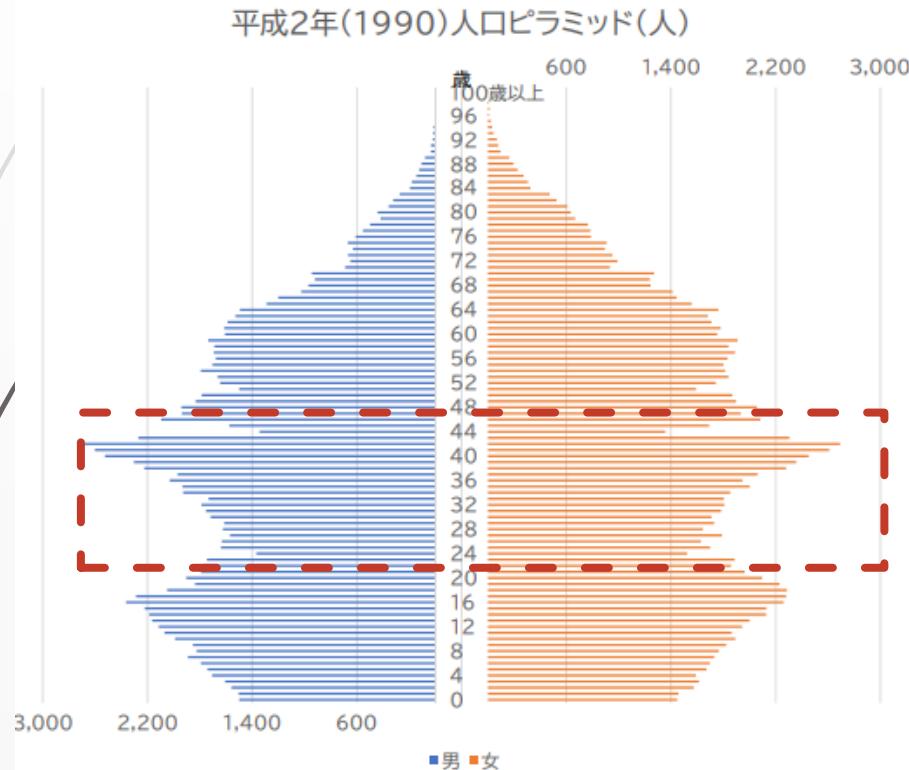
評価年度実績値(令和5年度) ÷ 目標値(中間値) × 100%

達成率	評価区分	割合 (%)
達成率 100%	A	53.5
80% ≤ 達成率 < 100%	B	18.6
60% ≤ 達成率 < 80%	C	16.3
達成率 < 60%	D	11.6

第2章 本市の現状と課題

2 各種統計データから見た現状

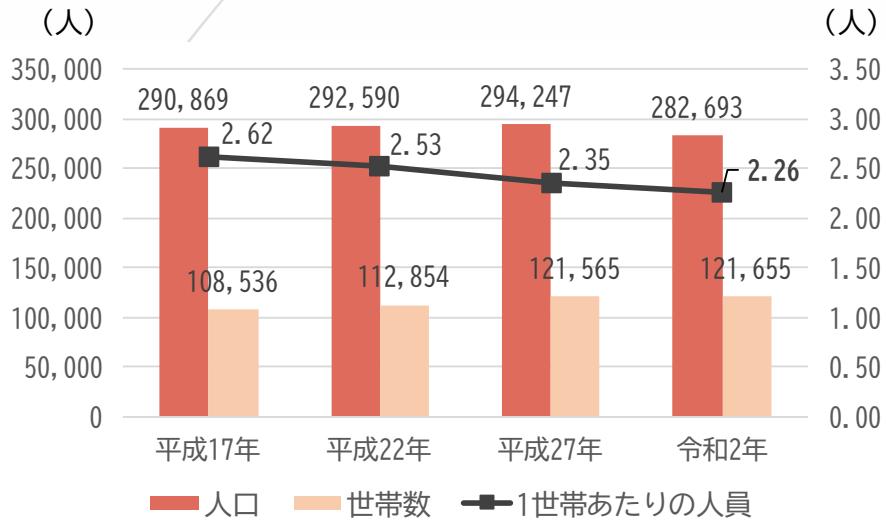
(1) 人口ピラミッド



資料：福島市統計書（国勢調査）

第2章 本市の現状と課題

(2)世帯等の状況



年度	人口	世帯数	1世帯あたりの人員
平成17年	290,869	108,536	2.62
平成22年	292,590	112,854	2.53
平成27年	294,247	121,565	2.35
令和2年	282,693	121,655	2.26

「単身世帯の増加」



1世帯あたりの人員が、令和2年度は平均で2.26人と年々減少傾向にあります。また、各世帯構成に対する割合も「単身世帯」が36.7%と3分の1以上の割合を占めています。

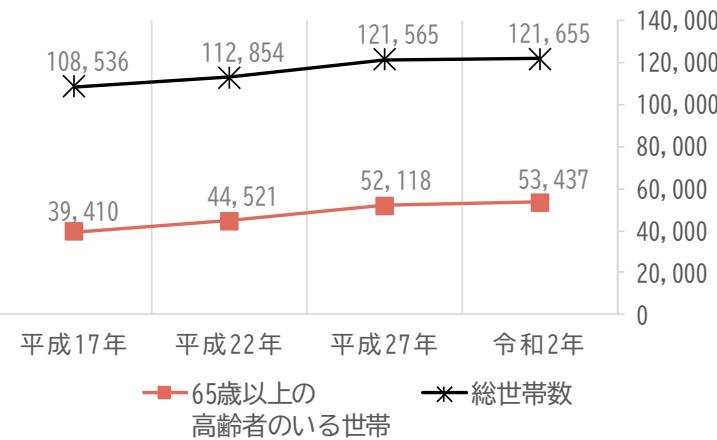
※今後、国も令和32年まで上昇を続け、44.3%に達すると推計しているため、本市も同様の傾向になるものと推測されます。

年度	単身	2人	3人	4人	5人以上	世帯数計
平成17年	30,680	28,418	20,655	16,589	12,194	108,536
	28.3%	26.2%	19.0%	15.3%	11.2%	100.0%
平成22年	34,258	30,161	21,049	16,404	10,982	112,854
	30.4%	26.7%	18.7%	14.5%	9.7%	100.0%
平成27年	42,374	33,324	21,264	15,004	9,599	121,565
	34.9%	27.4%	17.5%	12.3%	7.9%	100.0%
令和2年	44,664	34,440	20,759	13,834	7,958	121,655
	36.7%	28.3%	17.1%	11.4%	6.5%	100.0%

資料：福島市統計書（国勢調査）

第2章 本市の現状と課題

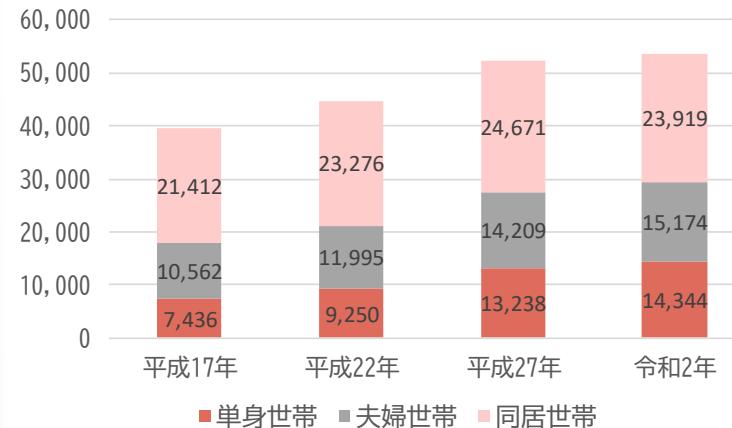
(3)高齢者世帯の状況



年度	総世帯数	65歳以上の高齢者いる世帯
平成17年	108,536	39,410 36.3%
平成22年	112,854	44,521 39.5%
平成27年	121,565	52,118 42.9%
令和2年	121,655	53,437 43.9%

「高齢者単身世帯の増加」

総世帯数に占める「65歳以上の高齢者のいる世帯」の割合は、令和2年度で43.9%と、この15年で最も高く、そのうち「単身世帯」に関しては平成17年度から比べると約2倍に増加しています。



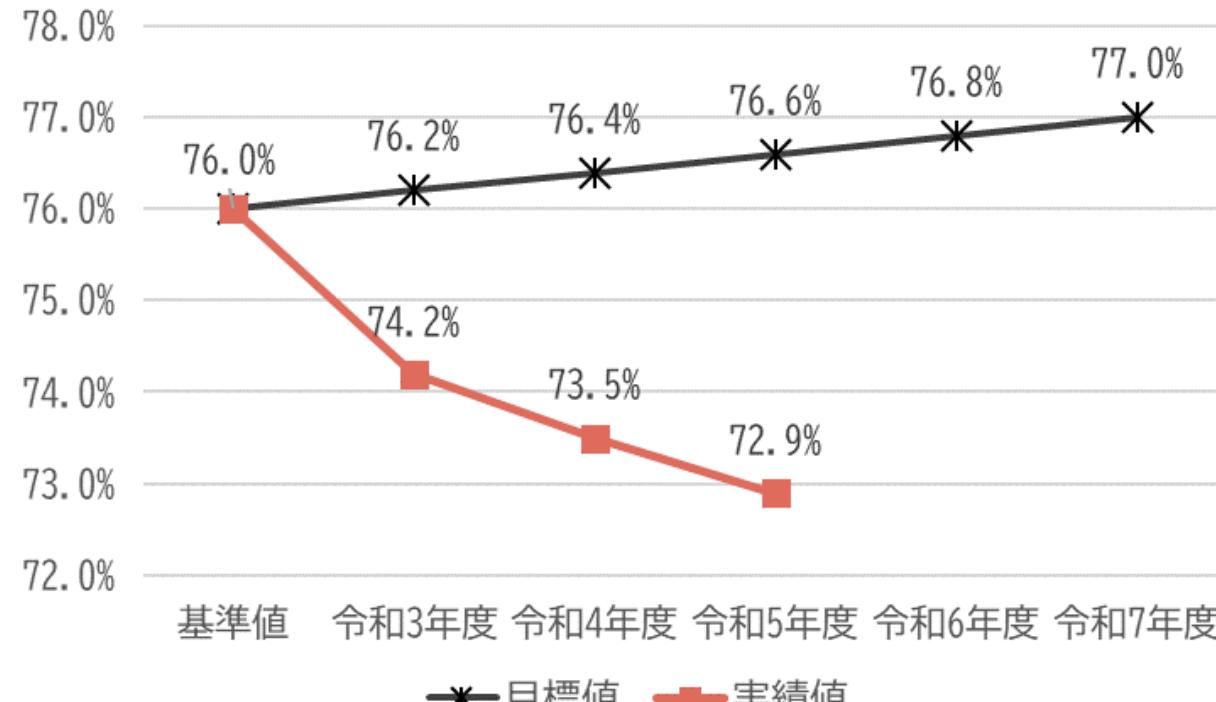
※65歳以上の高齢者がいる世帯の内

年度	同居世帯	夫婦世帯	単身世帯
平成17年	21,412 54.3%	10,562 26.8%	7,436 18.9%
平成22年	23,276 52.3%	11,995 26.9%	9,250 20.8%
平成27年	24,671 47.3%	14,209 27.3%	13,238 25.4%
令和2年	23,919 44.8%	15,174 28.4%	14,344 26.8%

資料：福島市統計書（国勢調査）

第2章 本市の現状と課題

(4) 町内会加入世帯の割合



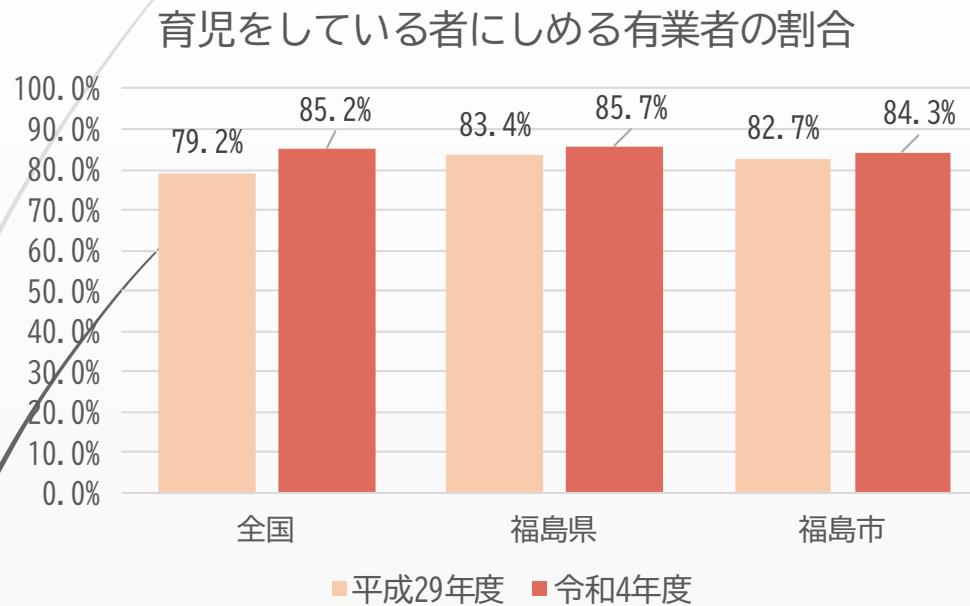
「町内会加入世帯の減少」

町内会の運営や役員としての負担が大きいこと、町内会活動の役割と重要性が認識されていないことなどにより、若年層の加入が進んでおらず、年々加入率が低下しています。



第2章 本市の現状と課題

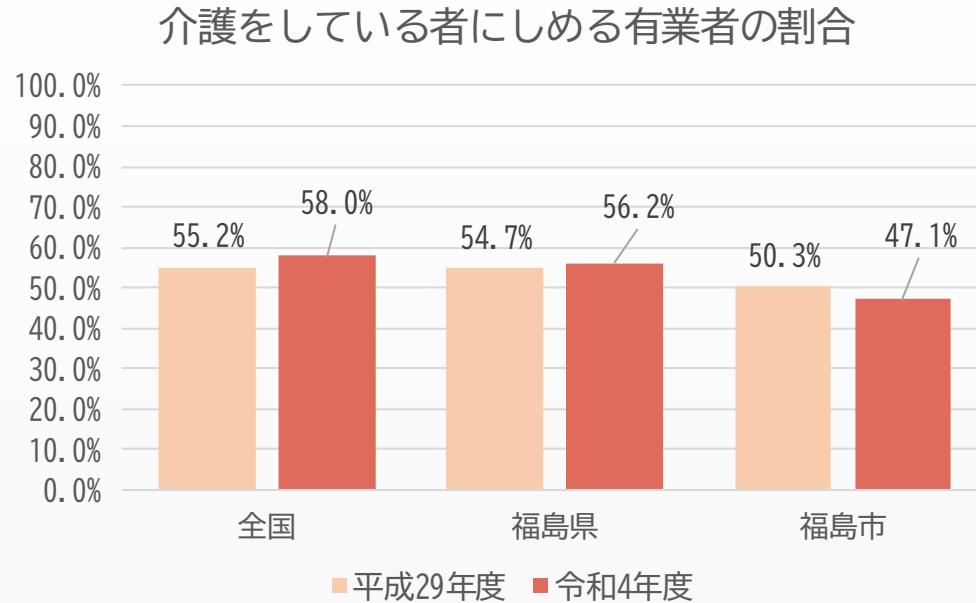
(5)育児有業者・介護有業者



年度	平成29年度	令和4年度
全国	79.2%	85.2%
福島県	83.4%	85.7%
福島市	82.7%	84.3%

「介護有業者の減」
POINT

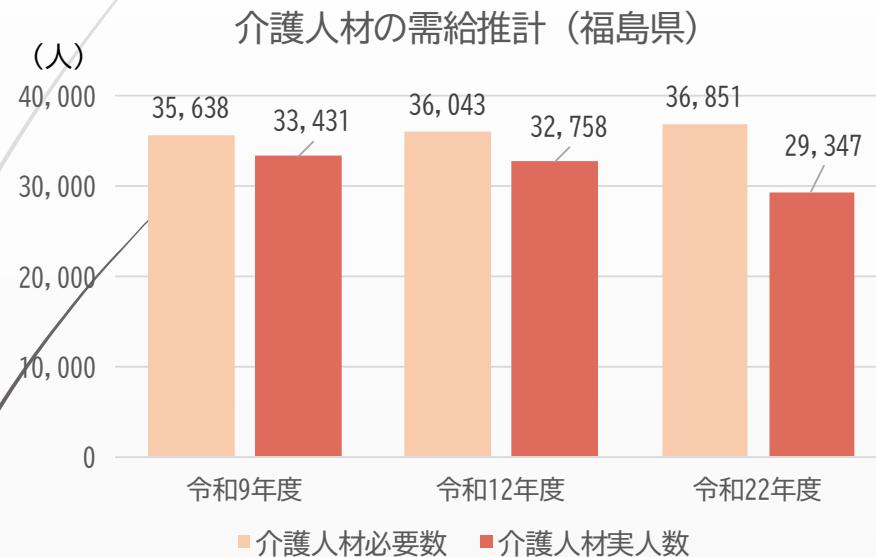
育児中の有業者の割合は増加している一方で、介護中の有業者の割合は減少しており、家族負担や家計負担の増加が推察されます。



年度	平成29年度	令和4年度
全国	55.2%	58.0%
福島県	54.7%	56.2%
福島市	50.3%	47.1%

第2章 本市の現状と課題

(6)福祉人材の推移

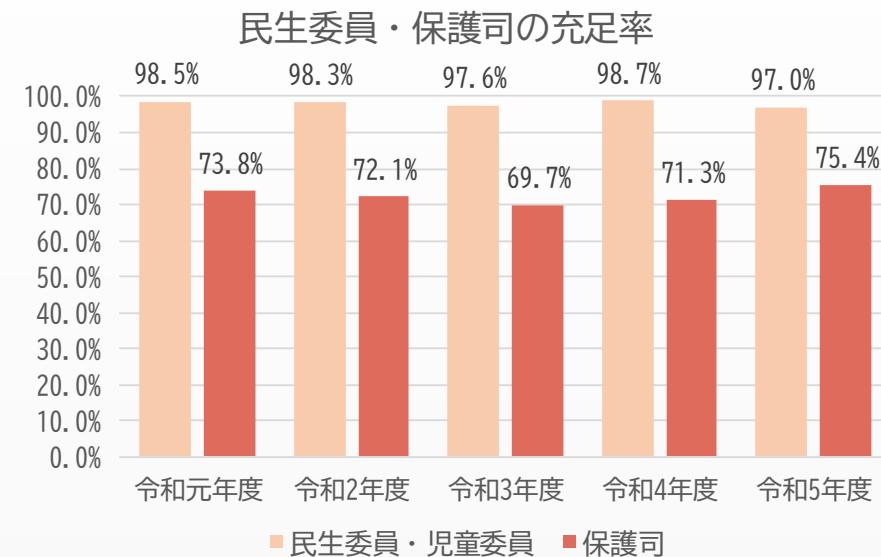


年度	介護人材必要数	介護人材実人数	人材不足
令和9年度	35,638	33,431	2,207
令和12年度	36,043	32,758	3,285
令和22年度	36,851	29,347	7,504

資料：ふくしま高齢者すこやかプラン

「福祉人材の不足」

介護人材については、県の推計で令和22年度に7,504人の人材不足が生じるとされ、ボランティア人材（民生委員・保護司）についても、毎年、欠員が生じています。その他、各福祉施設・事業所でサービスを提供する福祉人材（職員）についても、過不足状態が確認されています。



年度	民生委員・児童委員	保護司
令和元年度	98.5%	73.8%
令和2年度	98.3%	72.1%
令和3年度	97.6%	69.7%
令和4年度	98.7%	71.3%
令和5年度	97.0%	75.4%

資料：令和4年 就業構造基本調査結果



第2章 本市の現状と課題

(7) 保健医療人材の推移（医師数）

地域		医師数					人口10万対医師数				
全国		平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年
うち 診療 4科	小児科	16,758	16,937	17,321	18,003	17,781	13.2	13.3	13.7	14.3	14.2
	産婦人科	11,085	11,349	11,332	11,686	11,833	8.7	8.9	9.0	9.3	9.5
	麻酔科	8,625	9,162	9,661	10,283	10,350	6.8	7.2	7.6	8.2	8.3
	救急科	3,011	3,244	3,590	3,953	3,913	2.4	2.6	2.8	3.1	3.1
福島県		3,653	3,720	3,819	3,892	3,914	188.8	195.7	204.9	212.3	218.7
うち 診療 4科	全国順位						43位	42位	41位	42位	42位
	小児科	207	215	221	215	222	10.7	11.3	11.9	11.7	12.4
	全国順位						43位	41位	40位	42位	40位
	産婦人科	126	122	128	137	126	6.5	6.4	6.9	7.5	7.0
	全国順位						46位	46位	45位	43位	46位
	麻酔科	90	102	108	107	107	4.7	5.4	5.8	5.8	6.0
	全国順位						41位	39位	37位	39位	41位
	救急科	29	29	34	35	38	1.5	1.5	1.8	1.9	2.1
医療 圏別	全国順位						35位	42位	40位	43位	42位
	県北	1,268	1,295	1,331	1,363	1,374	266.1	265.6	277.7	292.6	300.9
	うち 診療 4科	小児科	75	75	82	86	87	15.7	15.4	17.1	18.5
	産婦人科	50	48	49	53	51	10.5	9.8	10.2	11.4	11.2
	麻酔科	30	38	41	42	44	6.3	7.8	8.6	9.0	9.6
	救急科	12	13	17	15	13	2.5	2.7	3.5	3.2	2.8
	県中	988	1,020	1,048	1,066	1,042	185.7	189.9	197.8	205.2	204.1
	いわき	561	561	573	575	596	172.0	161.0	167.1	172.7	183.0
	他	836	844	867	888	902					

「保健医療人材の不足」

県北医療圏では、「人口10万対医師数」が県内で唯一、全国平均を上回っていますが、これは福島県立医科大学の医師を含めて算出しているため、それを除くと全国平均を下回ることになります。その他、助産師、看護師等の看護職員も、今後大幅に不足するものと推計されています。



第2章 本市の現状と課題

3 アンケート調査から見た現状

【調査の目的】

福島市地域福祉計画2026策定に向け、地域やその地域に居住する住民の生活課題を的確に把握し、地域ごとの多様なニーズを計画に反映することを目的に実施しました。

【調査設計・回収結果】

調査対象	令和6年9月末日時点の市内在住の18歳以上の男女 2,500人
抽出方法	年齢別按分による無作為抽出
配布・回収方法	【配布】調査票による郵送 【回収】① 調査票の郵送回答 ② インターネット回答（専用フォーム）
調査期間	令和6年10月30日～11月20日
送付件数	2,500件 ※1
回収件数	966件（郵送：711件、インターネット：255件） ※2
回収率	38.6%

※1 過去のアンケート調査結果から、年代別の回収想定率を設定し、発送数を調整しています。

※2 上記発送調整の結果、本市の年代構成とほぼ同様の回収結果が得られています。

第2章 本市の現状と課題

(1) 人との「つながり」について

【問】近所の人とどの程度お付き合いがありますか。

選択肢	回答者	構成比
家を行き来するなど親しい関係	112	11.6%
立ち話やあいさつを交わす程度	608	62.9%
顔を知っているが、声をかけることはほとんどない	133	13.8%
ご近所付き合いはしていない	107	11.1%
無回答	6	0.6%
合計	966	100.0%

【問】地域の催しや行事、活動などに参加していますか。

選択肢	回答者	構成比
よく参加している	121	12.5%
たまに参加している	263	27.2%
あまり参加していない	240	24.9%
全く参加していない	331	34.3%
無回答	11	1.1%
合計	966	100.0%

「つながりの希薄化」

近所の人とのお付き合いが「立ち話やあいさつを交わす程度」であったり、地域活動への参加についても「(全く・あまり) 参加していない」方の割合が多くなっています。



1

62.9% ※注①

※注①：「立ち話やあいさつを交わす程度」の内、75歳以上の高齢者の人数が最も多くなっています。

※注②：家族構成別では、単身世帯が29%と、付き合いのない割合が高くなっています。

※注③：単身世帯の64%の方が「(全く・あまり) 参加していない」と回答しています。

1

34.3%] ※注③

第2章 本市の現状と課題

(2) 地域での支え合い・助け合いについて

【問】地域でのボランティア活動に参加していますか。

選択肢	回答者	構成比
よく参加している	50	5.2%
たまに参加している	125	12.9%
あまり参加していない	159	16.5%
全く参加していない	613	63.4%
無回答	19	2.0%
合計	966	100.0%

1

【問】地域の人に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。

選択肢	回答者	構成比
ある	400	41.4%
ない	304	31.5%
助けを必要としていない	52	5.4%
わからない	193	20.0%
無回答	17	1.7%
合計	966	100.0%

1

「支え合い機能の低下」



地域の人に支えられた経験が「ある」と答えた方は半数を下回り、ボランティア活動にも「（全く・あまり）参加していない」方の割合が多くなっています。

】※注

※注：70歳以上高齢者の方の内「（全く・あまり）参加していない」と答えた方が69%となっています。

第2章 本市の現状と課題

(3)情報収集の方法について

【問】市政情報を収集する際にインターネットやSNS等のデジタルサービスを利用していますか。

選択肢	回答者	構成比
よく利用する	124	12.8%
ときどき利用している	317	32.8%
ほとんど利用していない	212	22.0%
全く利用していない	304	31.5%
無回答	9	0.9%
合計	966	100.0%

【問】「利用していない」主な理由はなんですか。（※3つまで選択可）

選択肢	回答者	構成比
どのように使えばよいかわからないから	242	31.0%
以前使おうとした、もしくは使ってみたことがあるが、うまく使えなかつたから	50	6.4%
どこで、どんなデジタルサービスを購入・契約すればよいかわからないから	86	11.0%
個人情報の漏洩や詐欺被害など、トラブルに遭うのではないかと不安だから	98	12.6%
購入や利用にかかる料金が高いと感じるから	35	4.5%
自分の生活には必要ないと思っているから	110	14.1%
必要があれば家族に任せればよいと思っているから	99	12.7%
身近に携帯電話店や家電量販店など、デジタル端末を購入できる場所がないから	3	0.4%
その他	57	7.3%
合計	780	100.0%

「情報リテラシーの不足」



市政情報の収集にデジタルサービスを「（ほとんど・全く）利用していない」方が半数以上を占めており、その理由に「どのように使えばよいかわからない」「自分の生活には必要ない」方の割合が多くなっています。

】※注

※注：「（ほとんど・全く）利用していない」方の内、70歳以上高齢者が、40%となっています。

第2章 本市の現状と課題

(4)孤立・孤独について

【問】あなたは「孤独」だと感じることはありますか。

選択肢	回答者	構成比
ない	669	69.2%
たまにある	172	17.8%
ときどきある	56	5.8%
しばしばある・常にある	51	5.3%
無回答	18	1.9%
合計	966	100.0%

「孤独感の上昇」



孤独感が「ない」方が多い反面、約3割の方が孤独を感じており、コロナ禍を経て人と直接会うコミュニケーションの頻度も減少傾向にあります。



※注：孤独感が「ある」と答えた方の家族構成別では、単身世帯で5割超の方が孤独感を感じています。また、全世代においても孤独感を感じている方が平均的に存在しています。

【問】新型コロナウイルス感染症が始まった2020年3月頃より前(コロナ禍前)と比べて、現在は他者とのコミュニケーションにどのような変化がありますか。

①人と直接会ってコミュニケーションをとること



選択肢	回答者	構成比
増えた	117	12.1%
変わらない	537	55.6%
減った	276	28.6%
無回答	36	3.7%
合計	966	100.0%

②人と直接会わずにコミュニケーションをとること



選択肢	回答者	構成比
増えた	172	17.8%
変わらない	631	65.3%
減った	112	11.6%
無回答	51	5.3%
合計	966	100.0%

第2章 本市の現状と課題

(5)防犯・再犯防止について

【問】福島市が犯罪のない(少ない)安全で安心な暮らしやすい街だと感じますか。



【問】非行や犯罪の防止、非行や犯罪をした人の立ち直りや見守り、声かけなどに協力したいと思いますか。



「防犯・再犯防止への理解」



安全で安心な暮らしやすい街と「感じる」方が多い一方で、防犯・再犯防止への協力に関しては、「思わない」「わからない」方の割合が多くなっています。



第2章 本市の現状と課題

(6)その他

【問】今後の地域社会において、あなたが特に重視する事項は何ですか。（※3つまで選択可）



「福祉サービスの質の向上」



「健やかで安心して暮らせる地域生活の構築」を求める声が最も多く、福祉サービスの満足度に関しては「どちらでもない」「やや満足している」方の割合が多くなっています。

【問】本市が行う福祉サービスに満足していますか。



※注

※注：ほとんどの世代において「健やかで安心して暮らせる地域生活の構築」を最も重視しています。

第2章 本市の現状と課題

4 現状から見える課題（まとめ）

《地域福祉計画2021》

① 中間評価から見た現状

- 達成率の低迷

（評価区分）

A 評価 **53.5%**

- 連携体制を強化し、次期計画へフォローアップ
- 各福祉分野の個別計画等における共通課題の整理
- SDGsの視点の追加
- 「重層的支援体制整備事業実施計画」など

次期計画

《本市の課題》

② 統計データから見た現状

- 高齢者割合の増加
- 単身世帯の増加
- 高齢者単身世帯の増加
- 町内会加入世帯の減少
- 介護有業者の減
- 福祉人材の不足
- 保健医療人材の不足

など

③ アンケート調査から見た現状

- つながりの希薄化
- 支え合い機能の低下
- 情報リテラシーの不足
- 孤独感の上昇
- 防犯・再犯防止への理解
- 福祉サービスの質の向上



【主な共通課題】

- 世帯の小規模化による家族・親族内、地域での支え合い機能の低下や、町内会加入率の低下等による地域のつながりの希薄化。
- 人口減少／超高齢化により、地域の担い手や労働供給力・生産力が減少。
- 急速なデジタル社会の到来により、情報機器等を駆使した高度な情報収集・伝達手法が普及。
- ひきこもりや孤独・孤立、貧困、虐待など、様々な分野の問題が絡み合い複雑化。など

第2章 本市の現状と課題

5

各福祉分野の個別計画における共通課題

	つながり・支え合い	情報伝達	その他
福島市高齢者 いきいきプラン2024	<ul style="list-style-type: none">・地域での活動に参加している高齢者が減少傾向・高齢者の生きがいの場づくり・多様な職域・職種や関係団体、地域住民との連携・共創により地域で支え合う仕組みづくり・少子高齢化が進み、高齢者一人当たり現役世代人数が減少傾向・介護サービスを担う人材の確保や資質の向上	<ul style="list-style-type: none">・デジタル社会が進む中で、持続的に社会に関わっていくために年齢に関わらずＩＣＴに親しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・支援を必要とする高齢者の増加や、閉じこもりリスクのある高齢者が増加傾向・見守り・支援体制づくりを地域で主体的に実施できる支援の強化
福島市障がい者計画	<ul style="list-style-type: none">・市民が主体性を持って参加し、自分の事として取り組むこと	<ul style="list-style-type: none">・情報アクセシビリティとコミュニケーション施策の充実・ＩＣＴの利活用やＩｏＴ、ＡＩ時代のスマートインクルージョンの視点	<ul style="list-style-type: none">・多様性を尊重する視点を取り入れた地域社会の形成・地域全体で課題解決に向けた関係機関の連携体制の構築等、環境整備等（包括的相談体制の整備）・災害発生時における支援体制の確保
福島市こども計画	<ul style="list-style-type: none">・地域の繋がりの希薄化、少子化の進展などにより、こども・若者が安心して過ごせる居場所を持つことが難しい・保育等に係る人材の確保	<ul style="list-style-type: none">・子育てに関する情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none">・いじめ・不登校、ヤングケアラー、児童虐待、貧困などといったこどもを取り巻く事が深刻化、複雑化してきており、相談・支援体制の強化など、こどもの最善の利益を確保する取組が必要・こどもを守る支援体制と地域ネットワークの強化
福島市自殺対策計画	<ul style="list-style-type: none">・悩みを抱えた人を支援するために、周囲の人々がゲートキーパーとして活動することが必要	<ul style="list-style-type: none">・地域全体の共通認識となるよう、関係機関や庁内関係課と連携による普及啓発が必要	<ul style="list-style-type: none">・自殺に追い込まれようとしている人が安心して生活が送れるよう、様々な分野の組織や人、施策の連携

第2章 本市の現状と課題

6

「福島市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会」における主な意見

つながり・支え合い	情報伝達	その他
<ul style="list-style-type: none">コロナ禍で閉じこもりがちになり、精神的・身体的・社会的にもつながりの希薄化が進んでいる。地域でつながりが持てず、福祉サービスにたどり着けない方が、セルフネグレクトになるなど、地域にまだまだ埋もれている。自助・共助を進める上で、全ての市民にそれぞれの立場に応じた役割があることを明らかにする視点が必要。町内会未加入世帯が多い理由の一つとして「役員が回ってくるのがいやだ」という理由があるかと思う。デジタル社会の到来により、様々な情報もインターネット等で検索すれば出てくる世の中である。その様な感覚が未加入世帯の増加につながっていると思われる。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none">急速なデジタル社会の到来がある一方で「スマホ弱者」というべき高齢者なども存在する。デジタル機器の活用のみならず、それぞれにあった伝達手段が必要。情報発信しているつもりでも、情報が行き届かず、福祉サービスを受けられないまま、悶々としている方がいる。策定する計画が多くの方に伝わるべき。市民の方が計画の取り組みに参加しているような実感や地域福祉への理解を深めるための情報発信が必要。「待ちの姿勢」ではなく、こちらから積極的に周知・啓発する方法が必要。などいくら良い事業を実施したとしても利用者に届いていないのでは。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none">制度の隙間を埋める包括的支援の推進をお願いしたい。住民票を届け出た時点でフォローするなど「切れ目のない支援」が必要かと思う。現計画（2021）において、あまり評価が良くない事業にもっと視点を置いて、今後どう対応していくか重視した計画を策定してほしい。次期計画には、現在ある事業に合わせて目標設定するのではなく、目指すべき姿を記載する必要がある。現計画においては「新ステージ」に乗ることができたのかの評価が求められると思うが、「重層的支援体制整備事業」がまさに必要かと思う。次期計画に向けた重点的取り込み、関係各課との連携が必要。 <p>など</p>

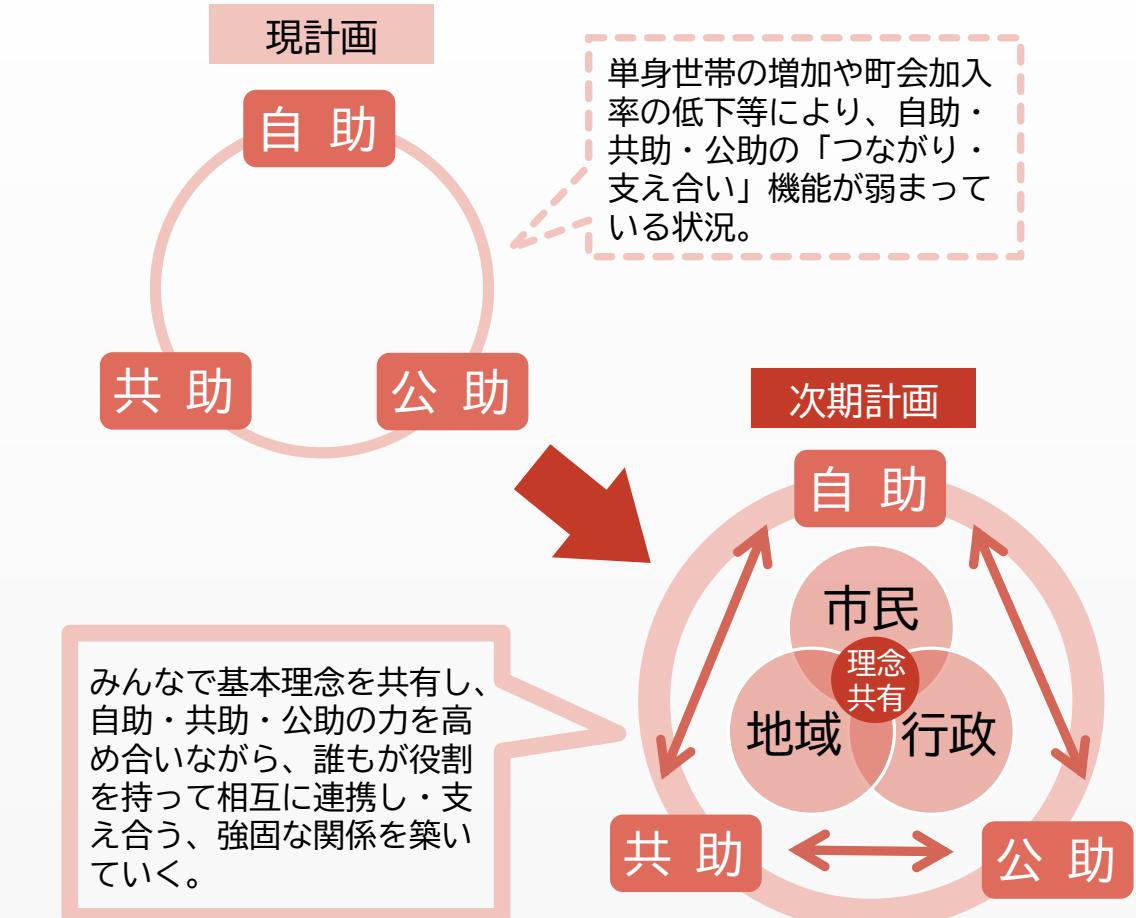
第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念（目指すべき地域社会像）

「つながり・支え合い」の輪が
広がる・広げていく まちづくり



2 地域福祉の推進イメージ



第3章 計画の基本的な考え方

3 SDGsの考え方

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、福祉部門の最上位計画である本計画においても、様々な地域課題解決に向けて、分野横断的に取り組んでいきます。



4 心のバリアフリー



本市では、一人ひとりが人間尊重の視点を大切に年齢や性別、障害のある・なし、国籍などに関わらず、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指します。



《行動の5つのポイント》

第3章 計画の基本的な考え方

5 施策のポイント

①住民等の積極的参加	地域住民を施策の対象としてのみとらえるのではなく、地域福祉の担い手として位置付けるとともに、地域住民の自主的な活動と関係諸団体及び公共的なサービスとの間の連携を図っていく。
②利用者主体のサービスの実現	一人ひとりの生活課題を総合的かつ継続的に把握し、適切なサービスが総合的かつ効率的に提供され、利用へのアクセスが阻害されないような体制を地域において構築する。
③サービスの総合化の確立	地域の身近なところで総合的な相談が受けられ、サービスの適切な利用と結び付けられる体制を整備する。
④生活関連分野との連携	福祉・保健・医療の一体的な運営はもとより、教育、就労、住宅、交通、環境、まちづくりなどの「生活関連分野」との連携が必要。

第3章 計画の基本的な考え方

6 計画の体系



※【注釈】

- 2-2-(4) 「アクセシビリティ」：誰にとっても使えるか
「ユーザビリティ」：特定の人に使いやすいかどうか
- 2-2-(5) 「UI(ユーザーアンターフェイス)」：見やすさ、使いやすさ
「UX(ユーザーエクスペリエンス)」：コンテンツ等に増えて得られる体験
- 2-2-(6) 「情報リテラシー」：情報活用能力

第3章 計画の基本的な考え方

7 計画の進捗管理（年次点検）

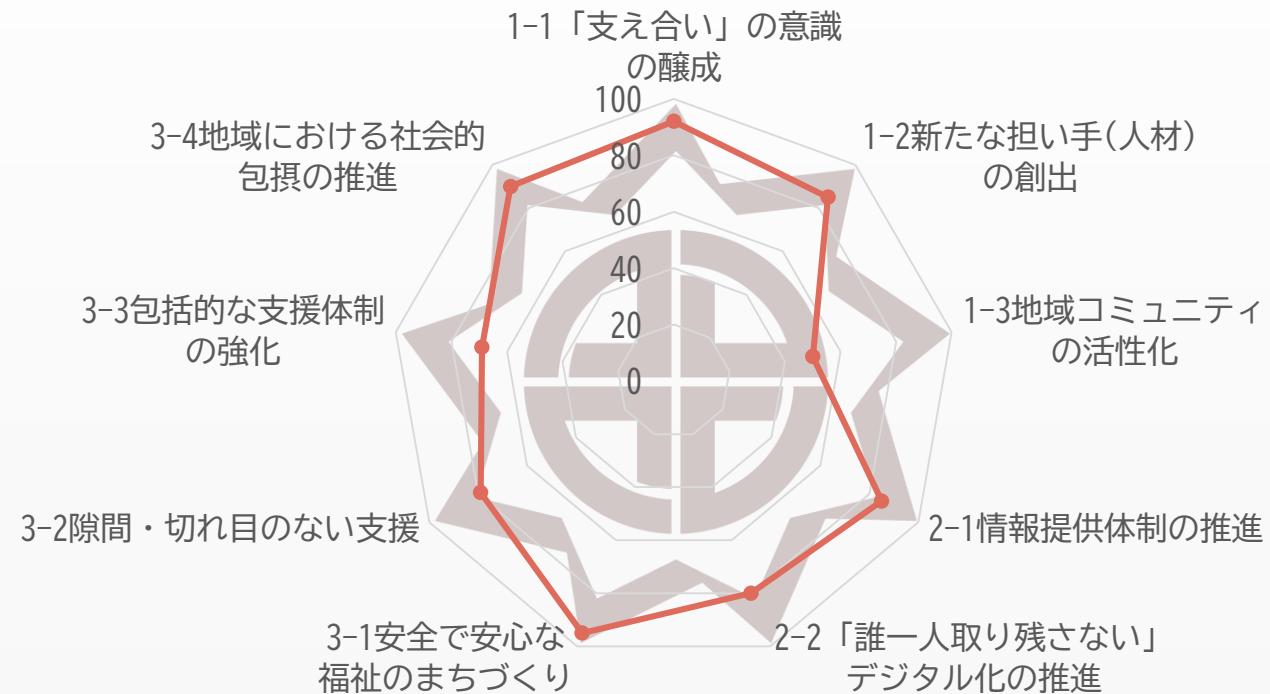
地域福祉計画における3つの基本目標と9つの基本方針に対応する各種主要事業及び取り組みについて、福島市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会において、進捗管理（年次点検）を行います。

評価基準としては、目標値を設定し、下記A～Dにより評価します。数値目標を設定できない事業などは、具体的な取組内容に関して精査し、評価します。

評価基準	達成率	達成度
A（達成できた）	75%以上	100点
B（概ね達成できた）	50%以上75%未満	75点
C（やや不十分だった）	25%以上50%未満	50点
D（不十分だった）	25%未満	25点

※まちづくりとの連動性をもたせるため、第7次福島市総合計画の策定内容によっては変更の場合があります。

本市の地域共生社会（目標達成度）



(上記図はイメージです)